

建築と社会

2006 No.1008
Architecture and Society

3

日本建築協会

特集　東海支部会員作品2006＋東海支部特集３部作

間仕切りの総合メーカー
小松ウォール

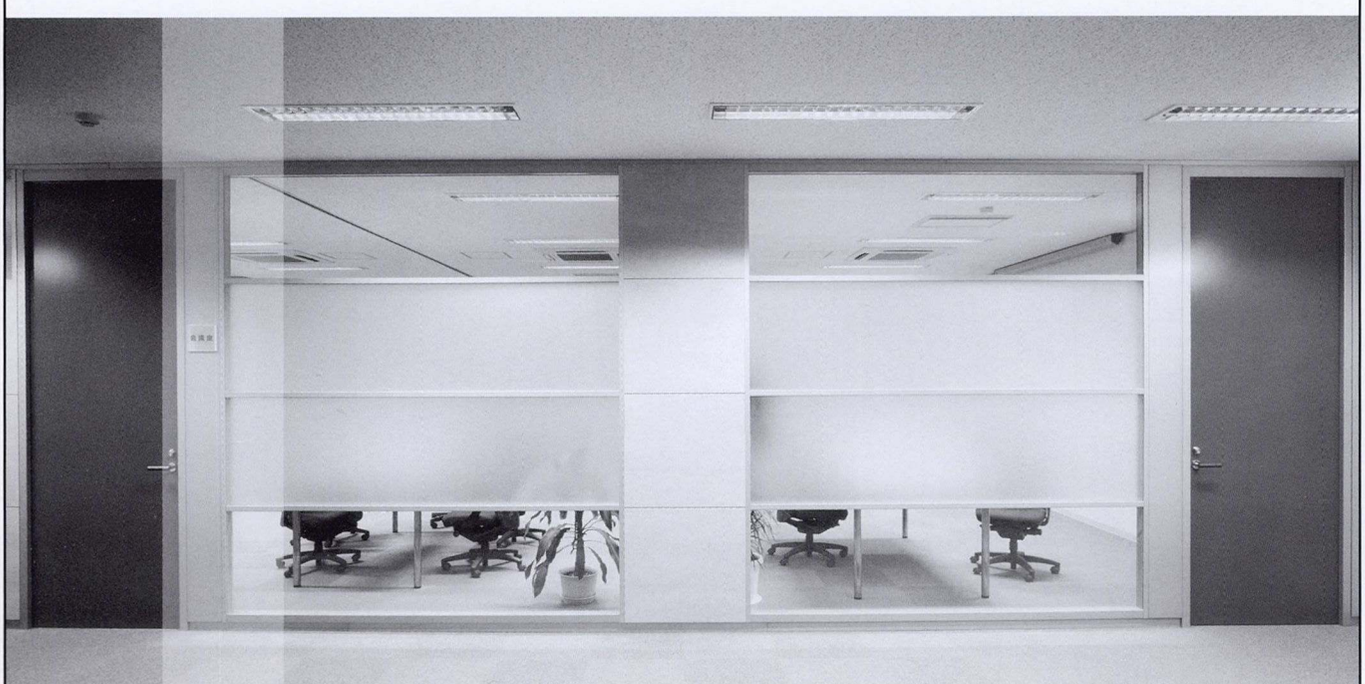


機能美があふれている。



ワイドなブロックラインと2重ガラスが
奏でる遮音の高い室内空間。
スチールパーティションの一歩先行くデ
ザインと安心を備えたパーティションを
ご提案いたします。

マイティ
MIGHTY-EV80



小松ウォール工業株式会社

本　　社／石川県小松市工業団地１丁目72番地　☎(0761)21-3131(代)
東京市場開発部／東京都千代田区一番町13-3　☎(03)3263-2771(代)
大阪市場開発部／大阪府大阪市中央区西心斎橋1-1-13　☎(06)6241-8416(代)
URL　http://www.komatsuwall.co.jp/

〈予定〉

第7回「日本建築協会賞」の募集

―この賞にふさわしい業績の応募をお待ちしております

「日本建築協会賞」は、日本建築協会創立70周年（昭和62年）を契機に創設されました。建築界における総合団体としての当協会の性格に基づき、建築にかかわるあらゆる分野において、社会に貢献した団体または個人に対し、その業績を讃え顕彰するとともに、わが国文化の向上と公共の福祉に寄与することを目的とした賞です。今回の第7回「日本建築協会賞」は、当協会の90周年（平成19年）を記念して実施するものです。

■これまでの表彰実績

昭和62年の第1回顕彰から平成15年の第6回まで、計31件の顕彰を行ってまいりました。

■応募要領

●対象

応募者は個人、団体いずれも本会会員と限定はいたしません。次の要件のいずれかに該当するものを対象とします。ただし、建築作品は除きます。

・会員（団体会員、個人正会員）が推薦、または応募したもの
・本会支部が推薦したもの
・関係官公庁、試験研究機関等が推薦または応募したもの

●募集期間

平成18年4月1日～平成18年8月31日

●応募資料

本会所定の応募様式により、ご応募ください（「建築と社会」会告頁に掲載）。なお本会ホームページ（www.aj.or.jp）にも掲載しておりますので、ダウンロードしてご活用ください。

●資料提出先

〒540-6591　大阪市中央区大手前1-7-31　OMMビル7階
社団法人　日本建築協会事務局　TEL06-6946-6981　FAX06-6946-6984
e-mail：kyoukai@aaj.or.jp

●審査

本協会内に「日本建築協会賞選考委員会」を設置して審査・選考を行い、理事会において入賞を決定する。なお、選考決定は平成18年12月末を目途とする。

●表彰

入賞者は、平成19年3月末に賞状・賞牌を贈り顕彰するとともに、会誌「建築と社会」に掲載して広く顕彰します。



「日本建築協会賞」賞牌

■第7回「日本建築協会賞」選考委員（50音順）

委員長　金多　　潔（京都大学名誉教授・元日本建築協会会長）
委員　天野　直樹（(株)竹中工務店大阪本店設計部長）
井上　　豊（大阪大学名誉教授・(財)日本建築総合試験所試験研究センター長）
上村　英彦（(株)きんでん取締役技術本部長）
片倉　健雄（元　近畿大学教授）
菊植　　潤（大阪市住宅局建築指導部長）
岨　　良政（大阪府建築都市部建築指導室長）
森井　繁夫（(株)大林組常務執行役員）
山口　祥吾（(株)日建設計常務執行役員技術監査担当）
和田　克朗（元(財)日本建築センター大阪事務所顧問）

■第1～6回の受賞実績

第1回●1987年
・日本建築総合試験所の設立と運営／(財)日本建築総合試験所・前田敏男
・技能訓練校の設立と運営／近畿電気工事・若山繁
・「季刊大林」の刊行と「復元と構想」の出版／大林組・大林芳郎
・建設業界へのTQCの導入／竹中工務店・竹中統一
・H形鋼の開発／新日本製鐵・武田豊
・大阪駅前市街地改造事業の完成／大阪市長・大島靖〈特別賞〉
・ポートアイランドの建設／神戸市長・宮崎辰雄〈特別賞〉

第2回●1990年
・大阪市の総合設計制度／大阪市長・西尾正也
・電気工事士技能競技大会の継続実施／(社)大阪電業協会・若山繁
・RC造超高層建物の建設システムの確立／鹿島建設・鹿島昭一
・大阪ビジネスパークの開発推進／大阪ビジネスパーク開発協議会
・神戸市北野、山本地区の都市景観保全／神戸市長・笹山幸俊〈特別賞〉

第3回●1993年
・「コモンシティ星田」における全地中配電方式の技術開発及び適用／関西電力・秋山喜久
・耐火鋼による無被覆鉄骨造建物の実用化／新日本製鐵・斎藤裕
・INAXギャラリーの活動とブックレットの刊行／INAX・伊奈輝三
・まちづくり会社「黒壁」の事業展開とその成果／(株)黒壁・長谷定雄
・大型美術陶板等の開発と施工法の技術開発／大塚オーミ陶業・大塚正士
・制震構造の研究とダイナミックインテリジェントビルの開発／京都大学名誉教授・小堀鐸二〈特別賞〉

第4回●1997年
・織物文化への貢献／(株)川島織物・南荘郎
・免震建物と免震効果の実証／(株)松村組・松村雄吾
・工高教育におけるCADの有効利用と普及に関する研究／秋田県立大曲工業高校教諭・黒沢一元
・膜構造建築物の技術開発とその実用化並びに普及／太陽工業・能村博正
・実験集合住宅NEXT21／大阪ガス・領木新一郎〈特別賞〉

第5回●2000年
・耐震診断及び改修計画の評定システムの策定と耐震診断の判定機構の確立／(財)愛知県建築住宅センター・角岡照一
・氷蓄熱及び躯体蓄熱空調システムの開発と普及／竹中工務店・竹中統一
・建築情報管理に関する実践と啓蒙及び一連の著作等／建築文化研究所・菊岡倶也
・永年にわたる都市・建築文化の調査研究・指導および実践により都市文化の向上とまち創りに貢献／彦根市長・中島一〈特別賞〉

第6回●2004年
・戸建免震住宅の研究開発とその実用化並びに普及／(株)一条工務店・山本庄一
・永年に亘る建築関連書籍の出版／鹿島出版会・荒井欣弥
・大阪市中央公会堂の保存と再生、活用「大正浪漫を次世代へ」／大阪市長・關淳一〈特別賞〉
・二十一世紀の都心「六本木ヒルズ」の実現／森ビル(株)・森稔〈特別賞〉

第7回「日本建築協会賞」応募用紙

整理No	

応募テーマ名称				
応募区分	団体	団体名称	代表者氏名	
		団体所在地		
		応募テーマ構成者		
		窓口担当者所属と氏名 TEL　FAX　MAIL		
	個人	氏名	生年月日	男・女
		住所（自宅）		
		勤務先・所属名 TEL　FAX　MAIL		
推薦団体名または推薦人名（推薦のある場合に記入）				
推薦団体または推薦人への連絡方法 TEL　FAX　MAIL				
【参考】応募テーマにかかる他機関等での受賞歴				

業績内容、評価など…A4判の別紙に記載も可…

参考となる資料、出版物等がある場合には、本応募用紙に添付、または別途送付下さい。なお、これらのうち返却を希望されるものについては、その旨を表示下さい。

社団法人　日本建築協会　TEL 06-6946-6981

会告

平成17年度 第2回通常総会開催

平成17年度第２回通常総会を右記のとおり開催いたしますので、ご出席頂きますようお願いします。

と　き　平成18年3月22日（水）
午後4時から4時40分

ところ　大阪マーチャンダイズ・マートビル
地下１階ギャラリー
大阪市中央区大手前1-7-31

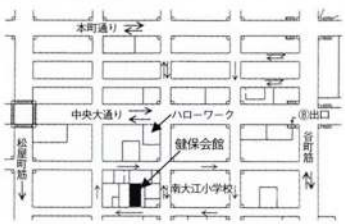
議　案　・第１号議案
平成18年度事業計画(案)の件
・第２号議案
平成18年度収支予算(案)の件

なお、開催通知は個人正会員、団体正会員あて別途送付しております。
ご欠席の場合は『返信用ハガキ』にて必ず委任状の送付をお願いします。
お問い合わせ先：（社）日本建築協会　総務課　06-6946-6981

平成17年度 建築工事実務講習会

主催　(社)日本建築協会

［※CPD対象
本講習は、大阪府建築士会及びJIAのCPD対象です(7単位)。］



地下鉄谷町線
「谷町4丁目」8番
出口下車より
徒歩5分

と　き　平成18年3月29日(水)
午前9時30分～午後5時30分

ところ　大阪府建築健保会館
6階ホール
大阪市中央区和泉町2-1-11

定　員　100名

受講料　15,000円（含テキスト代）
＊消費税を含む。
＊テキストは、当日配布させていただきます。

■趣旨と内容

- 官公庁・設計事務所・建設業をはじめ、設備・営繕など幅広い分野の有能な技術者を養成する目的をもって講習会を開催します。
- とくに取りつきにくい施工計画と、現場実務の基礎である仮設見積に重点をおき、講義します。
- また、都市環境の変化に伴う法令・規準の改正なども加え、技術の進歩に即応した知識の習得をはかります。
- 「仮設見積」では具体例により、その着工準備から完成に至るまでをわかりやすく解説します。

■申込要領

下記受講申込書に必要事項ご記入の上、受講料を添えて本会編集事業課までお申し込み下さい。（受講料は銀行振込・郵便振替でも可。但し、その場合お払込みいただく前に、必ず受講申込書を郵便かFAXでお送りください）引き換えに受講券をお送りいたします。
※定員に達し次第締め切ります。

■申込先

(社)日本建築協会
〒540-6591 大阪市中央区大手前1-7-31
大阪マーチャンダイズ・マートビル7階
TEL.（06）6946-6981
FAX.（06）6946-6984
e-mail：jigyoka@aaj.or.jp
http//www.aaj.or.jp

- 受付時間　毎日、午前９時半～午後５時半。但し、土･日･祝日を除く。
- 詳細は、事務局編集事業課へお問い合わせください。

■科目・講師

一歩踏み込んだ先手の計画!!

施工計画

有光　利治氏
鹿島建設(株)関西支店
建築部生産計画グループ長

河野　浩司氏
(株)竹中工務店大阪本店
建築技術部課長 技術担当

＊

適切な施工計画を立案できることが、建築現場技術者の必須条件です。安全で、経済的な施工計画を解説します。

計画と一致した仮設費を!!

仮設見積

阪井　聡氏
(株)大林組本店建築生産技術部
仮設見積り、施工計画ー2グループ長

＊

仮設工事費は、一般には非常に把握しにくい面があって、ついつい単位面積当たり、あるいは請負金比率のみで処理されがちです。施工計画に基づいた合理的で迅速な見積方法を解説します。

キ リ ト リ 線

平成17年度建築工事実務講習会 受講申込書

No.＿＿＿＿

社団法人　日本建築協会　御中

年　　月　　日

郵便番号	受講者氏名	年齢
所在地		
事業所名（または氏名）		
担当責任者		
電話番号		
受講料支払方法　•事務局へ持参　•現金送金　•銀行振込　•郵便振替　（いずれかに○印を付して下さい）		

※受講申込書が足りない場合は、複写して下さい。

シティプラザ大阪見学会 ―大阪府市町村職員共済組合会館―

［大阪府建築士会及びJIAのCPD対象（2単位）］

大阪府市町村職員共済組合は、その厚生施設としてホテル新大阪シティプラザを運営されてきましたが、施設の老朽化にともない場所を大阪の中心である本町に移転し、シティプラザ大阪としてリニューアルオープンされることとなりました。

この新会館は、水と緑と光にあふれたゆとりある施設構成で、利用者のための「癒しの空間」の創造をメインテーマとしており、それを印象付けるスパを外観上の特徴でもあるひょうたん型のカーテンウォールで包み、夜にはライトアップにより、大阪のまちに浮かび上がる計画としています。

また低層部に目を向けると、階段状の屋上テラスを緑化することにより、環境親和に配慮しつつ、宴会場からの眺望にこれらの緑を取り入れ、自然光の入る、ほかにはないさわやかな宴会場を演出しました。また宴会場ごとに個性をもったデザインを展開するなど、楽しさの追求も忘れていません。

アプローチからは、ゲートツリーとなる2本の大イチョウをくぐると、八百八橋を連想させる水路や滝に包まれたエントランス空間が、利用者の方々をお待ちしています。

（㈱日建設計／疋田誠二）



シティプラザ大阪パース

●建築概要

所在地	大阪市中央区本町橋58-21
建築主	大阪府市町村職員共済組合
設計監理	(株)日建設計
施工	(株)大林組
敷地面積	8,229.58㎡
建築面積	4,253.79㎡
延床面積	31,236.45㎡
構造規模	SRC造（一部S造） 地上14階、地下2階、 塔屋1階
工期	平成16年4月1日 ～平成18年4月25日
建物用途	ホテル（客室203室）

日時　2006年**4**月**15**日(土)
13：30～16：00
（13：00より受付開始）

講師　設計：疋田誠二／㈱日建設計
施工：宮嶋秀則／㈱大林組

集合　現地・シティプラザ大阪
北玄関車寄せ

定員　45名
※申込多数の場合は抽選

参加費　会員1,500円
一般2,500円
学生は各半額

申込方法　3月31日（金）までにFAX
またはEメールで、
①催し名「シティプラザ大阪」
②氏名
③会員・一般の種別
④職場名または学校名
⑤参加証送付先
（住所、郵便番号）
⑥連絡先電話番号
を明記の上、下記へお申込み下さい。

申込先　(社)日本建築協会編集事業課
大阪市中央区大手前1-7-31
OMMビル7階（〒540-6591）
TEL.06-6946-6981
FAX.06-6946-6984
E-mail：jigyoka@aaj.or.jp

常設委員会の委員及びサポーターに就任し委員会活動に活躍されませんか

日本建築協会では、現在活動している各常設委員会の活動をより活性化するため、広く会員の中から委員及びサポーターを募ります。

■応募要領

応募資格：日本建築協会の個人正会員または団体正会員に所属の方

人数：若干名（各委員会とも）

応募の記入項目：

①委員またはサポーターの区分
②住所
③氏名（フリガナ）
④生年月日
⑤性別
⑥勤務先
⑦所属団体正会員名（個人正会員は記入不要）
⑧希望委員会名(第二希望まで記入可)
⑨連絡先等（Tel/Fax/Eメール）
⑩活動の希望がある場合はその内容

応募の締切：平成18年3月22日（水）

応募方法：①～⑩までをハガキまたはFax、Eメールにて(社)日本建築協会へ送付願います。

〒540-6591　大阪市中央区大手前1丁目7-31　OMMビル7階
Fax：06-6946-6984
Eメール：kyoukai@aaj.or.jp
協会ホームページ(http://www.aaj.or.jp)からも送信できます。

■常設委員会の主な活動

・編集委員会（90人）
会誌「建築と社会」の企画・編集

・事業委員会（30人）
見学会、講演会の開催、若い会員の集いの開催

・教育委員会（20人）
建築教育の調査・研究、建築工事実務講習会の開催、工高生デザインコンクールの実施

・出版委員会（13人）
建築に関する図書の企画・編集・刊行、講座の開講

・建材委員会（14人）
建築材料の検討・新建材の紹介

（　）はH18.1.1現在の委員数

■その他

任期：2年（平成18年4月1日～平成20年3月31日）

報酬：なし（ボランティア活動）
ただしサポーターについては交通費実費のみ支給）

＊常設委員会名簿は17年7月号「建築と社会」（p.6）を参照

＊サポーターは、登録して頂き、見学会の事前準備、随行等必要に応じ、従事していただきます。

建築と社会

Architecture and Society JOURNAL OF THE ARCHITECTURAL ASSOCIATION OF JAPAN

1917年創刊　第87集　通巻1008

2006 3

今月の表紙

企　　画　中村 文紀
企画・写真・デザイン　伊藤　彰

植物と同じように、空間も光がなければ存在しない。構築される箱にどのように光を取り込み、影を創るか。空間に対する設計者の想いは、実体としての光と影の扱いに凝縮されると言えるのかもしれない。

（中村 文紀）

建物名
ヒルトンプラザウエスト

■特集予告
4月号／都市再生の本質
5月号／変容する家族形態とあたらしいライフスタイル

編集委員会（平成17年度）

■副会長　中塚 光一
井上 豊　永原 吉浩
中井 進　雛波 尚
■編集担当理事　△肥嶋 好浩
上原 正行　向井 洋一
岡田 聿之　安田 拓矢
久我 三郎　山本 健二
佐藤友美子　□設備分科会
◎設楽 貞樹　赤澤 正治
竹中 統一　△梶井 宏修
立成 良三　河井 康人
広原 盛明　河津 隆之
堀田 修二　近藤 国夫
■特集小委員会　多賀 浩三
□計画分科会　谷野 太志
★計画系　夏井 重行
飯田 匡　桝井 貴廣
鈴木 克彦　村上幸三郎
田中 直人　山下 修
高橋 和也　□施工材料分科会
辻 武之　石原 卓也
紅谷 昇平　平田 茂良
△松田奈緒子　△平野 剛
三宅 次郎　藤丸 啓一
森 康郎　山岡 篤人
守井 辰　吉田 正友
吉村 英祐　□法令分科会
★建築計画系　片岡 正和
安部 新二　野村 彰
荒木 宏之　△溝上 省二
江副 敏史　宮本 佳典
奥村 朋孝　山口 一郎
菅野 忠司　山根 正利
神戸 嘉也　■作品作風小委員会
木多 彩子　赤木 隆
楠 敦士　石塚なぎさ
△小林 優子　居内 章夫
所 千夏　井上 雅祐
野田 隆史　池上 明
桃杷 健一　稲垣 和江
松森 織江　川上比奈子
★インテリア・住宅系　倉渕奈千子
阿部 泰浩　澤田 純一
加藤 力　戸川 勝之
神谷 浩司　鞆野 淳司
黒柳 亮　○中村 文紀
高野 直樹　芳谷 晴彦
△田中 浩介　増田 敬彦
戸井賢一郎　山田 俊紀
ベリー史子　■広告企画小委員会
本山 仁　荒本 俊明
□構造分科会　今井 成年
稲田 竜也　大竹 賢次
大氏 正嗣　中井 清和
木下 隆嗣　古畑 健一
白髪 誠一　前田 衛
田渕 勝道　○渡邉 浩文
瀧野 敦夫

◎委員長　○副委員長　△幹事

印　刷　2006年2月25日
発　行　2006年3月1日
発行人　社団法人日本建築協会
発行所　社団法人日本建築協会
大阪市中央区大手前1-7-31
電　話　06-6946-6981
振替口座　00910-9-39975
印刷所　青葉印刷株式会社
(株)NPCコーポレーション
定　価　1200円〔税込〕

特集●　東海支部会員作品2006 ＋ 東海支部特集3部作

■東海支部会員作品2006
愛知大学豊橋校舎 研究館 …… 12
豊田市立巴ケ丘小学校 …… 14
同朋学園複合施設「Doプラザ 閻蔵」 …… 16
産業技術記念館10周年記念事業 …… 18
桑名信用金庫川越支店 …… 20
知多信用金庫加木屋支店 …… 22
中京テレビ放送株式会社 北館 …… 24
鈴鹿サーキット新グランドスタンド …… 26
コンチェルトタワー豊橋 …… 28
ロックシティ大垣ショッピングセンター …… 30
■街道・宿場町シリーズ
地方文化の源流を訪ねて―東海道47番目の宿・関宿―●鵜村明彦 …… 33
■東海の建築事例紹介：木造・木造仕上げ
高山市立南小学校―児童の成長を育む木造の低層校舎―●若林 亮 …… 40
子供の成長を見守る木造の保育園―嬉野保育園―●篠原佳則 …… 42
木によるおもてなしの装い―特別養護老人ホームメリーホーム大喜―●篠原佳則 …… 43
株式会社 赤福本店―古い木造建築の保存と再生―●伊東 正・因 純一 …… 44
産業技術記念館―古い木造建築の保存と再生―●伊東 正・因 純一 …… 45
■東海支部会員が語る
元気な愛知のその後●小宮三辰／福田泰造／山本敦子／篠原佳則 …… 47

会告　第5回日本建築協会賞と応募用紙.平成17年度第2回通常総会開催．平成17年度建築工事実務講習会．シティプラザ大阪見学会―大阪府市町村職員共済組合会館―．常設委員会の委員及びサポーターに就任し委員会活動に活躍されませんか …… 1

作品作風　関西医科大学附属枚方病院 …… 6
株式会社 川勝法衣店 新社屋 …… 8

gallery　天空への飛翔（大河内久子）●倉渕奈千子 …… 10

法令コーナー　京都府・京都市の違反建築に対する取り組み●野村 彰／大伴武司 …… 51

構造の頁　可変形状トラス―愛知万博可動モニュメントへの適用●井上文宏 …… 52

設楽貞雄外遊日記　霧より出て霧へ消え行く ＋ 霧の日は動物園に行こう●監修：石田潤一郎 …… 53

information　竹中大工道具館「技と心」.SDゼミ「家具を作る～ミニチュア名作家具を作ってみよう!～」.西日本トータルリビングショー.ファシリティマネジャー資格試験実力養成講座.スコットランド国立美術館展―奈良県立美術館―.写真展「夢の中からみつけた街」.「アンリ・カルティエ=ブレッソン展」―大阪芸術大学所蔵作品.「京の食文化展―京料理・京野菜の歴史と魅力―」.インテリアプランニング賞2006.名古屋デザインDO!2006コンペ.American Wood Design Awards 2006受賞作品.第9回大阪市ハウジングデザイン賞受賞作品決定.ル・コルビュジエ／モノトーンの世界.「あすなろ夢建築」表彰式と山本理顕記念講演.
第7回人間サイズのまちづくり賞.第37回中部建築賞表彰 …… 54 57

月間の動き　平成18年1月分 …… 56









作品風

監修■
日本設計

設計・監理■
竹中工務店

施工■
竹中工務店

関西医科大学附属枚方病院

計画の背景

関西医科大学は1998年、創立70周年を契機として附属病院本院を枚方市へ新築移転することを決定し、新しい医療機能の展開、患者サービスの向上、地域との連携・交流の強化を目指して計画がスタートした。敷地は枚方市市街地と淀川河川公園を繋ぐ位置にあり、工場跡地の再開発として、まちづくりの面からも良好な都市環境・都市景観の形成に、大きな期待が寄せられていた。計画にあたっては再開発地区計画やスーパー堤防事業、河川公園整備事業などと協調をはかりながら進めた。

医療機能

枚方病院は高度先進医療を提供する大学病院本院であり、病床数700床、想定外来患者数2000人／日を数え、地域医療連携の中核として救命救急機能、万一の災害時の拠点機能を担う。

空間構成

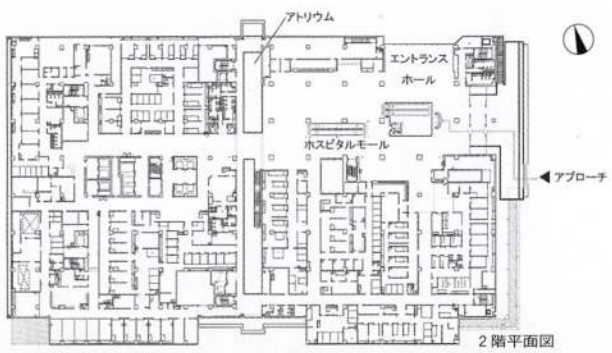
建物は低層部に外来・中央診療部門、管理・供給部門を、高層部に病棟を配置している。低層部は多岐に渡る医療機能を収容するため、およそ120m×70mの平面とし、その中央長辺方向に建物を貫通するホスピタルモール、短辺方向に4層吹き抜けのアトリウムを設けている。これによって患者さんの動線をわかりやすくするとともに、院内に明るく快適な患者さんの居場所を提供している。高層部の病棟は中央にライトウェルを設けた回廊型平面とし、わかりやすいプラン、短い看護動線、内部でも明るい作業空間を実現している。全周にバルコニーをめぐらし、病室からの眺望を確保しながら高層ゆえの恐怖感をなくすとともに、日射負荷の低減も図っている。建物全体は免震構造として安全性を高めるとともに、低層部・エントランスをまち側に、高層部、病棟を水辺側に配置して、外来患者さんのアプローチの利便性と入院患者さんのアメニティーを高めた。また敷地内に河川敷に至る桜並木の通り抜け遊歩道を整備し、患者さんのリハビリテーションのコースにもなってる。

（西村章・高橋達夫／竹中工務店）



病棟基準階平面図

所在地 ―― 大阪府枚方市新町2丁目
敷地面積 ―― 58,452.31㎡
建築面積 ―― 10,384.38㎡
延床面積 ―― 73,415.43㎡
構造規模 ―― RC造、一部S造（免震構造）
B1、13F、P2
工期 ―― 2003年3月～2005年8月
最寄駅 ―― 京阪本線・枚方市駅
撮影 ―― 古川泰造

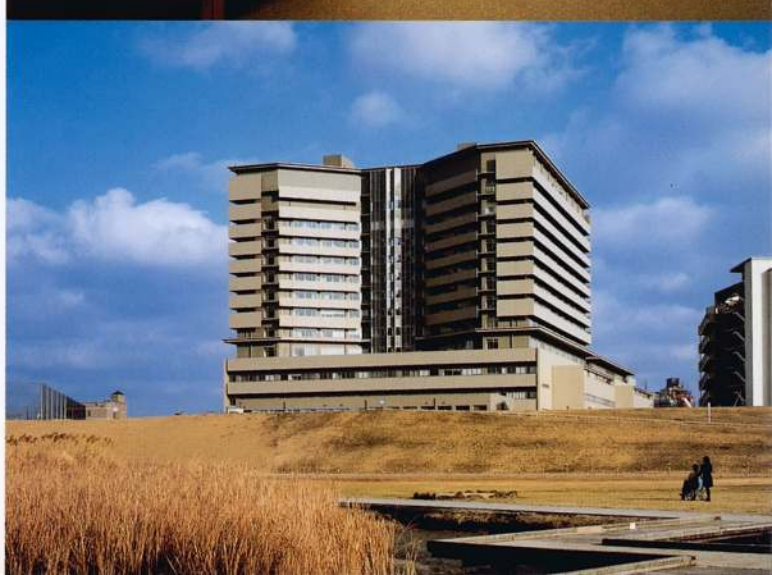


2階平面図



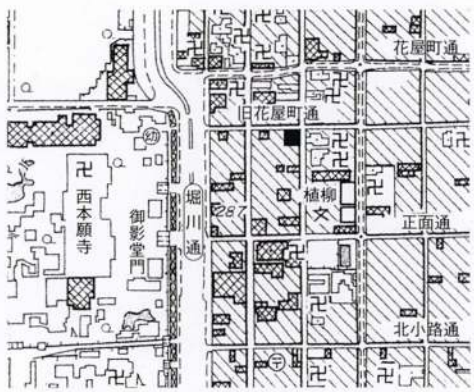












■ 株式会社川勝法衣店

作品風作

設計監理■
地域生活空間研究所

施工■
建築：藤木工務店京都支店
電気：山科電気工事
設備：新下工業

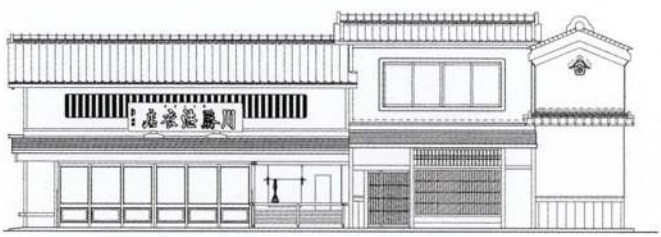
株式会社川勝法衣店 新社屋

計画建物は（西）本願寺の寺内町に位置し，京都市市街地景観整備条例における「本願寺・東寺界わい景観整備地区」内の町辻地区に指定されており、16世紀末に忽然と町化して以降、長い年月の中で培ってきた特色ある町並み景観を維持・整備する命題を負うている。設計者は、従前木造建築物の優れて歴史的な様式に驚き、保全されることを勧めたのであるが、阪神大震災における被害状況から、保全が困難であることを聞くこととなった。それではと、建物外観を記録させていただくことにしたのであるが、その作業中に全面建て替えの設計を依頼されることとなった。

新店舗は、町屋がもつ通り庭と当地区の特徴的な外観様式である「見世づくり」を継承している。店舗に一歩足を踏み入れると、以前同様に24帖の店頭ステージがあり、その奥は事務スペースである。なじみのお客さまは以前からの見慣れた光景と同じで、ほっとされる方が多い。従前にもあった和室と庭は形や姿を変えて設けた。その際、和室は床脇のしつらえを再利用したし、庭も多くの石を再利用した。お客様は庭についての知識も豊富であることから、造園は店主の気合いとリードで完成したものである。

（上林研二／地域生活空間研究所）

※設計監理：上林研二・額田泰子　建築工事：櫻木稔彰・長内宏樹・中川　昇



旧店舗正面立面図

所 在 地 ——京都市下京区東中筋花屋町下ル柳町
敷地面積 ——470.91㎡
建築面積 ——375.52㎡
延床面積 ——949.61㎡
構造規模 ——S造、3F
工　　期 ——2004年12月～2005年11月
最 寄 駅 ——JR東海道線・京都駅
撮　　影 ——数近プロ（数近雄治）









gallery

天空への飛翔

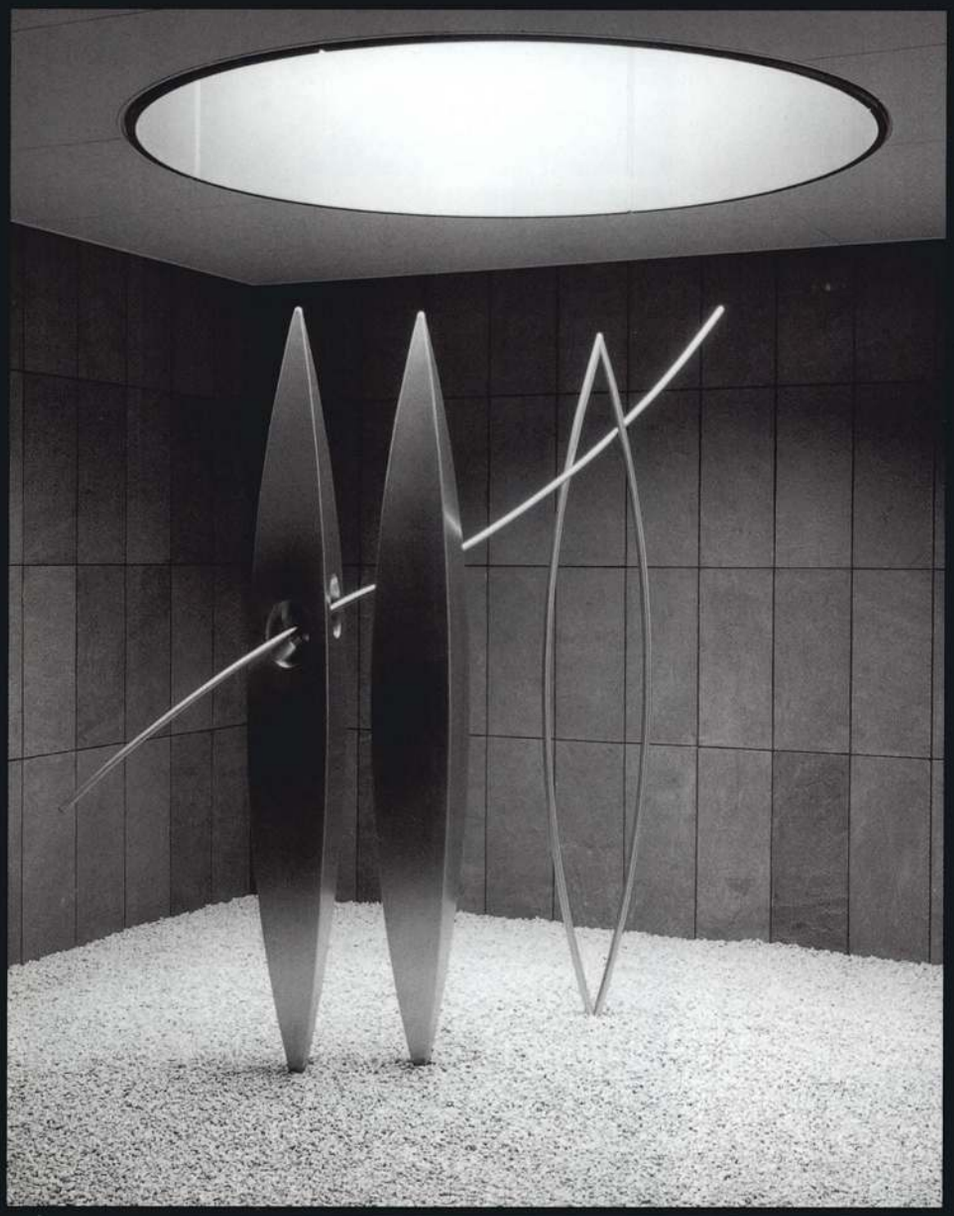
彫刻家
大河内久子

都市や街に挑戦する作品ではなく、まわりの環境を取り込むような開かれた空間を感じる作品を創っていきたいと思います。簡潔な形の中にすがすがしい爽やかな風、心象風景である詩的な時を感じとってもらえればと思います。

「天空への飛翔」　1999

魂が天空へ飛翔していくさまです。旅立つ人の行方に思いを至ってほしいと思います。

W2175 H2080 D700 ステンレス 堺市立斎場





おおこうちひさこ
大河内久子

1954　和歌山に生まれる
1979　京都市立芸術大学工芸科陶磁器専攻卒業（八木一夫に師事）
パブリック・プライベート　コレクション
1991　浮遊するパイプ　市川ビル 東京都
1999　天空への飛翔　堺市立斎場
2003　線の詩　RISE 88 大阪市

写　真　林　義夫
企画編集　倉渕奈千子（作品作風小委員会）

東海支部会員作品2006

愛知大学豊橋校舎 研究館
豊田市立巴ケ丘小学校
同朋学園複合施設「Doプラザ 関蔵」
産業技術記念館 10周年記念事業
桑名信用金庫川越支店
知多信用金庫加木屋支店
中京テレビ放送株式会社 北館
鈴鹿サーキット新グランドスタンド
コンチェルトタワー豊橋
ロックシティ大垣ショッピングセンター

東海支部「建築と社会」特別編集委員会
委員長：松本壮一郎
特集記事担当副委員長：林　金之　　同担当委員：今津芳清・中村嘉男
作品作風担当副委員長：土井敬三　　同担当委員：植田　明・若林　亮
デザイン広告担当副委員長：佐伯　博　　同担当委員：小宮三辰・鈴木慶智
委員：伊藤武夫・石動勝信・尾崎武寛・川村秀則・北川貴啓・黒田清宏・後藤利秋・篠原佳則・杉澤和男・鈴木道雄・仙田　篤・寺本英一・中村哲士・野崎　勉・福田泰造・別所裕之・松元親司・水川善雄・宮崎博民・森田富士男・山本敦子・芳山明久

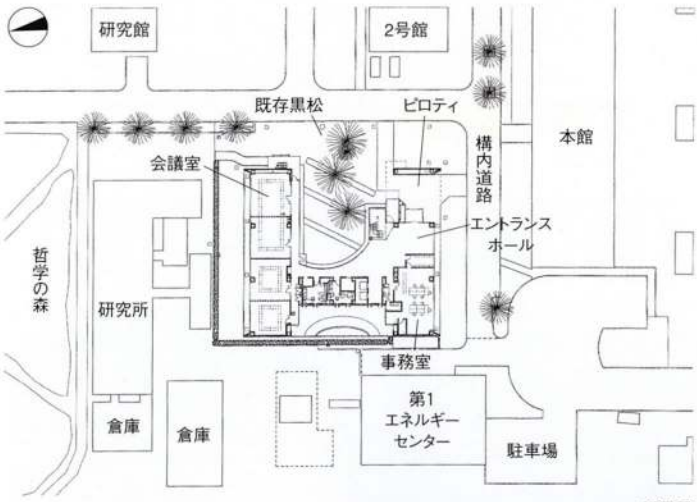


愛知大学豊橋校舎 研究館

設計監理　安井建築設計事務所
施　　工　竹中工務店

愛知大学豊橋校舎「研究館」は、既存研究館の老朽化、狭隘化をうけ次の時代へ「知」を継承していくための施設として計画された。
建設用地内には、愛知大学豊橋校舎の開学以来の歴史を見つめてきたであろう樹齢100年を超える３本の黒松があり、この松をそのまま残し、そして松を取り込んだ新たなランドスケープとして活かしていくためにそれらを取り囲むコの字のプランとして計画した。
３本の黒松が中庭の中心に位置することで、大学の歴史の象徴として、研究館のコミュニティの象徴として、人々の心に刻まれる心象風景となるよう計画した。
この黒松のある中庭に面して廊下や共用部分を配した片廊下型として、従来の中廊下型にはない明るさと開放感を実現した。また、松を様々な視点から眺めることができるようになり、それまでにはなかったダイナミックなランドスケープを創出した。
中庭に面するコミュニティコーナーは、学生とのミーティングや先生同士の交流など新たなコミュニティを生み出す場として計画した。
研究館は地上８階建てで豊橋校舎内で最も高層の建物となることから、前面道路となる国道などに対してアピールすることの出来る様、屋上部分をシンボリックなゲート状のデザインとし、愛知大学へいざなう「知」のゲートとしてイメージした。
空調負荷を低減するために、南北面は夏季の日射をカットする彫りの深いグリッド状のファサードとした。このグリッドは、各研究室のアイデンティティを表現すると共に、視線や遮音などのプライバシーも確保している。

（益田正博／安井建築設計事務所）



配置図



所 在 地　愛知県豊橋市町畑町1-1
敷地面積　160,629.05㎡
建築面積　　702.91㎡
延床面積　　5,461.29㎡
構造規模　S造、8F
工　　期　2004年７月～2005年７月
最 寄 駅　豊橋鉄道・愛知大学前駅
撮　　影　アーキフォトKATO









豊田市立巴ケ丘小学校

設計指導　名古屋市立大学：鈴木賢一、千葉大学：柳澤　要
監　　修　建築計画連合
設計監理　豊田市都市整備部営繕課、伊藤建築設計事務所
施　　工　近藤・アイシン特定建設工事共同企業体
施工協力　末永製作所（大断面集成材・木工事）
　　國六工業（特殊フローリング工事）
　　トーエネック（電気設備工事）
　　マルコ（給排水衛生設備工事）
　　東朋空調システム（空調・換気設備工事）

所 在 地　愛知県豊田市大桑町別当56
敷地面積　28,976.45㎡
建築面積　4,102.84㎡
延床面積　4,708.32㎡
構造規模　RC一部W、2F
工　　期　2004年7月～2006年3月
最 寄 駅　市営バス三河湖口
撮　　影　加藤敏明




全景

巴ケ丘小学校は旧下山村（平成17年４月豊田市と合併）の東部地域の５つの学校を統合して新設（平成18年４月開校）された。下山地区は林業が盛んで、地元産材のヒノキやスギを使った木造校舎を造りたいという要望が出され、さまざまな課題があった。

防火対策　この規模の建物は準耐火建築物としなければならないが、普通教室棟と特別教室棟を別棟とする（防火区画をする）ことで、普通教室棟を木造とした。また木造部分では防火区画（1000㎡以下）を設ける必要があり、鉄筋コンクリート造のコアを木構造の教室棟の間に挟むことで解決した。この部分には遮音性や耐水性が必要な階段、トイレなどを配置し、構造的には桁行き方向の水平力をこのコア部に負担させている。

地域産材の使用　地元産の木を使うために材料の加工時期に合うように、柱・梁の構造材は地元森林組合が工事発注の前年度の秋から伐採を始め、粗挽き・乾燥を行い、翌年度に材料を供給した。また、内装材にも多くの地域産材を使用している。特にヒノキについては表面が比較的柔らかいため床には不向きとされているが、圧密加工を施すことで表面の硬度を上げ、床板にも採用した。

愛知万博の木材の再利用　瀬戸愛知県パビリオンの仮設部分の外壁や床に使われた材料は下山産材で、万博閉幕後この校舎の外壁・手摺壁・床デッキなどに再加工して利用した。材料の規格や再施工時期の調整を設計時から行う必要があった。

地元の木で造られた校舎は、適切なメンテナンスにより寿命が長く、年とともに味わいを増すもので、地域の人々にとって身近で誇りの持てる学校になればと願っている。

（澤村喜久夫／伊藤建築設計事務所）



配置図　1：3000


ワークスペース


廊下（２階）


屋内運動場



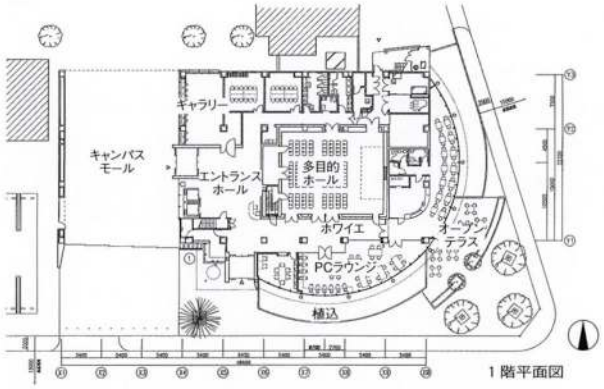


同朋学園複合施設「Doプラザ　閲蔵」

設計監理　安井建築設計事務所
施　　工　大林組

学校法人同朋学園は創立から約180年を数え、その歴史と伝統を現代に再生すべく今回の複合施設に、同朋学園の起源でもある「閲蔵長屋」に由来した「Doプラザ　閲蔵」という名を命名した。
施設構成は、1階に多目的ホール、喫茶、メディアラウンジ、ギャラリーなど様々な交流を促す地域開放も視野に入れた施設、2階に仏教文化研究所、情報センターなどの学園の共用施設、3～5階に当施設の中核となる同朋学園大学部附属図書館からなる。これらに加え、従来からあった同朋学園の正門にかわる新たな正門＝キャンパスモールを取り込んだ計画とした。複合施設が同朋学園と地域を結ぶ施設として、学園の顔となり、地域のランドマークとなる様、逆円すい形状のガラスカーテンウォールによる個性的で印象的な外観を持つ建物とした。また、学生たちにより多く利用してもらうために、ビビットな色使いや大胆なサイン計画、アクセントとしての木製素材、ガラスによる透明感のある内外装など若者の感性に訴えかけ、若者が共感できる様な「おしゃれ」で「かっこいい」空間とした。
新たな正門となるキャンパスモールの大開口を設けることで、キャンパス内へ採光や通風を導き入れ、明るく快適なキャンパス空間となるよう計画した。また、広がりがあり透明感のあるこのゲート空間は地域とのインターフェースの場になり、学園祭時などはイベント空間にもなる多彩な空間として計画した。
キャンパスの東南角にあたる今回の計画は、幹線道路の交差点であり、市バスを主要な交通手段とする学生や地域の方々の動線の交差点でもある。その東南角に円弧状の建物を配し、交差点に面する部分を公開空地状に地域に開放することで、地域とより深く関わっていこうという同朋学園の姿勢を表現している。

（益田正博／安井建築設計事務所）



1階平面図

所 在 地　名古屋市中村区稲葉地町7-1
敷地面積　33,986.98㎡
建築面積　1,528.98㎡
延床面積　4,841.83㎡
構造規模　S造、5F
工　　期　2004年9月～2005年9月
最 寄 駅　名古屋市営地下鉄東山線・中村公園駅
撮　　影　滝田フォトスタジオ






産業技術記念館10周年記念事業

設計監理　竹中工務店設計部
施　　工　竹中工務店



上ーガレリア：レンガと鉄とガラスで構成されたエントランス。レンガ壁は大正期のものを保存。
下ー鳥瞰：のこぎり屋根とレンガ壁による建築のフォルム。右上部が今回造増築部分。

トヨタグループ13社が共同運営する産業技術記念館の10周年記念事業として実施された増築・改修計画。同館は1911年設立のレンガ造工場を再生・活用した博物館で、繊維と自動車という日本を支えてきた二大産業の歴史を通じて、産業と技術の変遷を見通すことができる。

増築にあたっては、「産業考古学、建築史両面から評価の高い構築物を産業遺産として保存しながら、社会へ貢献する」という設立時のコンセプトを踏襲、「旧豊田自動織布工場」のフォルムを継承したノコギリ屋根と既存レンガ壁を活用し、大正期以来の「場」のイメージを保存している。

大正期の工場を再利用した木造柱の林立する「繊維機械館」、及び現代工場の合理性をモチーフとした大空間の「自動車館」では、原寸大の展示物を体験しながらモノづくりの世界に触れることができる。さらに、豊田喜一郎による自動車産業黎明期の研究の様子を再現し、「研究と創造の精神」を後世に伝えるため、建屋内に昭和初期の木造工場の一部を移築した。100年の時間軸にわたる空間・素材・技・想いを連続して感じることのできる施設である。

（因　純一／竹中工務店設計部）



自動車のしくみと開発・生産技術の歴史を展示する「自動車館」。



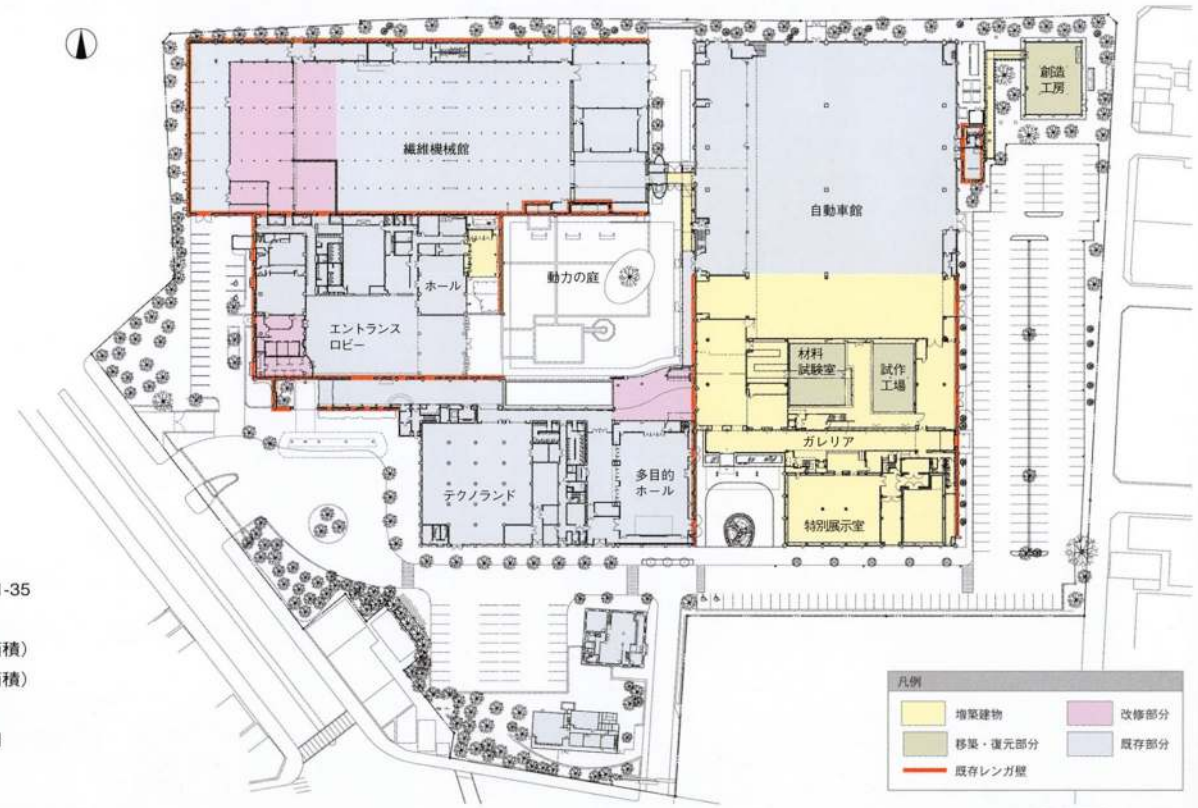
「材料試験室」1934年設立。自動車材料の試験・研究のため施設を建屋内に移築。



「試作工場」1934年設立。建屋内に移築し、初の乗用車「トヨダA1型」試作の様子を再現。



創造工房「旧鉄工場」1926年設立。レンガ造からＲＣ造への過渡期の工場建築を復元。



1階平面図　1：2000

所 在 地　名古屋市西区則武新町4-1-35
敷地面積　41,596.82㎡
建築面積　5,037.59㎡（今回増築面積）
延床面積　6,814.18㎡（今回増築面積）
構造規模　SRC、S、F2
工　　期　2004年1月～2004年12月
最 寄 駅　名古屋鉄道・栄生駅
撮　　影　吉村行雄・滝田良彦

外観北面全景

桑名信用金庫川越支店

所 在 地　三重県三重郡川越町大字豊田字天神354-6
敷地面積　741.00㎡
建築面積　293.25㎡
延床面積　432.70㎡
構造規模　S造、2F
工　　期　2004年９月～2005年９月
最 寄 駅　近畿日本鉄道名古屋線・富州原駅
撮　　影　エスエス名古屋・アーキフォトKATO

設計監理　伊藤建築設計事務所
施　　工　清水建設名古屋支店

外観北面



外観南面

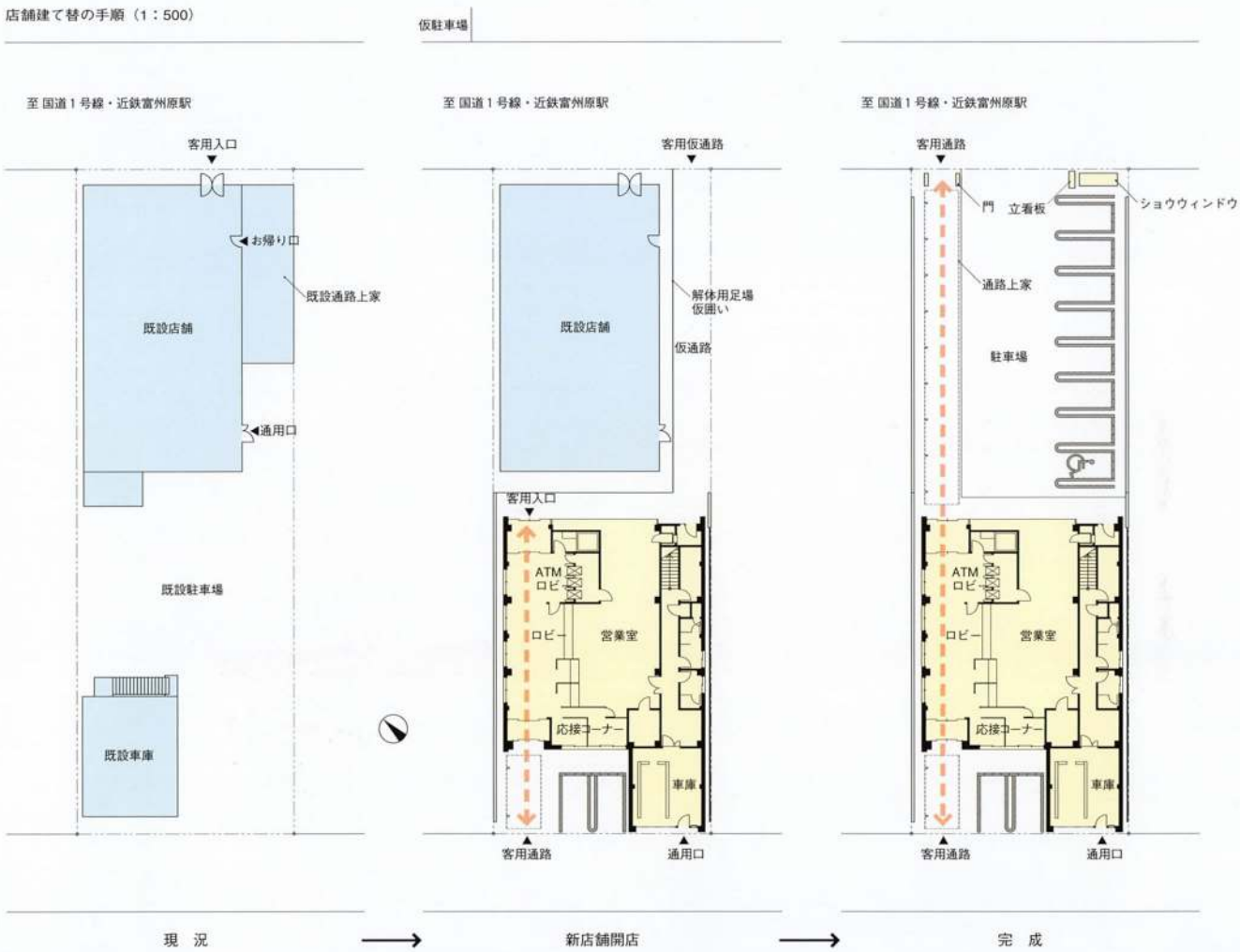


桑名信用金庫川越支店は「くわしん」第４番目の店舗として昭和35年に開店し、その後昭和40年に現在の地に移転した店舗であるが、老朽化と耐震上の問題で以前より建て替えが望まれていた。既存敷地は南北が道路に面しており北側は店舗、南側は駐車場として利用されていたので新店舗は既存駐車場に建設し、既存店舗を取り壊して新たな駐車場とすることで必要な規模を確保することが可能であった。これは仮駐車場を必要とするが仮店舗は必要ないので仮設費用を節約できること、既存店舗を営業しながら工事ができるので引っ越しが一度で済むなどのメリットがある。さらに場所が替わることによる顧客離れの心配が無いことから既存敷地内での建て替えとなった。

顧客は国道１号線と近鉄富州原駅に通じる北側道路と、古くからの住宅地に続く南側道路からの来店となるため、北玄関、南玄関を設置しロビーで結ぶこととした。これは時間外や休日営業時にロビーを解放することになるのでいたずらなどが懸念されたが、金融機関店舗として来客の利便性を最優先しこの平面計画が採用された。

新店舗は道路より奥まった配置となるため来客誘導のキャノピーを設置し、特に北側は門・立看板・ショウウィンドーを道路に沿って設置し周辺の家並みに揃えるよう工夫した。　（渡邉國雄／伊藤建築設計事務所）

店舗建て替の手順（1：500）



ロビー（時間内）



ロビー（時間内）





知多信用金庫加木屋支店

設計監理　伊藤建築設計事務所
施　　工　七番組

新築移転にあたって、クライアントより出されたコンセプトである、〈地域との協調〉、〈顧客満足度の向上〉、〈働き甲斐のある職場〉を具現化しつつ、ISO14001を取得している知多信用金庫として環境面に配慮した建物とした。

敷地は３方を道路に囲まれ、交通のアクセスはよいが、東西方向に約1.5mの高低差があった。そのため店舗を西側、駐車場は東側とし、その高低差を吸収しながら、地域に開放されるポケットパークを駐車場と店舗入口をつなぐ形で配置した。

建物は西側にロビーを配置し、開口を大きく取ることで明るく開放的な店舗空間としている。夏場の西日対策としてロビー西側のショーウインドー部分を２重サッシとして、内部の熱を外に排出して内部への熱負荷の低減を図っている。

ポケットパークは、人通りの多い交差点側に配置し、ヤマボウシやハナミズキなど若葉や花を楽しむことができ、利用者に憩いの場を提供している。

床は透水性インターロッキングを採用し利便性を確保しながら環境負荷低減にも寄与している。

（冨田昌志／伊藤建築設計事務所）



配置図

所 在 地　愛知県東海市加木屋町1-115
敷地面積　1,363.12㎡
建築面積　392.35㎡
延床面積　652.58㎡
構造規模　S造、2F
工　　期　2005年５月～2005年12月
（11月21日開店）
最 寄 駅　名古屋鉄道河和線・南加木屋駅
撮　　影　センターフォト



交差点から支店をのぞむ



駐車場からポケットパークをのぞむ


ロビーの西側のショーウインドーは、２重サッシと内部換気により熱負荷低減を図っている

中京テレビ放送株式会社
北館

設計監理　伊藤建築設計事務所
施　　工　大林組名古屋支店



所 在 地　名古屋市昭和区高峯町132番地
敷地面積　1,225.20㎡
建築面積　　365.70㎡
延床面積　1,216.04㎡
構造規模　RC造、B1、2F
工　　期　2005年３月～2005年11月
最 寄 駅　名古屋市営地下鉄名城線・八事日赤駅
撮　　影　アーキフォトKATO

右上：外観南面
右下：外観西面
左　：玄関





中京テレビ放送は開局35年を迎えた名古屋に本社を置く広域のテレビ放送局である。中京テレビ放送では、去る2003年12月１日全国に先がけ開始された中京地区地上デジタル放送に向けての施設整備を、全て本社の既存建屋内において対応してきたが狭隘化は否めず、より安定した電源を確保すること、不足している関連会社の事務室や会議室を確保することが急務となり、これらを解消することを目的に本社北側の離隔地に北館が建設された。

建設地は第一種低層住居専用地域のため事務所の建設は原則として認められていないが、路上駐車一掃の努力と良好な住環境を害さない提案が認められ、建築基準法に基づき建設の許可を得ることができた。具体的にはコンクリート擁壁の前に植樹帯を設けるとともに現状地盤を切り下げて低くすることで今までよりも道路は広く感じ、圧迫感が少なくなったなど周辺の環境は良いものとなった。

建物は緩やかにカーブした道路に沿ってカーテンウォールとし、その他の外壁は既存建屋に揃えた練り込み薄釉薬の小口タイル貼りとした。また空調負荷軽減策としてLow-eガラス、屋上緑化を採用した。地下階はVTRの保管庫、１階は関連会社の事務室、２階は会議室を配置した。

（渡邉國雄／伊藤建築設計事務所）



配置図　1：1200

会議室より本社を望む



玄関









鈴鹿サーキット新グランドスタンド

設計監理　竹中工務店設計部
施　　工　竹中工務店

所 在 地　三重県鈴鹿市稲生町7992番地
敷地面積　1,348,315.31㎡
建築面積　1,634.06㎡
延床面積　4,469.83㎡
構造規模　S、SRC、5F
工　　期　2005年2月～2005年9月
最 寄 駅　近鉄白子駅
撮　　影　加藤敏明



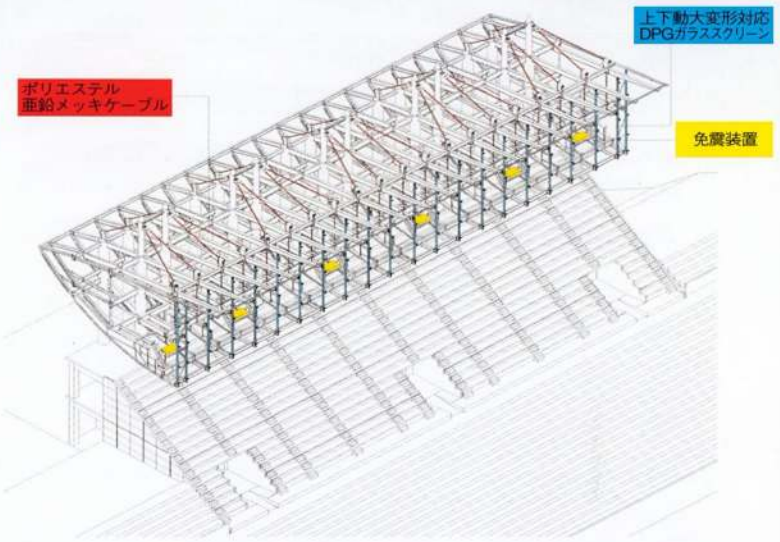


鈴鹿サーキットの新しい顔となるグランドスタンド。既存スタンドの延長と上部にスタンドの雨除けを兼ねた展望観客席を設ける事が主な機能である。また、将来はメインスタンド全体（幅４倍）に拡張可能な計画となっている。従来の展望観客席はテーブル席の前に観客席があり、視界が悪いと感じていたため２層構成とし、より臨場感をもって観戦できるように工夫した。また、観るという行為にちなんで「目」をイメージしたかたちとし、ひと目で鈴鹿サーキットとイメージできる特徴ある造形とした。瞳の部分に目的空間を配し、宙に浮かんだ断面の残りの部分には諸室や空調機械がぎっしり詰まった乗り物に近いような建物となった。

視界の妨げとならないように12mごとにならんだ４本柱から15m跳ね出し、窓際に主架構のない吊構造とした。また、U字型のメインフレームを３mごとに設け、リズム感を表現した。２層構成の中段の床はマストから吊り下げ、下段の床は９m跳ね出した構造となっている。このため、床下に制振装置を設置した。跳ね出し先端に取り付く観客席のガラスファサードは下部スタンドへの安全性からスチールマリオンとし、最大200ミリの大変形を吸収できる仕掛けが施されている。

テクノロジーと人間の能力の限界に挑むF１の戦いの場にふさわしい建築として、この巨大な「目」が人々に長く記憶される存在であってほしいと願っている。

（中屋隆史／竹中工務店設計部）





1：全景　4：5F観覧席
2：アプローチ　5：4F観覧席
3：F1開催時　6：西側外観





全景（南面）

夜景



所 在 地　愛知県豊橋市広小路2-9-1
敷地面積　2,024.65㎡
建築面積　1,258.43㎡
延床面積　14,384.76㎡
構造規模　SRC、B1F、18F
工　　期　2003年10月～2005年７月
最 寄 駅　JR豊橋駅・名鉄豊橋駅



住宅エントランスゲート



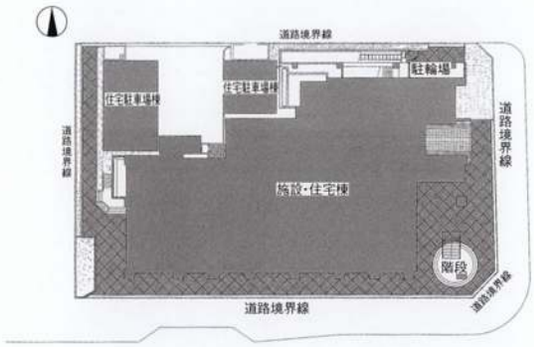
店舗ファサード

コンチェルトタワー豊橋

設計監理　東畑建築事務所名古屋事務所
施　　工　大林組名古屋支店

本プロジェクトは、JR豊橋駅より徒歩６分、豊橋市の中心商店街の一画、ダイエー豊橋店の跡地に計画されたものである。
本建設地が位置する広小路地区は、市の中心市街地活性化基本計画において、「回遊型商業ゾーン」及び「モダンカルチャーゾーン」として位置付けられ、新しい都市文化の発信拠点として、魅力ある商業空間の集積と共に居住人口回帰の先導的役割を担うための都心居住空間の整備が求められており、早期の事業化が期待されていた。
優良建築物等整備事業に採択されたこの事業は、広小路地区はもとより、豊橋市市街地においても魅力ある都市景観を形成し、市のランドマークとしてこの街の人々にも親しまれることを目指した商業複合型マンションプロジェクトである。
敷地は、広小路商店街を形成する広小路通りに南面し西側を除く三方道路の角地で、南及び東側では建物を歩道から約３mセットバックさせ、また、西側には隣地境界に沿って人が自由に通り抜けできる小路（整備事業採択条件のひとつ）を設けており、これらが街並みにゆとりと開放感を生み出している。
建物は１～２階低層部を権利床としての商業施設、３階以上の中高層部を共同施行者であるセキスイハイム東海(株)並びに中部ガス不動産(株)の保留床としての分譲住宅とし、多様な都心生活者に対しバラエティに富んだ住戸タイプを設定している。
住宅の共用部は、１階エントランスにはコンシェルジュカウンターを設け様々なフロントサービスに対応し、２階集会室にはプライベートシアターとしての利用も可能なシアター設備を装備、17階には親戚や友人のもてなしができるゲストルーム、最上階の18階には気の合う仲間を集めてのパーティなどに利用できるスカイラウンジなど、この地域では他に例を見ない充実した付加価値を提供している。
外観は、１～２階店舗部分はジェットバーナーと磨きという異なるテクスチュアーの御影石（リビエラピンク）で模様張りし、３階以上の住宅部分はプレーンでモダンな三色（白、緑、オレンジ）のモザイクタイルを張り分け、路面電車の走る街、石畳の舗道の街、デザインされた街路灯の灯る街…等々、お洒落な街豊橋との調和を図りながら、明るさや華やぎを演出する都心活性化のシンボルをめざしている。

（森　永司、長谷恭典／東畑建築事務所）





スカイラウンジ



ゲストルーム



▲コンシェルジュカウンター

▼エントランス




MaxValu
SUPERMARKET
マックスバリュ
スーパーマーケット




EAST
LOC
au

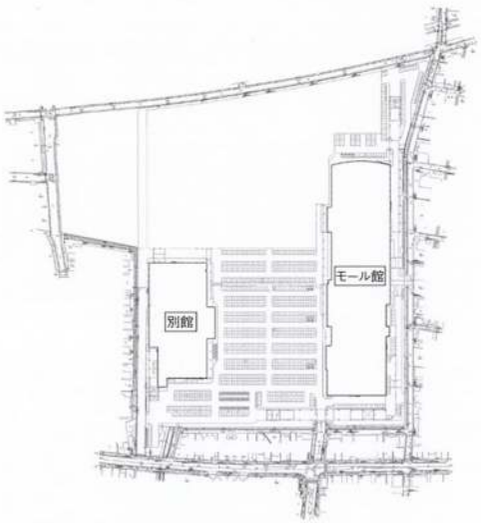

LOC CITY WEST

ロックシティ大垣ショッピングセンター

基本設計・施工監修　東畑建築事務所 名古屋事務所
実施設計・施　　工　大本組 名古屋支店
　　大和ハウス工業 名古屋支社

本ショッピングセンターは昨年４月に約23年間の営業を終えた「ジャスコシティ大垣ショッピングセンター」跡の敷地を拡張し、EAST棟・WEST棟の２棟からなる新たなショッピングセンターであり、ひとつの核店舗と大型専門店を含む80店舗の専門店街からなる大型ショッピングセンターである。
敷地は岐阜県の大垣市、JR東海道線・大垣駅から東へ約１kmに位置する。
敷地南面は幹線道路に接続し、北面はJR東海道線に面しているが東・西面は住宅・社宅に隣接しているため、自然の木々や緑をふんだんに配置するなど潤いある空間づくりの配慮。さらに、体の不自由な方・お子様連れの方・お年寄りの方など、全ての利用者が気持ちよく本ショッピングセンターを利用できる様、ユニバーサルデザインの商業施設として、人に優しいハートビル認定の建物である。
環境への配慮として、壁面緑化・透水性舗装などのヒートアイランド対策にも積極的に取り組んでいる。

（若園慎次／東畑建築事務所）



所 在 地　岐阜県大垣市三塚町丹瀬463-1
敷地面積　64,161.49㎡
建築面積　28,241.50㎡
延床面積　58,127.60㎡
構造規模　S、3F（EAST棟）、2F（WEST棟）
工　　期　2005年１月～2005年７月
最 寄 駅　JR東海道線・大垣駅
撮　　影　銀総

協　賛　キノシタコーポレーション
　　三建産業
　　阪和興業名古屋支社
　　大丸興業
　　豊島
　　杉山タイル
　　ミヤムラ
　　坂本工業
　　名東産業
　　牧添業務店
　　三和シャッター工業
　　木村硝子店
　　後藤塗装
　　エフ・ケイ・シー
　　斫木村







東海支部特集3部作

1部―街道・宿場町シリーズ　2部―東海の建築事例紹介　3部―東海支部会員が語る

前回まで、東海支部特集として取り上げてきました“地方シリーズ”は、最近の愛知・名古屋特集を含め12回を数えましたので、一応の区切りとすることとし、新たなシリーズとして、東海北陸地方の街道・宿場町の古い町並みの紹介をすることにします。

この地方でも、古い街並みの保存・修景活動は、一時期のブームの影響というばかりでもなく、わが町の伝統的な歴史文化的価値の継承の重要性の認識から、自治体や地域住民の主体的な取り組みがなされ、貴重な遺産として、また、町おこしのための活性化の一環として、おのおのの地域の個性を育む結果へと結び付けている。

そんな古い街並みへの住民の思いや保存活動の経緯は、その町づくりの記憶であり、そして歴史的な街並みの変遷や特色について知ることは意義深いことと考えます。

第一回は街並み保存として比較的古く、高く評価されている「関宿」を取り上げます。

また、東海地方における建築で、特に注目される建築事例を、空間デザイン、計画技法、建築工法、材料、設備などの視点から数例取り上げ紹介します。今号は第一回として「木造・木造仕上げ」をテーマに取り上げました。

さらに、東海支部会員がこの地方の万博後のあり様を思いを込めて語る座談会、という３部構成となりました。

この特集には、お忙しい中、ご執筆を頂きました方々をはじめ、多くの方のご支援ご協力を頂きました。深く感謝します。

（東海支部特別編集委員会）

〔街道・宿場町シリーズ〕

地方文化の源流を訪ねて―東海道47番目の宿・関宿／鳴村明彦

〔東海の建築事例紹介：木造・木造仕上げ〕

高山市立南小学校―児童の成長を育む木造の低層校舎―／若林　亮

子供の成長を見守る木造の保育園―嬉野保育園―／篠原佳則

木によるおもてなしの装い―特別養護老人ホームメリーホーム大喜―／篠原佳則

株式会社 赤福本店―古い木造建築の保存と再生―／伊東　正・因　純一

産業技術記念館―古い木造建築の保存と再生―／伊東　正・因　純一

〔東海支部会員が語る〕

元気な愛知のその後／小宮三辰／福田泰造／山本敦子／篠原佳則

地方文化の源流を訪ねて

—東海道47番目の宿・関宿—

嶋村明彦

関宿は、東海道53次の江戸から数えて47番目の宿場町で、三重県の西北部、鈴鹿山脈の東麓にある亀山市に所在する。東海道の難所のひとつ鈴鹿峠を控え、古来交通の要衝として栄えてきた。東海道の宿場のほとんどが旧態をとどめない中にあって、唯一往時の町並みが残っていることから、昭和59年（1984）、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定され、その保存整備が進められている。

町並み保存事業は、昭和55年（1980）、合併前の関町において始められた。関宿が旧関町の中心市街地であることもあり、まちづくりの中核的事業として取り組まれてきた。平成17年1月11日、旧亀山市と旧関町との合併による「新亀山市」の誕生により、現在は新亀山市に引き継がれている。

関宿の歴史と文化

関が歴史に登場するのは、今から1300年余り前のことである。天智天皇の死後、大友皇子と大海人皇子（後の天武天皇）が皇位を争った壬申の乱（672年）の際、大海人皇子が「鈴鹿関」「不破関」を固めたことによる。これらの関は、「古代三関」と呼ばれ、都を守るための前線基地として設けられたものであり、「鈴鹿関」は三重県亀山市関町に、「不破関」は岐阜県関が原町に、「愛発関」は福井県敦賀市にそれぞれ所在すると考えられている。延暦8年（789）、桓武天皇によって三関は廃止されるが、その後も天皇の崩御や政変などが起こるたびに関が固められた。鈴鹿関の位置や規模、当時の「関」の様子などははっきりとわかっていないが、現在の関宿の位置にあったと考えられており、現在亀山市により所在確認調査が実施されている。

中世の関一帯は、伊勢平氏の流れを汲む関氏の所領で、旅人や近在の人々の信仰を集めた地蔵院には門前町が形成され、この集落そのものが「関地蔵」と呼ばれるようになっていた。天正11年（1583）には、関盛信により、この関地蔵を中心に町建てが行われ、現在の町並みの基礎が形作られた。現在の関宿中心部、中町地区にあたる。

慶長6年（1601）、徳川幕府の宿駅制度化により、東海道に53の宿場町が設けられると、品川から数えて47番目の宿場町に定められ、以後、参勤交代や伊勢参りなど交通の拠点として江戸時代を通じて繁栄した。天保14年（1843）の『東海道宿村大概帳』によると、戸数632戸、人口1942人、本陣2、脇本陣2、旅籠屋42が記録されている。

江戸時代から続く関宿の名物として、「関の山」の祭りがある。毎年7月に行われる関宿の夏祭りでは、刺繍が施された幕、火を灯した提灯で飾り付けられた山車が曳きだされ、お囃子とともに町内を曳きまわされる。関宿がもっともにぎやかな夜を迎えるのである。



関宿航空写真
（東上空から西を見る）
背後の山が鈴鹿山脈



関宿の町並み
（新所）



関宿の町並み
（中町）



関宿を描いた浮世絵
（「旅籠屋見世図」安藤広重）



「関の山」（関宿夏祭り）
山車の巡幸

現在でも４台の山車が残っているが、江戸時代末の最盛期には宿内に16台の山車があり、身動きが取れないほど人でいっぱいとなったことから、「これが限界」という意味で「関の山」という言葉が生まれたほどであった。

明治時代となり宿駅制度が廃止されても、往来する旅人の数はむしろ増加し、宿場は栄えていた。しかし、明治23年（1890）関西鉄道（現JR関西本線）が開通すると、町の産業の中心であった往来稼ぎの商売が成り立たなくなって大きな打撃を受け、その後も国道１号線が旧街道からはずれた位置を通ったこともあり、近隣に生活する人々のための商業地として徐々に静かな町へと変化していった。

転機が訪れたのは、昭和55年のことであった。ひとりの新聞記者の来訪がきっかけとなって、関宿の町並み保存事業に着手することとなったのである。この背景には、昭和50年（1975）の文化財保護法の改正により、「伝統的建造物群保存地区」、いわゆる歴史的な町並みを文化財として保護する制度が始まっていたことがある。昭和59年（1984）には、その「重要伝統的建造物群保存地区」に選定され、その後は文化庁・三重県などの指導・支援を受けながら着実に保存事業が進められてきた。20数年を経た現在では、関宿を目当てに多くの見学者が訪れるようになっており、町並みは往時の賑わいを取り戻しつつある。

町並みの形成と変遷

関宿の町並みは、宿場の東西の入口となる「東追分」「西追分」の間、約1.8キロメートルあり、その全域、約25ヘクタールが町並み保存地区となっている。関宿は、街道に沿って東から「木崎（こざき）」「中町」「新所（しんじょ）」の３地区が並び、さらに「中町」の北側にあって寺院が集中する「北裏」を含めて４地区に大きく分かれており、それぞれ特色のある町並みを形成している。

中町地区は、関宿の中心部分である。関宿の町並みの基礎は、天正11年、当地を治めていた関盛信が、関地蔵院門前にあった小集落を基礎として中町を町建てした時に遡るといわれている。宿場の重要な役割を担う本陣・脇本陣・問屋などがおかれ、主だった旅籠が集中した宿場の中心である。中町の町屋は比較的建ちの高い大規模なものが多く、２階壁面も塗りこめて虫籠窓を開けたり、全体に手すりを設けて開放するものが多く、細部意匠などにも意匠的に華やかなものが多く見られる。



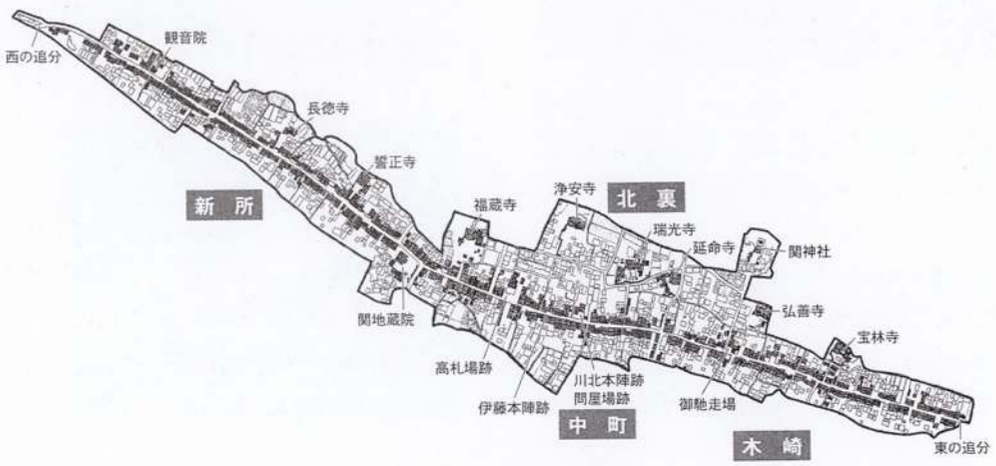
中町の代表的な町屋

木崎地区は関宿の東側の地区で、江戸時代初頭、宿場の発展にともなって整備されたと考えられている。街道は西から東に向かって徐々に下りながら、ほぼ一直線になっている。町屋は平屋ないし中二階の比較的建ちの低いものが多く、二階壁面は真壁にしたものが普通である。中町に比べてその意匠が簡素であるが、伝統的な町並み景観がよく維持されている。木崎地区の東端となる東追分は、東海道と伊勢別街道が分岐する場所であり、大鳥居がある。この大鳥居は、伊勢神宮を遥拝するためのもので、20年に一度の式年遷宮の際、内宮宇治橋南詰の鳥居の下附を受け、この場所に移されている。



木崎の代表的な町屋

新所地区は関宿の西側の地区で、木崎地区同様関宿の発展にともなって整備されたと考えられている。東から西に向かって鈴鹿峠に向かうように徐々に上がりながら、一直線に延びている。地蔵院の門前となる新所東



側は、中町と一体の町並みを形成し、中二階の町屋が多く、主屋の横に庭を設けて高塀をめぐらすなど質の高い町屋も見られる。一方、新所西側は、その大半が小規模な平屋で仕舞屋風であるため、全体としてやや落ち着きのある町並みとなっている。



新所東側の代表的な町屋



新所西側の代表的な町屋

関宿の町並みのなかで、特に景観的に重要なものとして、地蔵院の存在がある。関地蔵院は、寺伝によると、天平13年（741）行基菩薩によって開かれたといわれている。境内には、元禄13年(1700)に建築された本堂、現在の本堂が建築される前に本堂であった愛染堂、鐘楼の３棟があって国の重要文化財に指定されており、この他庫裏などがある。特筆すべきは、境内が東海道に直接面して開放的な構成を持っていることである。関宿の他の寺院は、街道の北側の奥まった場所にあって、街道から北に延びる小路の正面には本堂や門が見える地蔵院とは対照的な景観を形作っている。地蔵院がこのような開放的な境内を持つようになったのは、関宿そのものが地蔵院の門前として出発したことに加え、檀家を持たない勅願寺であって、近郷に生活する人々や東海道を旅する人々など広く信仰を集める必要があったためと考えられている。

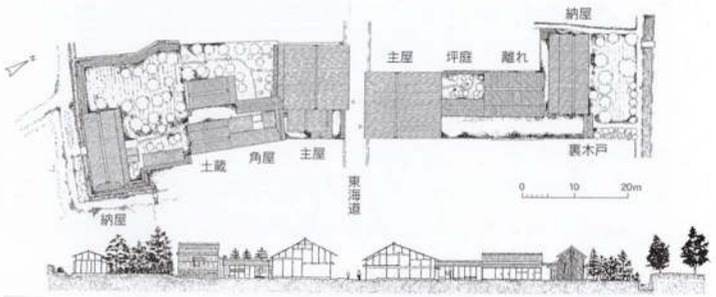


関地蔵院本堂
（国重要文化財）

関宿の町屋の特徴

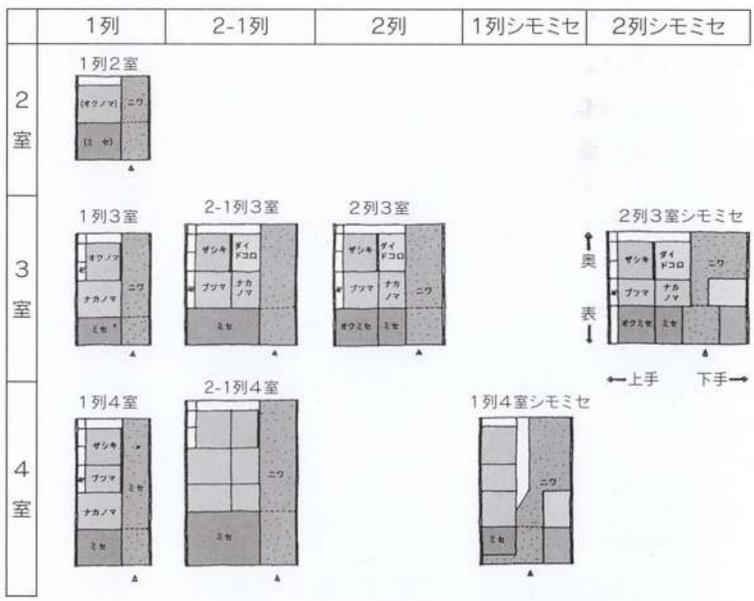
関宿の町屋のある敷地は、間口が狭く奥行の長い短冊状の敷地である。各家の主屋は、街道に面して余地を残さず建てられ、主屋の背後には角屋、離れ、土蔵、納屋などの付属屋が並んでいる。

主屋の間口規模は間口３～４間程度が最も多く、間取りは、通り土間に沿って居室が１列に並ぶ形式である。規模の大きな町屋は間口が６間前後となり、間取は通り土間に沿って居室が２列に並ぶか、土間下手にシモミセを設ける間取となる。主屋の出入り口と通り土間は、正面東側（下手）にとられ、居室が西側（上手）に並ぶ。これらが関宿で最も一般的な間取り形式であるといえる。



関宿の町屋の屋敷内配置

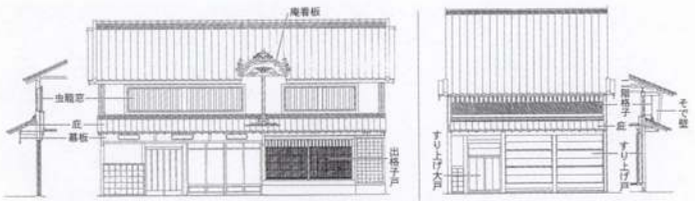
部屋は、表からミセ、ナカノマ、オクノマ（ザシキ）と呼ばれるが、４室になる場合はオクノマからブツマが独立して１部屋となる。シモミセは家族の居室・帳場などとして使われ、旅籠屋に多く見られる。ミセ上には「厨子（つし）」という低い二階があり、物置として使われていたが、旅籠屋では二階が発達し居室として整備されている。



関宿の町屋の間取

外観は、平入で低い二階建ての構成を持つものが一般的である。一部には平屋のものや妻入のものも見られる。前面は１階と２階の柱筋をそろえ、間に瓦葺や厚板葺の庇を設ける。この庇が並ぶことで、町並みは整った美しさを見せている。

前面の意匠は、１階はすりあげ戸が一般的で、出格子戸や格子戸を付ける例も多くある。しかし、出格子戸については、明治時代中期以降に建築されるか、改造が行われて付け加えられたものである。一方、２階は、木部をあらわした真壁のものと、漆喰で塗り籠めた大壁のものが並存している。



関宿の町屋の前面意匠

真壁のものは、2階梁を前面に突き出して桁を支え、2階屋根の軒の出が深くなっている。全面に細格子をはめたものや、手すりをつけて開放的にしたものなどがある。格子や手すりなどには、組み方に工夫や装飾を加えたものもあり、町並みに華やかさを加えている。二階両袖につけられた袖壁は、隣家からの類焼を防ぐための装置であるが、各家の屋号などが書かれ、看板としての役割も果たしていた。

一方、大壁のものは、2階全面を漆喰で塗り籠め、同じく漆喰で塗り籠めた竪格子窓である虫籠窓がついている。虫籠窓の意匠にも様々なものがある。屋根の軒裏も漆喰で塗り籠めるため、軒の出は浅くなっている。こうした漆喰の塗り籠めは、土蔵のような防火的な効果を期待したものであるが、同時に工事の手間や難しさから、その家の経済力を示すものでもある。

細部の意匠を見ると、庇下の幕板、軒の持ち送り繰り型、二階外壁面の窓額縁や漆喰細工、起り屋根、格子、建具など、細部の意匠に工夫されたものが多くある。このような外観や細部の意匠の多様性は、不特定多数の人々が行き交う宿場町の町屋にふさわしいものといえる。



虫籠窓（むしこまど）
虫籠窓は、町屋の2階正面にある、漆喰で塗籠めた竪格子窓のこと。虫籠窓の意匠にも様々なものがある。



幕板
庇の先端につけられた板の幕。「霧除け」とも呼ばれ、風雨から店先を守るものであったと考えられる。

伝統的建造物の保存・修景事業

約1.8キロメートルにわたる関宿の町並みには、約400棟の町屋が表通りに軒を連ね、この内約200棟が伝統的な様式によって江戸時代後期から明治時代に建築された伝統的建造物として保存の対象になっている。



町屋の前面建具
関宿の町屋の一般的な柱間装置は、3枚の板戸を柱につけた溝にそってすり上げ、上部を戸袋として収納する「すり上げ戸」であった。これは、店先を開放的に広く使う工夫である。1階正面の格子戸は、明治中頃以降に流行したもの。街道を通行する旅行者の減少により、町屋が専用住居へと変化していく過程に対応していると思われる。意匠的にも変化に富んだものが多い。



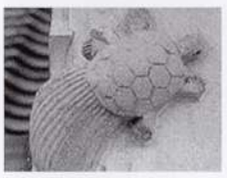
袖壁
隣家との境となる主屋両端に取り付けられる袖壁は、隣家からの類焼を防ぐための装置である。街道に突き出す形となることから、屋号などがかかれ看板としても使われた。袖壁に書かれる屋号は、東から見るときはひらがなで、西から見るときは漢字で書かれている。旅人が方角を間違えないようにする工夫といわれている。



漆喰細工　虎



漆喰細工　龍



漆喰細工　亀



漆喰細工　鶴

関宿では、町並みを保存していくため、昭和55年に町並み保存事業が始まって以来、町並みを構成する一つひとつの建造物について、保存修理修景事業を実施している。

修理事業とは、江戸時代から明治時代にかけて、伝統的な様式により建築された建造物（「伝統的建造物」と呼ぶ）を対象として、その構造、外観等を復原的に修復する事業である。関宿の保存地区内には、街道に面した主屋を中心として、約200棟の伝統的建造物があるが、多くが建築後100年以上を経過して老朽化が進んできており、これらを修理することは、伝統的建造物を次世代に引き継いでいくため基本となる事業である。

一方、修景事業は、すでに建て替えなどによって伝統的な外観を失っている建造物や、土蔵・離れなどの付属屋（「非伝統的建造物」と呼ぶ）を対象として、周辺の伝統的建造物と調和を図るよう、主に外観を改修する事業である。約400棟がその対象となる。

昭和55年に事業が始まってから、すでに延べ400棟について修理修景事業を実施しており、町並みの整備は着実に進むとともに、往時の宿場町の姿を今に伝える貴重な町並みとして、その価値をさらに高めてきている。

関宿における保存修理修景事業は、地区住民が行う現状変更行為を規制するとともに、事業者が行う修理修景事業に対し補助金を交付することによって進められている。事業が始まった当初は、地区住民に町並み保存を普及啓蒙する目的から、「広く・浅く」行われていた。つまり、街道に面した外観などを中心として、１軒あたりの補助金は少ないものの多くの人に利用していただく方法をとっていた。しかし、この方法では地区住民の理解は広がるものの、伝統的建造物を末永く保存していくことには直接的にはつながらなかったのである。このため、補助限度額を上げるなどして、１軒をしっかりとした形で修復していく方向へと、保存事業の方向性そのものを微調整させてきている。

保存修理修景事業の多くは、建造物を主な構造体である柱や梁のみを残して解体する「半解体修理」と呼ばれる方法によって工事を行っている。こうした工事の過程で、構造体に残る痕跡などを丹念に調査することにより、伝統的建造物がたどってきた歴史、建造物の持つ特性などが明らかとなるのである。個々に行われる調査結果は、その積み重ねにより、後の修理や町並み保存に新たな知見を加えることとなり、町並みの持つ文化財的価値に裏付けを与えるものである。

また、腐朽した柱の根継ぎや土台の入れ替え、傾いた軸部の起こし、構造の補強など、建造物を基本的な構造から根本的に直すことができ、末永く安全に暮らすことができるようになるのである。

さらに、そのときどきの家族構成や生活様式に対応させたり、家族の将来をしっかりと見据えた内部の改修を行うことも可能で、暮らしそのものをリフレッシュする大きな機会でもある。

関宿では、これまでの町並み保存活動を通して、「『生活の場』としての保存」を大きなテーマとしてきた。町並みは、人々の生活の場として長く機能してきたものである。そこには、その地域がたどってきた歴史、人々の暮らしや文化といったものが積み重ねられてきている。町並み保存活動は、こうした地域に積み重ねられた歴史文化を改めて掘り起こし、人々の暮らしとともに引き継いでいく作業と考えている。

豊かな空間性、伝統的な建築技術、景観作りのルールといった、町並みや伝統的建造物が持つ優れた点や特性を引き継ぎ、現代の生活に活かしていくとともに、構造や室内気候における弱点、プライバシーの確保といった間取上の問題、諸設備の更新といった、生活を続けていく上での諸課題について解決・改善していく必要がある。



伝統的建造物の修理（修理前）



伝統的建造物の修理（修理後）

町並み景観の整備

個々の伝統的建造物を対象とした保存修理修景事業と並行して、町並み景観を美しく整備することが必要である。

最初に取り組んだのは、電線・電話柱の移設であった。昭和63年(1988)、まず中町地区で着手し、その後、平成11年度に木崎地区で、平成12年度に新所地区でそれぞれ実施して、地区内の主要な街路からの電線・電話柱の移設を完了した。

電線・電話柱の移設とともに、街路灯の設置や地道風カラー舗装なども実施している。地道風カラー舗装は、江戸時代の宿場町の地道をイメージし、脱色アスファルトに茶系色の骨材を混ぜることで、自然な色合いを作り出している。町並みとの調和を図るために選択した手法である。



電線・電話柱移設前（中町）



電線・電話柱移設後（中町）

町並み景観の整備としては、保存地区の核となる施設を整備することも重要である。保存地区内で唯一の重要文化財建造物である関地蔵院本堂及び鐘楼について、平成６年度から10年度にかけて保存修理事業を実施した。地蔵院本堂は、中町地区から街道越しに西を見たとき正面に見え、関宿を代表する景観として特に重要なものである。この景観には、関宿が地蔵院門前から発展してきたという歴史が現れており、これを本来の姿に復原することは、地区の歴史を守り伝える上で特に重要な事業であった。

また、市指定文化財である「旅籠玉屋」など、関宿の歴史を物語り、歴史的景観の核となっている重要な建造物について保存修復を行い公開などをしているほか、関宿を訪れる人々のための休憩・利便施設として、空家・空地を活用したポケットパークや散策拠点施設の整備なども実施している。

周辺街道、宿場の紹介

関宿のある亀山市周辺は、古代より交通の要衝として発展していた。関宿のある東海道に加え、東海道から分岐する伊勢別街道、大和街道などがあり、それぞれ特色のある宿場がある。

東海道（亀山宿・坂下宿～鈴鹿峠）

三重県における東海道は、県北部を縦・横断する形で通り抜けており、桑名（桑名市）、四日市（四日市市）、石薬師、庄野（鈴鹿市）、亀山、関、坂下（亀山市）の７宿がある。特に亀山市は、市域を横断する形で３宿がある。

亀山宿は、東海道の江戸から数えて46番目の宿場であるとともに、石川氏６万石の城下町でもある。東海道は亀山城の主要部を迂回するように屈曲を繰り返している。街道沿いには、木造二階建て平入瓦葺の町屋が点在しており、往時の姿を偲ぶことが出来る。

亀山城多聞櫓は、亀山城の唯一残る建築遺構である。堀越しに眺めるその姿は、亀山市のシンボルのひとつである。また、東海道からは離れるものの、旧亀山城内には、亀山藩家老屋敷である加藤家長屋門（市文化財）も残っている。

亀山宿を西に抜けると、野村集落にはいる。野村集落にも木造平屋建て平入瓦葺の町屋が数多く残っている。亀山宿内に比べ敷地間口が大きく、主屋は余裕を持って建てられている。野村集落の西端、街道の北側に、塚とともに椋の大樹がある。国史跡に指定されている「野村一里塚」である。慶長９年（1804）幕府の命により築造されたものと伝えられている。元々は、街道の南北にそれぞれ塚が築かれ榎が植えられていたが、現在は北側のみである。東海道は、鈴鹿川の自然堤防である太岡寺畷を経由して関宿に至る。

関宿を出ると、東海道は鈴鹿川の谷間に沿って鈴鹿峠に向かって徐々に上り坂となる。関宿と坂下宿とのほぼ中間に筆捨集落がある。この筆捨集落は、四軒茶屋・筆捨茶屋とも呼ばれ、街道を旅する人々のための茶屋が開かれたところであった。地名の由来は、集落の鈴鹿川対岸にある筆捨山からきており、画家狩野法眼元信がこの地を通行した際、この山を描き始め、翌日描き残した分を続けようとし

たものの、山の姿が昨日とまったく変わっていたため、ついには筆を捨てたという故事による。

筆捨を過ぎると、沓掛集落に至る。沓掛集落の北端にある鈴鹿峠自然の家は、昭和13年「坂下尋常高等小学校」として建築されたものであり、平成11年国土の歴史的景観に寄与しているとして国の有形文化財に登録されている。

坂下宿は、東海道の江戸から数えて47番目の宿場である。鈴鹿峠を控えた宿場として、『東海道宿村大概帳』によると、本陣3、脇本陣1、旅籠屋48があったという。戦後街道の拡幅が行われたため、往時をしのばせるものは余り残ってはいないが、本陣前などには石碑が立てられている。

坂下宿を出ると、鈴鹿峠に向かった「鈴鹿坂八丁二十七曲り」と呼ばれる急な上り坂となる。片山神社は、斎王軍行の際、皇女が宿泊した「鈴鹿頓宮」跡と想定されている。鈴鹿峠で、荷物を載せた牛馬を引く馬子たちが唄った「鈴鹿馬子唄」が残っており、今でも集落の人々によって唄い継がれている。鈴鹿峠を越えると近江国である。

伊勢別街道（関宿東追分～）

伊勢別街道は、関宿東追分から津江戸橋に至る街道である。本来の伊勢街道は、東海道四日市宿にある日永の追分で東海道から分岐し、南下して伊勢神宮に至るが、東から伊勢街道に合流するため、関宿と伊勢街道を結んだ街道が伊勢別街道である。

伊勢別街道の東海道からの分岐点となるのが関宿東追分であり、ここには20年に一度の式年遷宮の際、伊勢神宮から移されてくるという鳥居がある。この鳥居では東海道を急ぎ旅するものが、伊勢神宮を遥拝した。鳥居とともに道標、常夜灯等も残り、三重県指定史跡である。

大和街道（関宿西追分～）

大和街道は、関宿西追分で東海道から分岐し、伊賀国を経て大和国に至る街道である。鈴鹿峠を越える現在の東海道が開かれる以前は、「加太越え」と呼ばれるこの道が東海道であったと考えられている。街道は、鈴鹿川の上流部、加太川に沿った谷間を縫うように西に進み、加太峠を越えて伊賀国に至る。

（しまむら　あきひこ　亀山市教育委員会社会教育課 文化・まちなみ係係長）

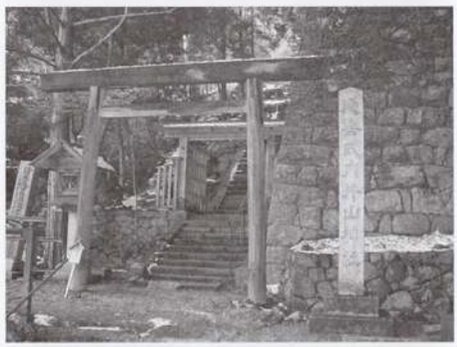
〔周辺街道〕
1 坂下宿の浮世絵
2 亀山城多聞櫓
3 亀山宿の代表的な町屋
4 鈴鹿峠自然の家(旧坂下尋常高等小学校)
5 片山神社
6 鈴鹿峠


1


2


3


4


5


6

児童の成長を育む木造の低層校舎

高山市立南小学校

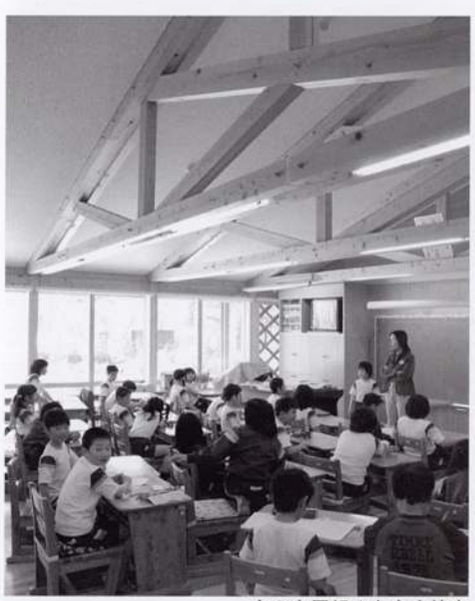
岐阜県高山市

日建設計
若林　亮

美しい町並みがのこる飛騨・高山に建つ平家、一部2階建ての「低層木造校舎」である。
校舎は、南北の校舎棟と管理・屋内運動場棟が中庭を囲むわかりやすい構成とし、普通教室やワークスペースは、地場産の檜の小屋組みの重なりを室内にあらわす、木のあたたかみを感じる空間とした。
高山という積雪の多い地域で、その小屋組みを児童のスケールにあう部材断面で構成するよう、檜の小屋組は教室上にかかる梁を合わせ梁として梁せいを抑えた。
教室の東西方向の耐震壁は、その向こうが見え、風を通し、光を導くために壁とはせず、木を斜めに組み合わせた木格子パネルとした。木格子パネルは、地震力に対して耐力を発揮できる斜め格子を枠組みに納める構造とし、また格子枠にはガラスも嵌め込まれるため、地震時にも破損しない逃げをとり、加力実験により、その安全性を確認している。

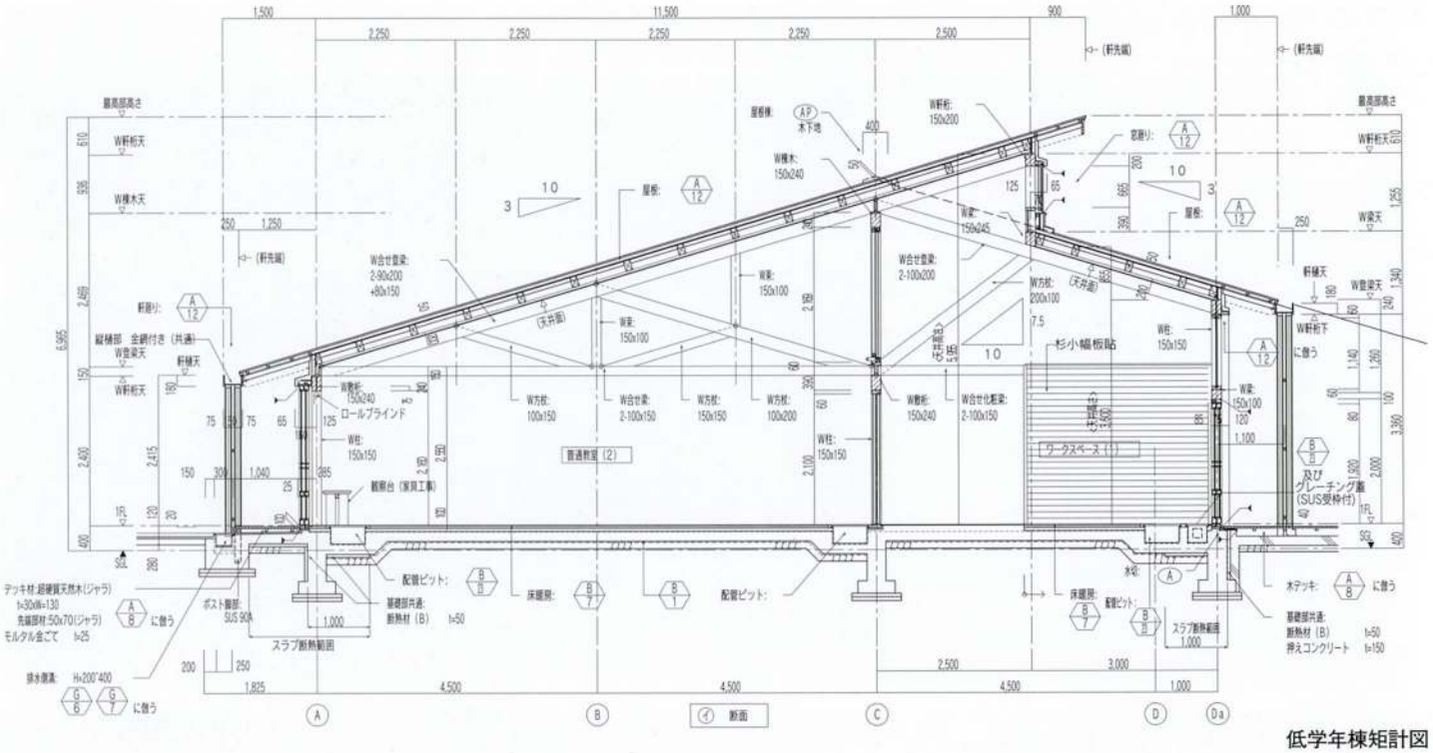

山々に囲まれ、低層の住宅地に建つ校舎


子どもたちが見守る伸びやかな低層の校舎

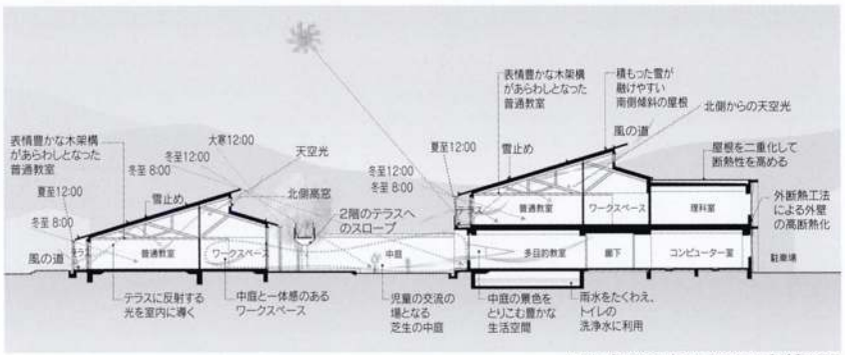

木の小屋組みを表す教室


北側の採光を導く明るいワークスペース


木格子耐震パネル



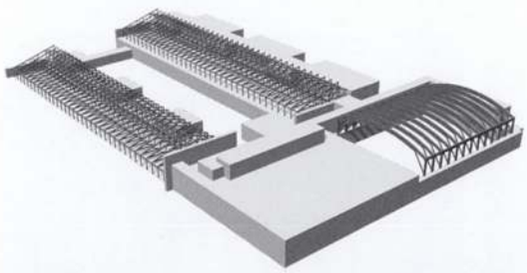
低学年棟矩計図



風と自然の恵みを活かす断面図



2階平面図

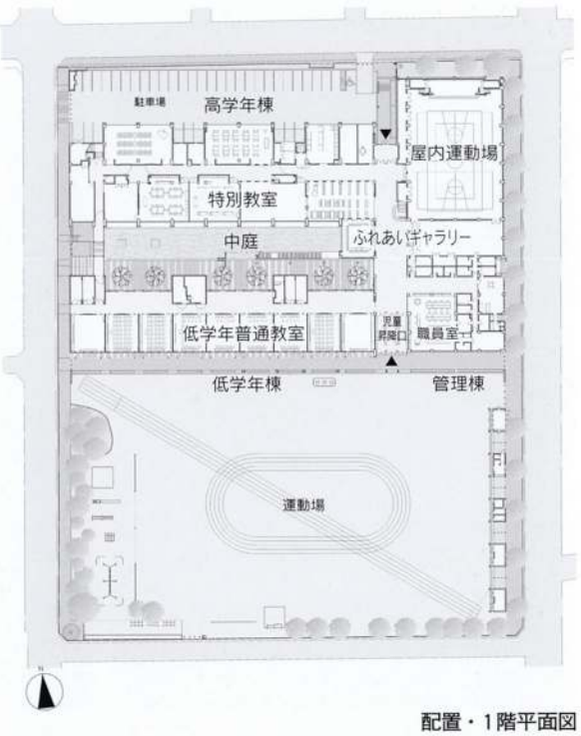


構造フレーム図



集成材に屋内運動場

平家部分は木造、2階建て部分は1階をRC造とし、その上に平家部分と同じ木組架構を乗せている。
地震時の水平力は、平家部分はトイレなどを納めたRC造のキューブ型コアで負担し、2階建て部分は北側のRC造の校舎で負担している。また、積雪地域における屋内運動場の構造は、桁行21.5m、梁間31.5mの大空間を支える屋根であり、集成材の梁、ダブルカラム、方杖による架構を採用し、桁行方向の地震力は2階スラブ下のRC造の柱で負担し、梁間方向の地震力はダブルカラム間のブレースにて対応する計画としている。



配置・1階平面図

子どもの成長を見守る木造の保育園

嬉野保育園

生命を育み見守ってくれる「嬉野の杜」の実現を目指し、木立に包まれるような木造空間を計画した。各年齢ごとに小さな生き物を割り当て、木立に隠れて子どもたちを見守っているようにした。小さな生き物はサイン、壁画、陶版などに表現した。トップライトや高窓や構造材を見せることにより、立体的で豊かな空間とした。床暖房、コールドドラフト対策、天井ファンといった設備を配置し、四季を通じて居心地のよい環境となった。木材は市場に流通している断面、長さのものを使用し、コストを抑えて建物を実現した。

安井建築設計事務所　篠原佳則



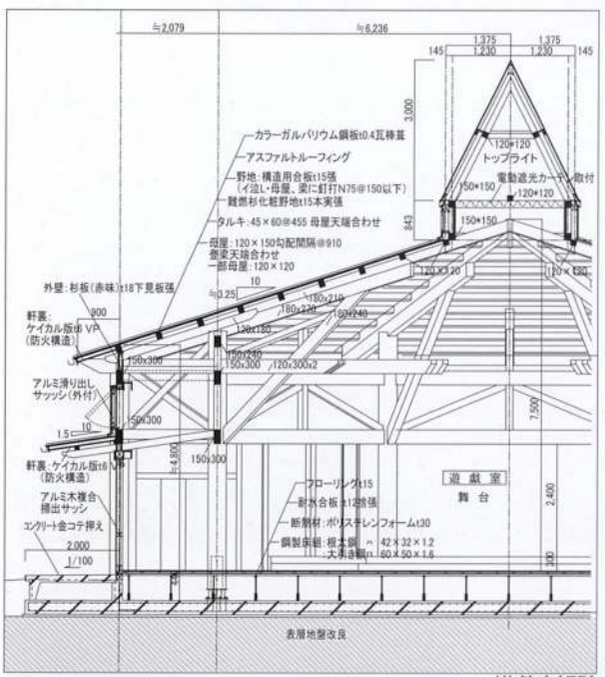
嬉野の山並みと保育園



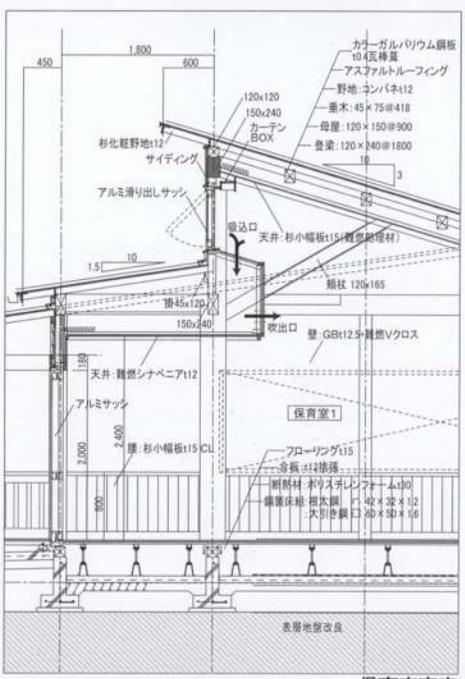
保育室前のウッドデッキ



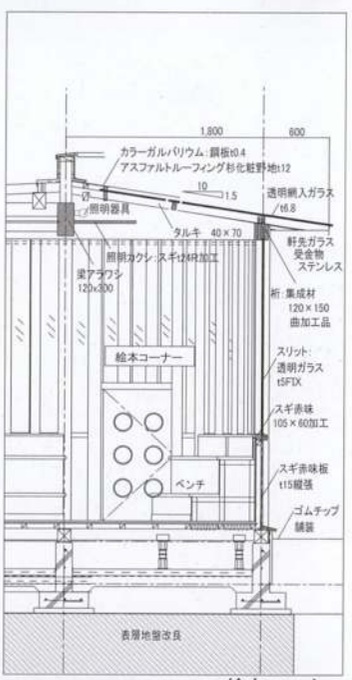
食堂照明



遊戯室矩計



保育室高窓



絵本コーナー



遊戯室内部



保育室

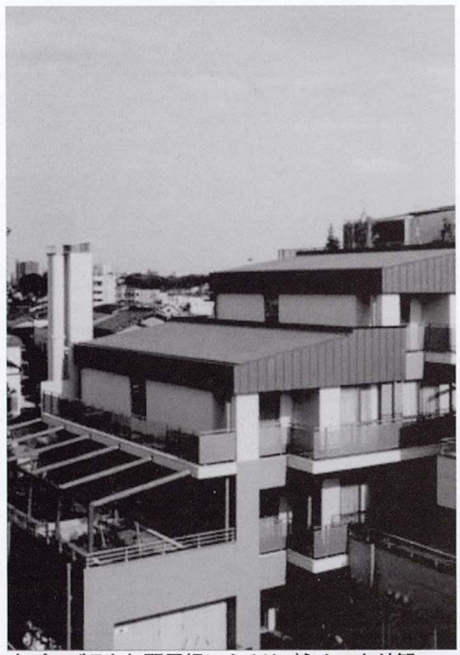


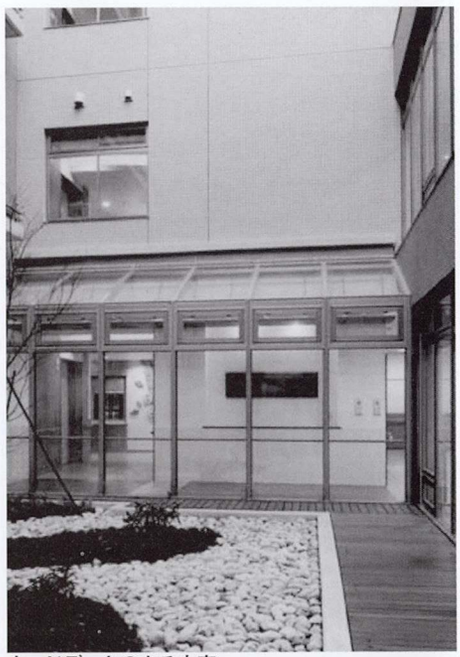
絵本コーナー

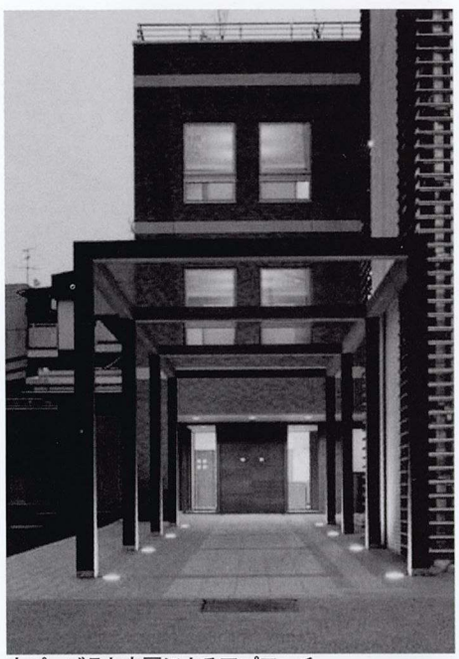
木によるおもてなしの装い
特別養護老人ホームメリーホーム大喜

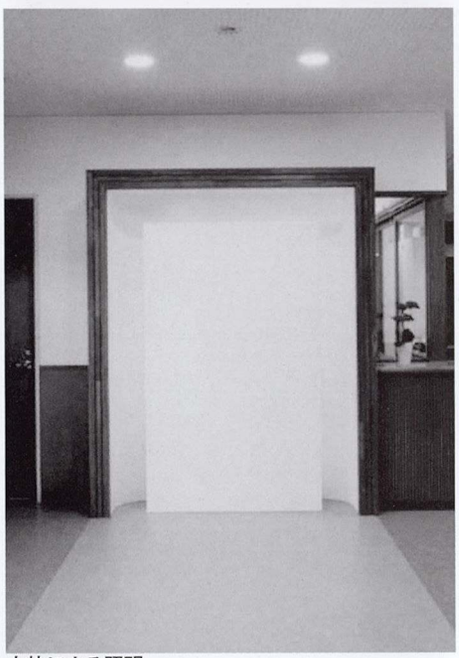
都市部に建つ特別養護老人ホームは高層化され、耐火建築物となるために鉄筋コンクリート造となる。そのような建築においても玄関やカウンターなどポイントとなる部分に木を使用することで、やさしく温かい建物とすることができる。この建物ではアプローチのパーゴラ、玄関扉及びサッシ、玄関の飾り棚、木モニュメントによる誘導サイン、案内カウンター、居室入口などに木を使用した。幾何学的な形態をやさしく表現したり、木による個性を前面に押出したり、木によって可能となる細かい仕掛けをしている。

安井建築設計事務所　篠原佳則


木パーゴラと勾配屋根によるリズミカルな外観


ウッドデッキのある中庭


木パーゴラと木扉によるアプローチ

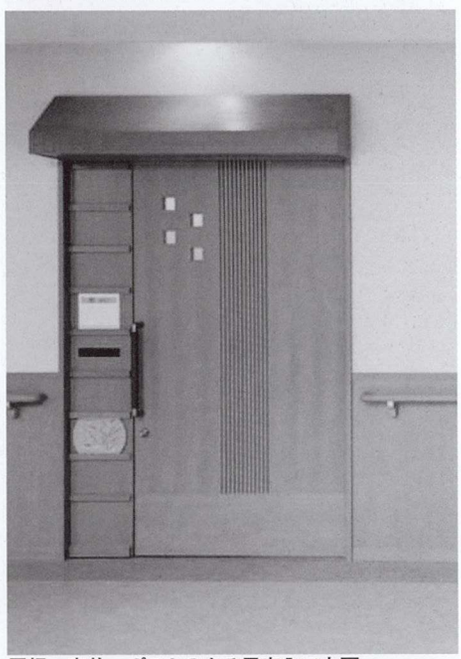

木枠による照明



木レリーフによるサイン


木による自在棚


唐松、杉集成材による各階室内カウンター


屋根、表札、ポストのある居室入口木扉

古い木造建築の保存と再生

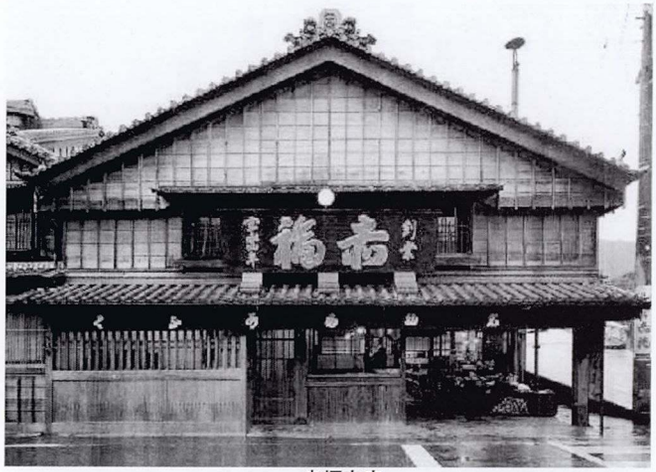
株式会社 赤福本店

竹中工務店設計部
伊東　正・因　純一

伊勢神宮内宮参道の中ほど、五十鈴川のほとりに江戸時代中期に開業された赤福本店は、創業以来「赤心慶福」の心をこめた和菓子「赤福」とお茶で参拝客の疲れを癒す店として親しまれている。

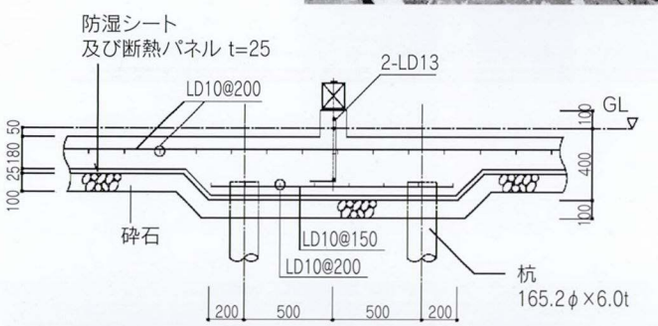
骨太の木造伝統建築であるが、地盤沈下や、老朽化により柱の倒れ、床の傾きなどが目立ち始めたことと、昨今の東海・東南海地震が危惧されている中で、耐震安全性向上を目指した改修を行った。

改修に際し、「現在のプランを大幅に変えない事」と、「店舗入り口から店内を通して五十鈴川河畔が見渡せること」が改修の条件となった。改修は、柱のジャッキアップ、束石基礎から杭打ちベタ基礎に変え、柱脚部の腐食により短くなった柱部材の交換、柱の建て起こしを行い、構造用合板による耐力壁と制振ダンパーにより耐震性を向上させるなどのほか、屋根下地の改修と瓦の葺き替えを行った。改修後の姿は、改修前の姿と変わらぬたたずまいで今日も参拝客の疲れを癒している。

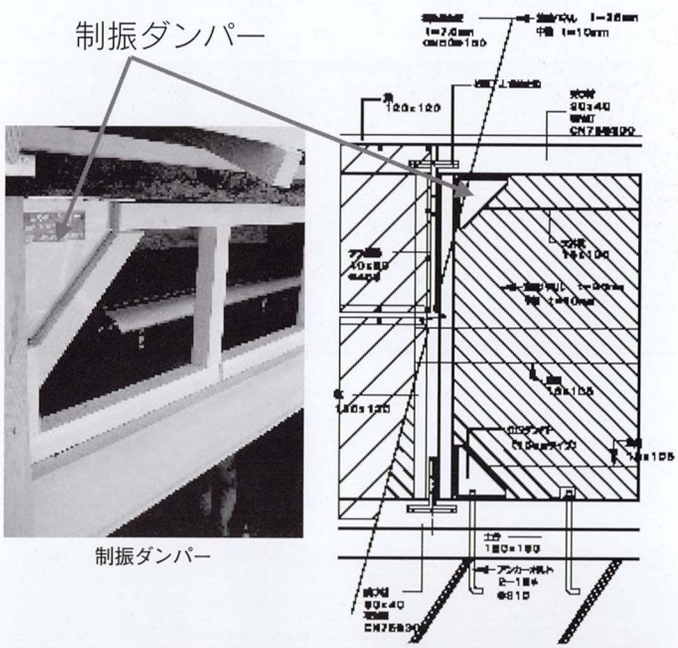


赤福本店

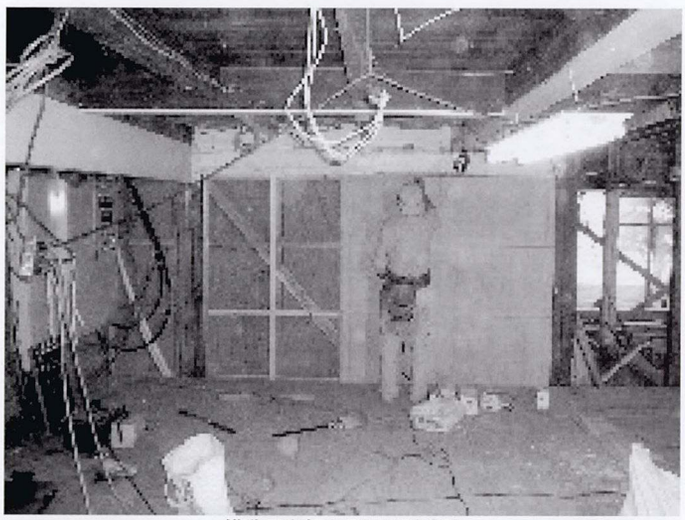


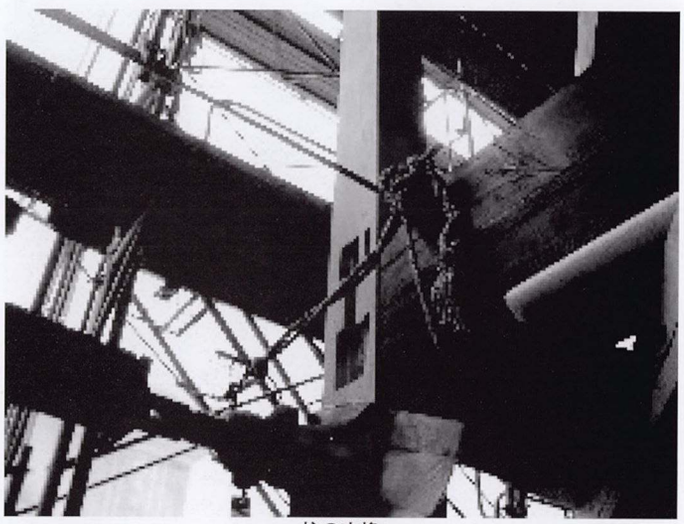


鋼管杭により、柱を受けジャッキアップを行う



制振ダンパー


構造用合板を用いた耐力壁


柱の交換

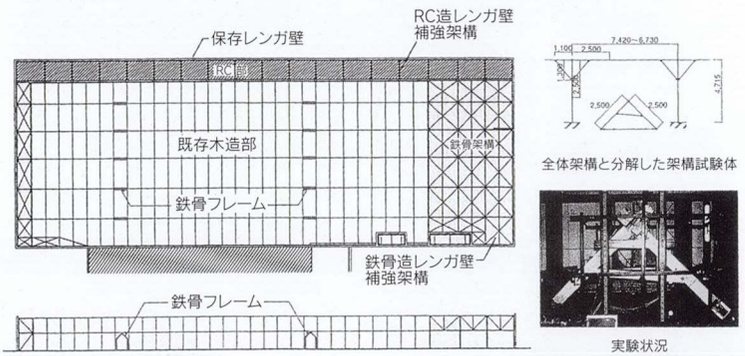
産業技術記念館



全景



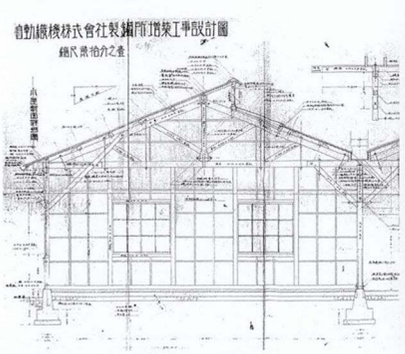
「繊維機械館」内観
やわらかな北側採光による木造柱列空間。



全体架構と分解した架構試験体

実験状況

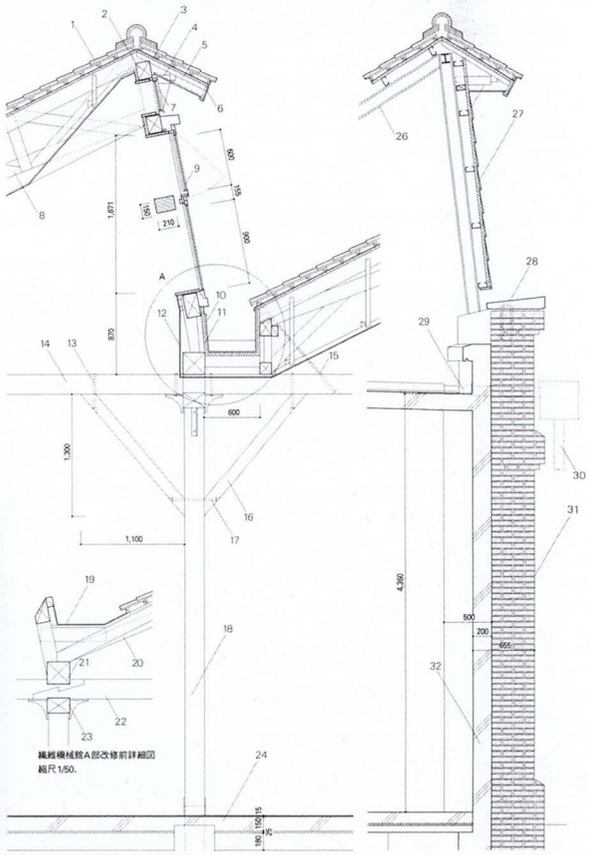
「繊維機械館」補強概要
既存トラスの耐力を確認した上で、外周の耐力壁と鉄骨フレームに地震力を伝達させている。



「試作工場」の当時の設計資料
スパン9mのトラス架構をそのまま運搬・設置した。



「材料試験室」内観
野地板・床板も当時のものを移築。すべて米松。



「繊維機械館」矩計図

産業遺産としての木造建築の保存

産業技術記念館では貴重な産業遺産である近代工場建築の保存・再生・移築により、建築と展示が一体となった空間を創り出している。施設は'94年に竣工・オープンした後、'04年に増築部を加え現在に至っている。ここではその木造部分の保存手法について述べる。(増築プロジェクト内容についてはp.24をご一読いただきたい。)

■木造トラス空間の保存

この施設の導入部である「繊維機械館」は、大正8年に竣工した木造トラス・外壁レンガ造の紡績工場をコンバージョンした展示空間である。木造架構は詳細な耐力試験を実施したうえ、劣化・損傷部については部材の取替えを行っている。さらにレンガ壁補強を兼ねた外周RC補強架構と内部の鉄骨補強フレームを新たに設けることにより地震時水平力に対して耐力向上をはかり、建屋の安全性を確保した。こうして、のこぎり屋根からの安定したやわらかな北側採光により浮かび上がる木造トラス柱列の美しい大空間を蘇らせることができた。

■近代工場建築の移築・保存

増築部建屋内には自動車産業黎明期の木造工場の一部を移築している。昭和9年竣工の「材料研究室」と「試作工場」は、自動車の大量生産を開始するにあたり、材料の試作研究、試作車の製造を行なった施設である。簡素な建屋の中に当時の最新の検査機器を持ち込み研究が行われた当時の様子を再現している。移築にあたっては、現存建屋の詳細な調査・記録を行った上で、健全であった柱・トラスの主架構を主に移築している。また移築建屋の地震力を本体建屋に分散させることにより当時の姿のままで安全性を確保している。

高山市立南小学校

所在地　岐阜県高山市岡本町1丁目18番地
主要用途　小学校
建築主　高山市
設計・監理　日建設計
施工　**建築**：校舎解体／井上工務店、屋内運動場／堀口・永家・高原JV、校舎／丸仲・総和・田口JV、プール／丸仲建設
電気：校舎解体／小高電気、屋内運動場／高山電気工事、校舎／蜘手・ナカムラJV
機械：校舎解体／中舎工業所、屋内運動場／高橋建設、校舎／岩佐・谷・蜘手JV、プール／岩佐鐵工所
その他：家具・木製建具／斐太建具共同組合、外構／林工務店、植栽／中坪造園、エクス

〔建築概要〕
敷地面積　15,382.00㎡
建築面積　5,032.05㎡
延床面積　6,643.54㎡
建ぺい率　32.7%（許容建ぺい率：70%）
容積率　43.2%（許容容積率：200%）
構造　木造、鉄筋コンクリート造
規模　地上2階
地域地区　第2種住居地域（法22条地域）
設計期間　2000年8月～2001年3月
工事期間　2001年5月～2004年3月
〔学校施設〕
クラス数：各学年 約3 クラス 計16クラス　**特別教室**：理科室×1室、音楽室×1室、図工室×1室、家庭科室×1室、視聴覚室×1室、コンピューター室×1室、生活科室×1室、図書室　**屋内運動場、小体育室**　**その他**：資料室、職員室、保健室、会議室 等　**プール**：25m×5コース、一部低学年用　**グラウンド**　**その他**：飼育小屋、屋外便所、屋外器具庫、屋外倉庫、遊具、駐車場（37台）
〔特殊設備〕
エレベーター設備
〔主な外部仕上げ〕
屋根：アルミニウムめっき鋼板たてはぜ葺き／アスファルト防水の上押出成型セメント板（又はウッドデッキ）敷　**外壁**：杉板小巾板貼り（木部保護塗装）／一部コンクリート化粧打ち放し（アクリルシリコン塗装）／樹脂木ルーバー　**建具**：木製建具、アルミニウム建具、鋼製建具　**外構**：中庭：ウッドデッキ（ジャラ材）＋芝／インターロッキングブロック（再生材）／アスファルト
〔主な内部仕上げ〕
普通教室　床：フローリング、壁：天然木練付板（ナラ材）、天井：岩綿吸音板
ワークスペース　床：フローリング、壁：天然木練付板（ナラ材）／コンクリート化粧打ち放し、天井：岩綿吸音板
家庭科室　床：ビニル床シート、壁：天然木練付板（ナラ材）／コンクリート化粧打ち放し、天井：岩綿吸音板
屋内運動場　床：フローリング（鋼製床組）、壁：シナ合板／木製リブ／コンクリート化粧打ち放し、天井：岩綿吸音板

嬉野保育園

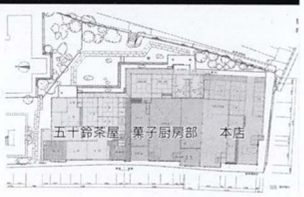
所在地　三重県松阪市嬉野上野町1304番地9
主要用途　保育園
建築主　社会福祉法人　洗心福祉会
設計・監理　安井建築設計事務所
施工　竹中工務店
〔建築概要〕
敷地面積　3,500.00㎡
建築面積　1,349.04㎡
延床面積　1,181.38㎡
建ぺい率　38.55%（許容建ぺい率：60%）
容積率　33.75%（許容容積率：200%）
構造　木造
規模　地上1階
地域地区　指定なし
設計期間　2004年4月～2004年7月
工事期間　2004年8月～2005年5月
〔施設内容〕
保育室：2歳児、3歳児、4歳児、5歳児 各1クラス　**その他**：乳児室（0歳児）、ほふく室（1歳児）一時保育室、遊戯室、ワークスペース、絵本コーナー、デン、地域子育て支援室（食堂）事務室、厨房　**外構他**：グラウンド、屋外倉庫
〔主な外部仕上げ〕
屋根：カラーガルバリウム鋼板瓦棒葺き　**外壁**：杉板下見板貼り180（木部保護塗装）／サイディング（AEP）／コンクリート化粧打ち放し（撥水材塗布）　**建具**：木＋アルミ複合建具、アルミニウム建具、木製建具　**ウッドデッキ**：ひのき　**外構**：中庭：ゴムチップ舗装、タイル舗装　**駐車場**：アスファルト
〔主な内部仕上げ〕
保育室　床：フローリング（バーチ）、壁：腰：杉小巾板CL塗、腰上：ビニルクロス、天井：杉小巾板（難燃材）CL塗 一部 難燃シナベニヤ
ワークスペース　床：フローリング（ナラ）、壁：腰：杉小巾板CL塗、腰上：ビニルクロス、天井：杉小巾板（難燃材）CL塗
乳児室、ほふく室　床：桧フローリング（床暖房）、壁：腰：杉小巾板CL塗、腰上：ビニルクロス、天井：杉小巾板（難燃材）CL塗 一部 ビニルクロス
遊戯室　床：フローリング（バーチ）、壁：腰：杉小巾板CL塗 一部 ビニルクロス、天井：杉小巾板（難燃材）CL塗
地域子育て支援室　床：フローリング（ナラ）、壁：腰：杉小巾板CL塗、腰上：ビニルクロス、天井：岩面吸音板

特別養護老人ホーム　メリーホーム大喜

所在地　愛知県名古屋市瑞穂区大喜町1丁目5-2、5-5
主要用途　特別養護老人ホーム
建築主　社会福祉法人　あいち福祉会
設計・監理　安井建築設計事務所
施工　前田・矢作特別共同企業体
〔建築概要〕
敷地面積　2,754.46㎡
建築面積　1,575.37㎡
延床面積　5,507.79㎡
建ぺい率　57.20%（許容建ぺい率：60%）
容積率　199.96%（許容容積率：200%）
構造　鉄筋コンクリート造
規模　地上5階
地域地区　第1種住居地域／準防火地域
設計期間　2003年3月～2003年11月
工事期間　2003年12月～2005年1月
〔施設内容〕
特別養護老人ホーム：90室　**ショートステイ**：15室
〔主な外部仕上げ〕
屋根：フッ素樹脂鋼板立はぜ葺き／アスファルト防水＋押えコンクリート／屋上柵栽／木パーゴラ（レッドウッド）　**外壁**：磁器タイル／吹付けタイル／フッ素樹脂鋼板／コンクリート化粧打ち放し（撥水材塗布）　**建具**：アルミニウム建具、木製建具　**ウッドデッキ**：ウリン／ユーカリ／レッドウッド　**外構**：タイル舗装／アスファルト舗装
〔主な内部仕上げ〕
居室　床：コルクタイル(床暖房)、壁：ビニルクロス、天井：ビニルクロス　**共同生活室**　床：長尺塩ビシート＋アンダーシート（床暖房）、壁：ビニルクロス、天井：ビニルクロス
廊下　床：長尺塩ビシート＋アンダーシート、壁：腰：不燃化粧板、腰上：ビニルクロス、天井：ビニルクロス

株式会社　赤福本店

所在地　三重県伊勢市宇治仲之切町26番地
主要用途　店舗
建築主　赤福
設計・監理　竹中工務店
施工　竹中工務店
〔建築概要〕
敷地面積　1,388.93㎡
建築面積　313.28㎡
延床面積　412.55㎡
構造　木造
規模　地下一階、地上2階、塔屋一階
設計期間　2003年8月～2004年2月
施工期間　2004年3月～2004年8月
〔主な外部仕上げ〕
屋根：杉野地板下地、アスファルトルーフィングの上桟瓦葺き 五寸勾配　**外壁**：木、鎧下見板貼
〔耐震性能の評価〕
準動的評価法による建物の層間変形角を下表に示す。
補強目標は、震度6強程度の地震に対して層間変形角1/30以下とした。



	階	方向	五十鈴茶屋	菓子厨房部	本店
補強前	2	南北方向		微少・微少	微少・1/111
		東西方向		微少・微少	微少・微少
	1	南北方向	1/197・1/41	1/85・1/16	1/89・1/17
		東西方向	1/164・1/34	1/150・1/22	1/90・1/17
補強後	2	南北方向		微少・微少	微少・微少
		東西方向		微少・微少	微少・1/34
	1	南北方向	1/160・1/32	微少・1/32	微少・1/30
		東西方向	1/182・1/37	微少・1/34	微少・1/32

準動的評価法における値は［震度5弱・震度6強］の変形角を示す

産業技術記念館

所在地　愛知県名古屋市西区則武新町4丁目1番35号
主要用途　博物館
建築主　トヨタテクノミュージアム　産業技術記念館
設計・監理　竹中工務店
施工　竹中工務店
〔建築概要〕
敷地面積　41,596.82㎡
建築面積　21,510.63㎡
延床面積　26,904.72㎡
建ぺい率　51.71%（許容建ぺい率：71.82%）
容積率　64.63%（許容容積率：218.17%）
構造　鉄骨鉄筋コンクリート造、鉄骨造、木造
規模　地下一階、地上2階、塔屋一階
地域地区　商業地域、第2種住居地域
竣工　1期　1994年、2期　2004年
〔主な外部仕上げ〕
屋根：フッ素樹脂鋼板横葺き　**外壁**：レンガタイル張り、既設レンガ壁再利用　**建具**：アルミサッシウレタン焼付塗装　**外構**：インターロッキング張り
〔利用案内〕
開館時間：9：30～17：00（入場は16：30まで）　**休館日**：月曜日（休日の場合は翌日）、年末年始　**入館料**：大人500円、中高生300円、小学生200円
問い合わせ先（電話番号）：052-551-6199　URL=http://www.tcmit.org
〔撮影〕
吉村行雄（竹中工務店）、滝田良彦（滝田フォトアトリエ）

元気な愛知のその後

小宮三辰／福田泰造／山本敦子／篠原佳則

―愛知万博を振り返って―

小宮　まず篠原さんから、万博の印象をお聞かせ下さい。

篠原　万博は、よく言われるように空間というか、建築としては、あまり魅力的なものではなかったが、仕掛けみたいなものは非常にうまく成功したなという印象を持っています。いろいろな企業館や外国館で、イベントをやったり、人がわーっと集まっているのを見かけました。何かがどこかで起こっているんじゃないかという、そういうイベント性みたいなものがあった。いろいろ実体験できていたんじゃないのかなという印象を持ちました。また、環境的な空間として成功している感じがありました。

小宮　皆さんは大阪万博のことはご存じですか…

山本　太陽の塔ですよね。並んで取った写真がありますよ。

小宮　大阪万博でも沢山の映像を見せていただいたが、企業館が随分たくさんあって、建築的にも若い建築家が携わって、アイデアとしておもしろいものがありました。それが、何十年かたった愛知万博では、日本館、愛知館や企業館などの一部のパビリオンを除いて、多くのパビリオンは、建築ユニットをつくり、貸し与える方式だったので、建築の造形的な愉快さみたいなものがあんまりなかったですね。ただ、イベント的には非常にうまくまとめられた場面が多いから、それはそれなりにという印象はあるんですけどね。

福田　今まであんまり環境について詳しく興味を持つとか、何かちょっと考えてみようとか、そういうことは少なかったと思うんです。それが万博で、連日のように環境のことをやってもらうと、いつの間にか意識して考えるようになりました。当然子供たちも同じで、そういうことを見た子供たちが大きくなって少しずつ変わってくるのではないでしょうか。



山本　大阪万博は、当時の日本にとって、世界の国々が集まるということが、珍しいという感じだったんですよね。だから、外国とか外国人というものへの興味がすごくそそられました。愛知万博はどちらかというと、世界のどこにでも行ける時代になったので、世界的な万博というイメージが少なくて、愛知万博ってまさしく愛知のための万博みたいなイメージが強かった印象です。いい意味でもですよ。

福田　フレンドシップ事業というのがあって、愛知県の市町村が一カ国一市町村ということで……。例えば僕が住んでいる常滑市だとマレーシアが相手国でした。観光省の大臣が来て、イベントをやります。それを常滑市がバックアップする。万博の会場だけでなく名古屋市内でのパーティーやファッションショーもお手伝いしました。

小宮　私の関係でも香港のデザイン団体の人たちが多数お見えになって、万博会場で活動の一端を紹介するデモンストレーションをやっていました。人と人との交流はいっぱいあったんじゃないかな。

篠原　僕が知っているのは、カナダデーに合わせて、歌手が来てコンサートをやるものでした。カナダの小児病院の子供が来たとかで、愛知の小児病院の子供が万博会場に行って交流をやって……。そういう、１つの国際交流のきっかけみたいなものが、あちこちでできている可能性があると思ったんですけど。

―愛知万博で変わったもの―

小宮　いろんなジャンル、層によって、国際交流というものはすごかったと思います。そういう意味では、形だけじゃなしに、万博は成功したと言えるのでしょうね。一方、万博とともにこに地方の経済が潤ったと言われます。常滑は空港ができ、万博ムードで非常によいスタートができて、経済的にも大変有利に展開しているとみえます。都市が、街が変わりつつあるかなというような雰囲気は出てきているのでしょうか。

福田　空港ができたことによって街を変えていかなきゃならないという意識が市や市民にも芽生えて、空港が完成する前でしたが、市民参画推進指針というものができました。例えば公園をつくるにしても、今まではだれも行かない山の上に公園をつくってもよしだったものを、子供を連れてそんなところまで行けない、おじいさん、おばあさんも行けない、土地は狭くてもいいから、ミニパークでもポケットパークでもいいから、といった意見を、市民や団体が言えるようなまちづくりをやっていこうということです。

話は変わりますが、この間、地元の小学校でユニバーサルデザインに関係する学習発表会みたいなものがあって行って来ました。６年生の子供の「公民館に段が１段ついている」「通学路の信号があと10秒長ければ１年生も渡れる」など、単純だが、大人では気づかない指摘が行われていた。子供の視点ってすごいですね。小学校とか、地域とか、われわれ建築協会とかが、意見を吸い上げてバックアップする体制ができると、良い街ができるかなと思います。

山本　以前、建築協会でサンコート桃花台の見学に行った時、長いスパンのまちづくりの中で、計画当初住み出した人の子供がもう巣立って、まだつくっている所があるにもかかわらず、だんだん老夫婦だけの街になっていくとの話を聞いたんです。やっぱりつくられた街って、通常の街じゃないんですよね。街並みとか、景観とか、

いろいろなことが求められているのですが、コンビニもないんですよね。公園があるけど人っ子一人いない、何か閑散としていて、防犯上どうなんだろうなとか、殺伐としたイメージを持ちました。計画的につくるのはいいとしても、あまり1つのことにこだわり過ぎてしまうと、街は活気を失うことにもなるのかなと思いました。

―名古屋中心部のこと―

小宮　最近、栄、名古屋の中心地はきれいになってきています。インテリアショップもかなり増えてきた。ブティックなんかは地上店も随分……。バブル以降の不況がやっと好転したからという気もしないわけではありませんが、それはそれ。やっぱり街が変わってきて、明るくなってきていると思います。広小路ルネサンスを含めていろいろなことが考えられています。こういうものが、分からないところで、どんどん進められています。福田さんの話じゃないけど、山の上のだれも使わない公園と同じようなもので、皆が積極的に発言する機会を持つ必要があると考えますが、いかがでしょうか。2010年という話になると、あと5年です。

山本　名古屋の都市部で、お祭りというか、何かイベントみたいなものが結構盛んなのですよ。みこしを担いだり、屋台を出したりしています。私たちもチケットを買って協力しています。ただ、都心部ですので、その度に渋滞が起きて迷惑するのですが、活力ある街づくりということを考えると仕方ないとも考えます。

小宮　要は、車様様になってしまって、人様様がどこかへ行っちゃっている。

福田　名古屋の場合は、人は地下街へ追いやられちゃって。

山本　でも、最近は地上店のほうが活気があると思うんですよね。年々、交通渋滞がひどくなっているような気がするんですけど、そんなことないんですかね。

小宮　この街の中に必要な人たちだけの車だったらたいした数じゃないんですよ。通過していく車のほうが多いんじゃないですか。

篠原　そう言った点では高速ができて、大分楽になっていますよ。

福田　万博のときに、ある一定のラインのところで車をとめちゃって、そこからシャトルバスでというような形が取られ成功しましたね。名古屋の場合は地下鉄やバスもあるんだから、都心に対してもパークandライドができれば、ちょっと違った都心にすることができると思います。

山本　広小路ルネサンスというのは、そういうところも含めて考えられているんですかね。広小路は公共の交通しか通さない提案になっています。ある意味では人を優先させていくということですね。

小宮　車が必要な会社は、車交通の便利なところへ出ていってくださいということでしょうね。どちらかを優先されるならばということだと思うんですよ。要は、広小路にたくさんの人が集まって、人がたくさん動かないことには街の活性化にはならない。そういう意識のもとに、つくられているように思うんですけどね。



山本　確かにね。車、ほんとう、混みますものね。

小宮　これは、特に愛知県の特徴らしいですね、地方都市もそうなってきているようですが、車で買い物ということで郊外の大型店にみんな客が集まって、各地方都市の駅前の商店街が寂れていった。だけど、大型店へ行っても大型店の中に通路があって店が並んでいるだけで、実はそれをそのまま駅前商店街に持ってきても何の支障もないようなつくり方をしているわけですよ。だから、今、大型店の出店を制限して、駅前の商店街を復活させようという、地方の行政の指導なんかは随分そっちに向かってきているんです。しかし、大型店を持っている人たちが出店させてくれない。その地域の隣で、出店してもいいよという町が出てきて、そこへ道路が引かれると、みんなそっちに行ってしまう。そういうイタチごっこをやっていても仕方がない。人が来てにぎやかになり、車も来てにぎやかになれば良い訳で、それをどういうふうにして構築していくかという話のほうが大切じゃないですか。地上を人が歩いて、地下道を車が走るというような都市計画をやっているところもヨーロッパにはあると聞きます。そういう提案こそ建築家的提案であって、建築家はもっとそういうことを、しっかり言うようにならないといかんと思います。

山本　歩いていて気持ちがいい街並みがいいですよね。愛知万博の会場でも夕暮れどきに歩いていると、とてもいい感じがしました。別にパビリオンを見なくても、緑に囲まれて、歩いていても何となく、何かいい感じがしました。

小宮　名古屋城のお堀にきれいな水を入れて、万博のようにショーをやってもらったら、もうみんなにぎわうと思うんだ。

山本　あのパビリオンが、地上店と考えればいいのかもしれない。パビリオン自体が地上店で、楽しい雰囲気で歩けて、何となく気分がいいなみたいな感じで、自分の好きなお店にぷらっと入ったりしてというのが……。そうしたら、毎日が愛知万博ですね。

―新しい発想のある街を求めて―

小宮　広小路通は全部、木の舗装をして、もう車は通さない。車は錦通を通りなさいと……。笹島ライブのあの敷地は全部駐車場にして、車をほうり込んでしまう。さらに千種あたりに1つ、ビルを

司　会　小宮三辰（こみや　みつとき・三辰設計）
出席者　福田泰造（ふくた　たいぞう・福田泰造建築事務所）
　　山本敦子（やまもと　あつこ・イセット㈱名古屋支社）
　　篠原佳則（しのはら　よしのり・安井建築設計事務所）

とき／2006年1月24日18時～20時　ところ／名古屋国際ホテル

いくつかぶっ壊して大駐車場をつくって、名古屋駅と千種駅の間は車を通さないとか、そういう大胆な提案ができませんかね。せっかく愛知万博が成功したわけなので、ああいうものに例を倣ってね。

篠原　今、名古屋駅や栄周辺に高層ビルが建てられようとしている。このきっかけはツインビルに入った高島屋の成功だと思います。名古屋の人は堅いと思ったけどそうでもないぞということで、地上店とかにブランドとかが出てきた。マンションも東京や大阪のように高層のものが増えてくると思います。やはり万博があって、空港ができて、トヨタとか何かの高層ビルが名古屋中にできて、利便性が高い都市を演出することによって、人とお金とかが動き、集まり、都会的な界隈性のある楽しい街が生まれるのではないですか。



小宮　1日遊べるといいね、あそこに1日遊びに行こうかというのが……。

山本　納屋橋のところに結構おしゃれな店が……。ちょっとおしゃれで若い人たちが集まるようなものをつくろうということでできたんですよね。だから、ちょこちょこおしゃれな店も、飲食なんかも、名古屋駅から栄に向けて所々でできるようになりました。やっぱり全体的に考えて、栄までをおもしろい空間というか、歩いていて楽しいという雰囲気ができると良いと思うんです。

小宮　名古屋市長が言っていたけど、市も納屋橋の川沿いのおかしな店は全部取っ払ってしまった。浄化みたいなところも一生懸命やっていくそうです。ただ、納屋橋のビルをデザインした人が言った言葉の中で、ああ、やっぱりかなと思うのは、いわゆる若いカップルに楽しんでもらう、ゆっくりくつろいでもらう場所をつくった。だけれど、それを3年ほどやってももうからなかった。だから、今は、おっちゃんの団体の酒飲み場になっておると。

山本　結構、おしゃれな感じで、初めのころは若い子たちばっかりで、満席でしたよ。

小宮　コーヒー1杯で2時間も3時間もおられたらどうしようもないという話に最終的にはなったらしい。結局は、そういうふうに、経済行為の中で、建物は建てられ、都市計画もやられ、いろんな店舗が張りついていって商売でもうけていくわけですね。そのために、われわれはしもべであって、それを手助けする、そういう働きだけで来たんだけれど、それでいいのかどうかというのが、これからの21世紀のまちづくりのテーマとして、やっぱり少し叫んでいかなければならないと考えています。

山本　若い人だけをターゲットにするというところに問題があったのかもしれませんね。やっぱり、もうちょっと大人の人たちも楽しめる中心部じゃないといけないと思うんです。今は何となく若い人が中心になっています。ブランドの店など、若い人ばっかりですよ。私たちなんかが行くと、このおばさん、何しに来たというような感じで見られるのです。結局は大人の空間はこの中心部じゃないんですよ。逆に、おしゃれなちょっと隠れ家的なところとかで、大人はゆっくり食べましょうというふうになる。やっぱりこの市内じゃない、この中心部じゃないですよ。

小宮　もうちょっと外れた分布になるのかな、結局は。だけど、そういう老夫婦が、今一番、金を持っておるわけだから、そういう人たちをもっともっと集客して楽しませる空間をつくっていかないとだめなのだが……。



山本　つくって工夫しないと、結局、宴会の場になっちゃうのですよね。もうちょっと、この栄あたりに、若い人たちだけじゃなくて、大人の人が、おしゃれな音楽を楽しんだりできる空間をつくっていただきたいです。何かあまりにも若い人たちばかりで行きにくいという感じが、気おくれしちゃうというエリア、ありますよね。

小宮　これは一つのテーマになりませんか。

篠原　去年、デザインショップみたいなのが何カ所か、何かやっていましたよね。あれは何だったっけ。

小宮　なごやデザインウィークです。東京でもう20年ぐらい続いておる催しなんです。東京では、デザインウィークということで1週間ぐらいインテリアショップが、ショップを開放して、いろんな先生を呼んで自主的に講演をさせて、今日はここでこんなものがあるよ、ここはこんなものがあるよということをやっています。それを名古屋でもやろうということでメーカーさんとかショップが昨年からやり始めたのですけれど……。結構、集客はあったようです。確かに、ああいうことを進めていくと人が集まる、人が集まるということはやっぱりそれだけ同じ考えを持つ人間が生まれてくるということなので、それは大切なことなんでしょうね。建築も、姉歯問題とか耐震とか、そんなことばっかりでわあわあ騒ぐんじゃなしに、やっぱり健全なまちづくりが基本にあってということをもう少し全員がベースに持って、それでこの街がいい環境に生まれ変わる手助けをするための第一歩を建築協会がやらなければならないんじゃないかと考えるのですが、いかがでしょうか……。

今日はありがとうございました。

「建築と社会」誌

特集一覧●1984〜2005

大正6年3月に誕生した日本建築協会（当時・関西建築協会）の、機関誌は大正6年9月に「関西建築協会雑誌」と題して創刊された。大正8年に「日本建築協会雑誌」、さらに1年後には「建築と社会」と改題し、今日に至っている。

取り上げてきた特集テーマは下記のとおりで、バックナンバー購入希望は、日本建築協会事務局（TEL 06-6946-6981、FAX 06-6946-6984）まで。販売価格は1200円(送料･消費税含)。

号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1984 vol.65	●21世紀への関西―魅力ある まちづくりを問う	●関西の超高層ビル＊	●ビルのリフレッシュ―内外装補修技術の現状と展望―＊	●建設産業とロボット開発＊	●住環境と法制度	●まちの活性化と商業空間 ●京都駅南口再開発ビル＊	●消防設備のポイント	●みどりとそれをとりまく人々＊	●高齢化社会と生活空間	●床の構工法	●第31回青年技術者 ●ディテールの思想	●光応用システムと建築
1985 vol.66	●大阪湾物語＊	●東海の現在と近未来	●自由様式への道―建築家安井武雄 ●建築物の基礎を考える	●情報化をめぐる建築・都市事情	●ホール―それが生みだす文化―	●建物の表情―最近の外壁材料	●大阪国際見本市新会場	●建築と水の演出 ●神戸研究学園都市	●都市と健康・スポーツ	●接合―人体と建築にみる― ●日建設計作品＊	●村野藤吾の一断章 ●伊勢湾をめぐる東海	●第32回青年技術者
1986 vol.67	●これからの住空間―都市型集合住宅にみる	●屋根―そのデザインと素材	●現代デザイン―ポストモダニズム10年 ●これからの防水工法	●インテリジェントビルの建築・設備計画	●自治体営繕と公共建築	●建築防災と法 ●大阪市庁舎（第2期）	●21世紀の住宅と設備	●開発―その創造的仕掛けの鍵をもとめて― ●ツイン21	●CAD―その応用と展開	●オフィス空間の構成	●第33回青年技術者	●インテリア・イクステンションとリニューアル
1987 vol.68	●入浴物語	●腐食	●創立70周年記念号	●躍動する東海へ	●貯蔵・保管施設 ●大阪府立体育会館	●室内の仕上床	●駅	●行政建築家の可能性	●シティホテルの設備	●宝塚の街づくり＊	●建物と町並みの接点 ●昭和設計作品集	●第34回青年技術者
1988 vol.69	●ホテル物語	●軟弱地盤と基礎 ●文化と伝統―東海からの報告	●設備におけるLCCとリフレッシュ ●東畑建築事務所作品集	●建物の外装リフレッシュ＊	●都心居住	●中国地方の展望とひろしまのまちなみ	●21世紀への照明＊	●制振＊	●超高層住宅を考える	●集合住宅のリフレッシュ＊ ●大阪府営善	●第35回青年技術者 ●800号記念＊	●讀賣テレビ
1989 vol.70	●夢をのせる輸送設備	●リゾート事情 ●竹中工務店創立90周年記念	●色の復権 ●東海の新建築と伝統技術＊	●省力化のための材料・工法	●まちづくりと法	●博覧会とまちづくり	●都市環境創造と設備I	●建築とアート	●構造の省力化 ●鹿島建設大阪支店建築設計部作品集	●都市環境創造と設備II ●ユーザー参加のハウジング	●第36回青年技術者	●最近の博覧会パビリオン
1990 vol.71	●商品化住宅のデザイン＊	●ニュータウン・ルネサンス	●東海の都市景観 ●佐賀市文化会館＊	●スケール感	●プレハブ住宅技術の現在と未来	●国際花と緑の博覧会	●建築家のための設備知識―中規模オフィスビルによるケーススタディー	●高強度化―設計の多様化をめざして―＊	●やわらかな住宅管理・ユーザーの役割	●都市のナイス・プレイス ●兵庫県営繕の歩み	●第37回青年技術者 ●和歌山県の展望と景観＊	●高級感―建物の顔：感性の時代を迎えての外装材
1991 vol.72	●新しい都市空間づくり―I―	●オフィス・プレジャー ●新しい都市空間づくり―II― ●建築の風景	●東海支部復活30周年記念	●大阪東京海上ビルディング	●今、京都 ●建築家のための設備知識―複合商業ビルによるケーススタディー	●建築と土木 ●毎日放送本社ビル ●近畿地方建設局営繕部	●一般号＊	●建築をめぐるトラブルとその解決 ●建設現場のイメージアップ作戦	●空間のアイデンティティ ●きんでん写真集 ●大建設計40周年	●自治体住宅政策への提言 ●大林組創業100年記念	●建築と土木―構造技術の世界― ●第38回青年技術者	●スリムでタフなコンクリート ●21世紀の住まいを考えるシンポジウム
1992 vol.73	●夢物語―人がかわる、まちがかわる―	●こだわりのインテリア ●近畿の郵政建築15年の歩み	●建築とデザイン―東海支部―＊	●建築家のための設備知識―集合高層住宅の設備システム―	●地球環境時代の建築	●街創り、住まい創り―住宅・都市整備公団関西支社10周年―	●木構造を使ってみませんか―集成材による構造―＊	●接着―建築分野への限りなき可能性	●中国地方の町並みと建築家の「語り、夢、作品」＊	●屋台一仮設の魅力に学ぶ―ハウジングのメインストリームを探る	●いま建築教育に何が期待されているか	●京のかたちと色
1993 vol.74	●第39回青年技術者 ●東畑建築事務所創立65周年記念作品集	●大阪府営繕	●東海の美術館・博物館	●市民劇場の舞台設備	●環境―限りある自然と建築とのかかわり	●都市のスカイライン	●映画の中のインテリア ●けいはんなプラザ・住友ホール	●建築の再生―構造技術の役割― ●大阪市営繕	●国際的パートナーシップの可能性	●福祉のまちづくり	●都市型住宅再考	●第40回青年技術者 ●環境―人にやさしい空間創造をめざして
1994 vol.75	●コピー文化の新時代 ●広島の街創りアジア競技大会	●九州のインスタレーションと競	●伊勢・神宮式年遷宮と神宮界隈＊	●建築のエネルギーシステム	●明日に向かって―会員作品＊	●いま、医療施設は	●住空間における居どころへの視点	●まちなかの看板 ●竹中工務店の集合住宅	●水と建築 ●日本建築総合試験所	●建築設備のCGシミュレーション ●村野、森建築事務所	●構造美―建築の中の美 ●集合住宅団地リニューアル	●第41回青年技術者 ●関西国際空港
1995 vol.76	●光がつくる風合の世界＊	●音―騒音から操音/創音へ	●飛騨・美濃―まちの活性化と地方文化＊	●トイレから見た都市文化	●トイレ空間	●接合 ●コスモタワー	●ユニバーサルデザインとは	●私の空間作法―会員作品	●新しい「都市・建築」の視点＊	●建築構造と社会の接点 ●日建設計＊	●ライフラインと建築設備＊	●第42回青年技術者 ●滋賀県建築課
1996 vol.77	●阪神大震災から学ぶ＊	●大阪府住宅供給公社創立30周年記念＊	●遠江―その地方振興と文化＊	●立体駐車場設備 ●大建設計	●災害！非常時に生きる法体系 ●OAPタワーズ	●いま、プールがおもしろい	●住まいの未来像	●マルチメディアがつくる世界	●キーコンセプトの新時代	●最新の大規模スポーツ競技施設の設備	●私の空間作法'96 ●九州の元気 ●りんくうの3作品	●第43回青年技術者 ●近畿地建営繕部
1997 vol.78	●建築のロングライフ化をめざして	●鉄ものがたり＊	●東海支部会員作品 ●金沢・能登―風土・文化とまちなみ・建築＊	●創立80周年記念／建築と私と社会―80人の眼―＊	●木造建築物の伝統技術とその将来	●住む空間の復興―法・制度の運用と新たな展開へ― ●住都公団関西支社	●素材の不思議 ●大阪ドーム	●新エネルギー ●住宅・都市整備公団改革への提言	●クロスワード都市OSAKA＊	●モザイク都市の住むかたち ●昭和設計40周年	●私の空間作法―会員作品―	●第44回青年技術者 ●京都駅ビル
1998 vol.79	●新しいまちづくりの予感 ●東畑建築事務所創立65周年	●Concrete ●九州とわたし、そして建築	●東海支部会員作品 ●信州―諏訪とその周辺―	●街並みの演出―最近の外構材料	●生活環境の安全・安心	●地球環境保全と建築	●心と体を元気にするインテリア	●建築設備―ビルメンテナンスの立場から	●建築への証言´98―21世紀に向けて	●ゆれをとめる―たえる技術からかわす技術へ	●私の空間作法 ●2001年の医療施設	●第45回青年技術者 ●駅とともに歩んだJR西日本の12年
1999 vol.80	●“らしさ”のデザイン ●建築を綾どる小骨なモノの仕掛人	●大阪市都市整備局	●東海支部会員作品´99 ●北信濃―街並み修景と地域文化の再構築	●都市のパブリック	●関西建築界の流れと東畑謙三の足跡をたどる	●大阪城天守閣平成の大改修	●改正建築基準法―まちづくり・すまいづくりへの展開―	●私の目でみた環境問題	●アーバンインテリア―都市空間としてのインテリア	●木とともに	●私の空間作法	●第46回青年技術者
2000 vol.81	●21世紀のデザインの動向を見る ●安井建築設計事務所創業75周年	●中国支部―しまなみ海道と中国地方の街づくり―	●東海支部会員作品2000 ●越中・富山―地域文化の振興と新たな建設づくりの流れ	●こころを癒す環境デザイン	●測る―測定方法と測定結果が意味するもの―	●スケルトン&インフィル	●改正建築基準法―パートII―	●100年後へのメッセージ ●日建設計創業100周年	●来世紀に引き継ぐ―わざ、もの、こころ―	●時間	●私の空間作法―会員作品― ●21世紀の高齢者の居住環境	●第47回青年技術者
2001 vol.82	●エヌ・ティ・ティファシリティーズ	●21世紀の建築設計教育	●東海支部会員作品 ●岐阜・大垣	●IT社会におけるきずな	●自然素材をめぐる「もの・わざ・ひと」	●成熟社会をささえるまちづくり	●現代の日本の空間・文化を探る	●環境―近未来に向けて今できること― ●大建設計―作品特集1996〜2001―	●建築の力 都市の力	●緊張 ●都市基盤整備公団関西支社	●私の空間作法―会員作品―	●第48回青年技術者 ●NHK大阪放送会館・大阪歴史博物館＊
2002 vol.83	●国土交通省近畿地方整備局営繕部＊	●再生・リサイクル	●東海支部会員作品 ●愛知・名古屋	●生活環境の安全・安心―パート2―	●塗装のいろいろ	●都市再生に向けた建築基準法集団規定のあり方	●いま、インテリアデザインは ●濃町リバーブレイス	●建築をささえるセンサー	●建築とボランティア	●時を超えて〜サステナブルエンジニアリングの現在〜	●私の空間作法―会員作品―	●第49回青年技術者 ●大阪市中央公会堂
2003 vol.84	●東畑建築事務所創立70周年	●九州の地域づくり・まちづくり	●東海支部会員作品2003 ●愛知・名古屋―この地の文化・芸術と建築・街づくりを考える―	●サスティナビリティ〜次世代に引き継ぐ都市・建築・暮らしのデザイン〜	●建築と五感	●都市計画法及び建築基準法等の改正	●コンバージョン―インテリアから発信するまちなみ―	●介護と建築・設備	●建築とノスタルジー〜建築の主観的価値について〜	●力と楽しくつき合う方法	●私の空間作法―会員作品―	●第50回青年技術者＋青年技術者顕彰50年
2004 vol.85	●大阪市住宅局	●都市緑化	●東海支部会員作品 ●愛・地球博＊	●省リスクな「まち再生」	●リニューアルの技	●地域住民主体のまちづくりと支援制度	●Product Design＋1	●銭湯〜心地よさを求めて〜	●建築家とは何か	●巨大地震にそなえて	●私の空間作法―会員作品―	●第51回青年技術者
2005 vol.86	●震災から10年	●「健やか」 ●長崎医療センター	●東海支部会員作品2005 ●東海における施設づくりへの新たな試み	●建築の経済化	●住まい方の変化	●人工栽培	●次世代に伝える「木」の建築 ●「建築と社会」1000号記念	●改正建築基準法と景観緑三法	●火災から守る	●構造の過去から未来へ	●私の空間作法―会員作品―	●第52回青年技術者

＊は欠号

京都府・京都市の違反建築に対する取り組み

野村　彰　京都府土木建築部建築指導課建築指導主任
大伴武司　京都市都市計画局建築指導部監察課課長補佐

昨年11月17日に発覚した構造計算書偽装事件は、これまでの建築確認制度の根幹を揺るがす事件であり、建築基準法に対する国民の信頼を根底から裏切る、あってはならない事件である。

建築基準法は、国民の安全・安心な暮らしを守るための建築物に関する基準であり、「確認」「検査」及び「違反指導」の仕組みにより、その基準を担保してきた。このうち、今回の事件により「確認」と「検査」の仕組みが大きく揺るぎ、国民を不安に陥れた。

今回の事件を受け、京都府・京都市においても構造計算の再チェックや相談窓口の設置など緊急の対応に取り組んでおり、国においても建築確認制度の見直し等の法改正が検討されている。

このような状況の中で、建築確認制度の「最後の砦」である「違反指導」の持つ重要性は、ますます大きくなってきている。

違反建築物等の動向

京都府域における完了検査率は、違反建築の防止や違反建築に対する取り組み等により、年々増加している。府域（京都市・宇治市域含む）では、平成11年度まで完了検査率30％弱で推移していたが、平成16年度には60％を超えた。しかし全国平均（平成16年度67.2％）に比べると依然低い水準にある。

違反建築の動向を、京都市域を例に見ると、平成10年度までは、年間1，000件近くの違反指導をしてきたが、平成11年度から、急激に減少傾向を辿り始め、平成16年度には178件までに減少し、年間の確認件数に占める違反指導件数の割合（違反率）も、平成10年度までの10％台から、平成16年度の2.3％へと大きく減少している。

この要因としては、①中間検査制度の導入、②パトロールの拡充、③金融機関の融資審査の厳格化、④欠陥住宅等に対する市民の認識の高揚などがあげられる。しかし、違反率は、全国平均（平成16年度約１％）よりも高く、違反建築の防止に関する取り組みの充実や違反建築の取り締まりの一層の強化が求められている。

違反建築に関する取り組み

京都府においては、平成15年度から安全・安心なまちづくりの観点から、建築指導行政の最重点課題として、違法開発・違反建築対策に取り組んでいる。本庁に、建築と開発の担当者による違反対策チームを設置し、違反指導マニュアルの策定により、本庁と土木事務所の連携強化と建築と開発の一体的な指導を行っている。

告発・代執行をも視野に入れた原則的・厳正な対応を掲げ、年度当初に違反事案の個別ごとに処理方針を定め、重点的な是正指導の強化に取り組んでいる。新規違反建築の半減、定期的なパトロール、迅速な初期対応の徹底と広報強化を目標とし、平成16年度においては、約30件の重点事案と新たな違反約20件、計50件のうち約半数を是正完了させ、違反是正の成果をあげてきている。

京都市においても、毎月２回のパトロールの実施などにより、違反建築の早期発見・早期是正に取り組むとともに、違反建築の防止の取り組みとして、建築にかかわる機関及び団体で構成する「京都市違反建築防止推進会議」を開催し、相互に情報交換を行っている。

また、啓発リーフレットを作成し、行政機関、金融機関等を通じて配布するとともに、違反建築防止の啓発ホームページも開設している。さらに、中間検査に合格した個人住宅の建築主への完了検査受検ハガキの送付や、金融機関に対する検査済証活用の要請活動など、検査済証の交付率向上を目指した取り組みを行っている。

取り組み事例

是正指導にも応じない悪質な違反建築については、告発や行政代執行をも辞さない強い姿勢で臨んでおり、行政代執行の取り組み事例２点を紹介したい。

①京都府においては、市街化調整区域に建築された違法な鉄工所に対し、行政代執行の手続きを行った。

本件は、平成13年に都市計画法、建築基準法等に違反していることを発見し、工事停止命令に従わず鉄工所を完成させたため、平成14年５月、都市計画法、建築基準法等の違反による是正命令を行った。

しかし、その後も違反者は是正に応じなかったため、是正命令違反により告発を行い、起訴後、平成16年７月に行政代執行法に基づく戒告書を発出した。戒告処分後に異議申し立てが提起されたが、同年10月に棄却され、また、並行して行われていた裁判において、同年12月に懲役10月（執行猶予３年）の有罪判決が下されたこともあり、翌年１月、違反者が自ら鉄工所の移転を開始し、同年３月には鉄工所がほぼ撤去されたことを確認した。

②京都市においては、建ぺい率や容積率が大幅に超過した一戸建住宅に対し、行政代執行の手続きを行った。

本件は、平成15年に違反建築を発見し、工事停止命令に従わず完成させたため、工事停止命令違反等により告発を行い、裁判の結果、懲役８月（執行猶予２年）の有罪判決が下された。

その後、依然として是正に応じないため、平成16年12月から行政代執行の手続きを始め、平成17年３月に代執行を実施する予定で取り組んだが、実施予定日の直前に建築主が自主是正を始めたため、代執行の実施を取り止めた。結果的にはマスコミに大きく取り上げられ、市民の反響は大きく、違反建築に対する認識も高まった。



一戸建住宅の除去部分

最後に

建築確認検査制度の実効性の確保や違反建築の防止により、建築主、設計者、施工者等が法律を遵守し、違反建築をつくり出さない風土を形成するとともに、早期発見・早期是正により「違反は許さない！」という厳しい姿勢で、真に安全で安心なまちづくりを目指し、引き続き、取り組みの強化を進めていきたい。

（のむら　あきら、おおとも　たけし）

可変形状トラス―愛知万博可動モニュメントへの適用

井上文宏
㈱大林組技術研究所建築生産システム研究室グループ長、工学博士

近年、建物の用途が多様化し、建物の一部に可動要素を取り入れ、巨大で動く構造体が出現し始めた。その可動要素の一つに可変形状トラス（Variable Geometry Truss　以下 VGTと呼ぶ）がある。VGTは、図1に示すようにヒンジと伸縮シリンダーから構成されるトラス構造からなり、伸縮シリンダーの伸縮長を制御することで様々な形状を作り出すことができる。これまで屋根形状が変化する開閉式ドーム、可動アーチを連続的に配置した有機的パビリオン等の提案*を行ってきたが、その応用性は広く、様々な場面での利用が考えられる。ここではVGTを用いた可動型構造物への適用例として、2005年愛・地球博長久手愛知県館で展示された大型可動モニュメンの概要、構造と制御システム、稼動状況について紹介する。

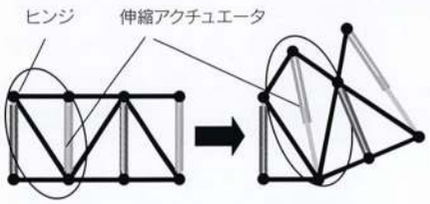


図1　VGTの基本的な形状変化

建物概要

愛知万博で展示された展示物の全体は可動モニュメントと併設されたからくり装置から構成される。モニュメントは同一仕様の3本の可動鉄塔からなり、円周に沿って120°間隔で据え付けられている（図2）。可動型の構造物の設計にあたっては十分な安全性の検討が必要であるため、日本建築センターより構造評定を取得した。設計条件には屋上突起物に対する地震荷重および地域平均風速に基づく風荷重を使用し、十分に安全性を確保する部材断面形状の選定およびVGTアクチュエータの仕様を決定した。また全体の制御システム、安全機構、管理・運用体制についても審査を行い、承認を得た。

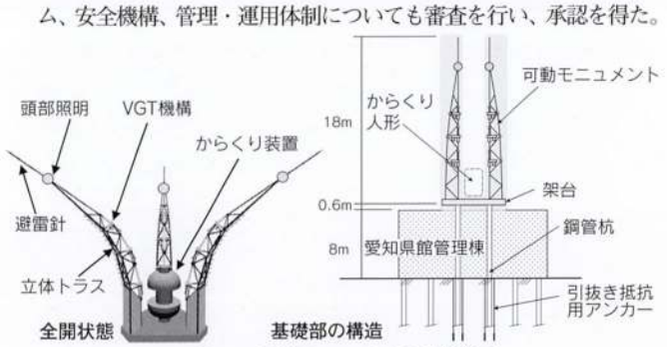


図2　可動モニュメントの建物概要

モニュメントの構造と制御システム

(1) **モニュメントの構造**　1基の可動モニュメントは全長が18m、4個のフレームと3台のVGT機構が結合され、おのおの独立して伸縮長を制御することができる。偏角は内側に2.5°、外側に18°であり、モニュメント全体では外側に最大54°、内側に7.5°の範囲で可動する。伸縮速度は最大20㎜/s、3台が同時に稼動した際の先端周速度は500㎜/s以上にもなり、極めてダイナミックな動きとなる（図3）。

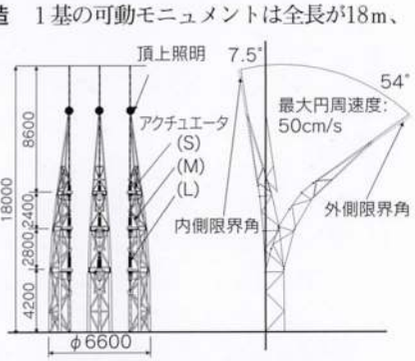


図3　可動モニュメントの構造

(2) **安全機構と制御システム**　アクチュエータの制御には位置検出制御を使用し、常に状態を管理・記録した。また各種の故障を想定し、アクチュエータ周囲に5段階のチェック・安全機構を装備した。操作は初期操作を除き、自動運転で実施するシステムを構築し、万一故障しても常に安全な状態を維持するための複数ロジックフェールセーフ機構を導入した。非常時対応では、手動緊急停止装置の配備、地震・落雷・強風・豪雨時の自動停止・警報システムの導入、漏電・停電等に対するバックアップシステムを備えている（図4）。

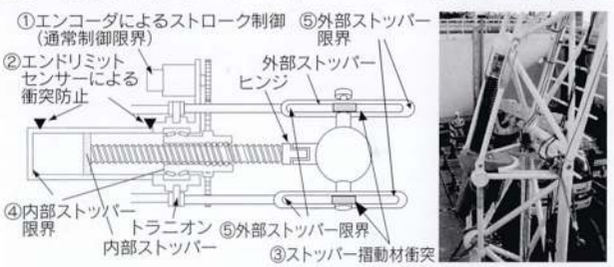
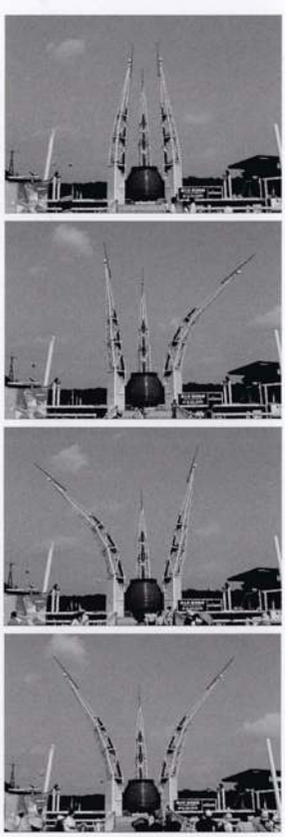


図4　可動モニュメントの安全機構

稼働状況

万博会場で稼動するモニュメントの全体を写真1に示す。演出パターン（30分ごと）はモニュメントの単独演出とからくり装置との協調演出による2種類から構成される。単独演出では自然のデータ（風速や温度、時間など）をモニターし、伸縮長の速度や停止時間を決定している。協調演出は予め動きの形状変化や音、光、作動時間をプログラムし、主題のストーリーに沿った一連の形状変化を行うように計画した。

運用の結果、単独演出ではモニュメントの不規則な形状変化の中にもダイナミックさがあり、非常に興味深い動きが表現できた。また協調演出ではからくり装置との正確な動きが実施され、全体として統一性のある演出が実現された。万博開催中の演出は1日約13時間（9時～22時）連続稼動され、185日の間一度の故障・事故もなく安全で良好な連続稼働が実現された。累積稼働回数は約50,000回に達し、当初の計画内で運用することができた。


写真1　不規則な動きをする可動モニュメントの単独演出

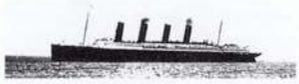
今回のVGTモニュメントの実用化を契機として、今後様々な可動構造物への提案・実施を可能にしていきたい。

*井上他、第9回建設ロボットシンポジウム論文集、pp.259-266、(2002)

（いのうえ　ふみひろ）

●大正時代の建築と建築人

霧より出て霧へ消え行く



霧の日は植物園に行こう

石田潤一郎

ニューヨークを発った設楽貞雄は、タイタニック号沈没の記憶が生々しい大西洋を、並び称せられた豪華客船ルシタニア号で6日間かかって渡り、1912年（大正元）12月30日、英国の港町フィッシュガードFishguard（設楽日記では「ヒッシガード」と表記）に到着する。そのまま鉄道に乗って、夜7時半にロンドン入りしている。なお、1年7カ月後に第一次大戦が勃発するが、ルシタニア号は1915年5月、ドイツ潜水艦に雷撃され沈没、千人以上の死者が出た。思えば、設楽は十九世紀的平和にくつろぐヨーロッパの最後の姿を見たことになる。

さて、一夜明けて12月31日、設楽は高田商会のロンドン支店を尋ねて支店長と「ロンドン見物の箇所と欧州大陸の道筋」相談に乗ってもらう。1月7日の項を読むと、大倉土木で3000円（今の3000万円以上だろう）を受け取り、続いて「高田商会に至り噺合をなす」とある。よくは判らないが、設楽が何らかの商用を委ねられていたことがうかがえる。

1913年1月、ロンドンでの設楽の見物先を追ってみよう。

1日：「トラハルガースクヤー」「ナショナルガラリー」
2日：ロンドン塔（写真参照）、大火記念塔
3日：セントポール寺院、ウェストミンスター聖堂、国会議事堂
4日：国会議事堂を再訪したほか、バッキンガム宮殿、大英博物館（日記掲載）
5日：アルバートメモリアル、パンプトンコート
6日：日英博覧会跡地、ギルドホール
7日：ケンジントン美術館、ハイドパーク、テートギャラリー（日記掲載）
8日：ウィンザー城（日記掲載）
9日：ロンドン動物園
10日：キューガーデン（日記掲載、写真参照）

あっぱれなほどの名所旧跡づくしで、アメリカでの「視察」という趣は消える。ただ、掲載部分にも現れているように、建築物はじめ英国文化への評価は高い。大英博物館やキューガーデン、あるいは掲出しなかったが、国会議事堂を見たときの手放しの誉めよう（隈なく参観することを得たれば、満足此上なし）はアメリカに対しては発せられなかったものである。建築の価値と情報の有用性は、彼にとっては別物だったのだろう。

（京都工芸繊維大学教授）

大正2年1月4日（土曜日）

ブリテシミュージアムは大英帝国が世界に誇る博物館丈けありて陳列の豊富整頓多く見ざる処である。殊に古来聞き覚えたる、写真等にて見覚えたる大理石の彫刻像、様々眼前に並列せる時の感何とも云へず。埃及（エジプト）室には埃及の古建築の模形より、実物の断片、石像諸彫刻、ロゼッタ石等何十日間を費やすも見飽したる可きにあらず。

大正2年1月7日（火曜日）

今日はケンシントンミュージアムを見、ハイドパークに遊びテートギャラリーを見る。此館は近代画家の傑作を集めたる絵画館にして、吾々の目には壱等面白く見られた。中にターナールームなる一室あり。是はターナーの作品のみを陳列せるものなり。

夜に入り、マダムタッソーの蝋人形館に入る。古今の似顔人物幾百体。中に明治天皇陛下の御立像を拝し奉り思はず襟を正せり。他のキングとは違ひ只御一人毅然として佇立遊ばされし事の如何に淋しかりしぞ。

大正2年1月8日（水曜日）

朝クック社に行き欧州回遊切符を買う。

汽車にてウェンゾルキャッスルに向ふ。一時間を費やす。是が又頗る古風な石造の城郭風の建築なれども数代のキングが建増したるものの由にて、住室はウェンゾルヒルの上にありて田舎の風景を一眸の裏に集め、川あり森あり申分なし。殊に此寒枯時にも拘らず、英国の芝生は少しも色を変へず青々として青絨を延べたる如く。殊に其日はロンドン名物の霧も晴れて珍しく日光を見たる程の上天気。気も晴れ晴れとして快感得も云はれず。

ロンドン橋



大正2年1月10日（金曜日）

今朝は十時に宿を出てキューガーデンに向かふ。是も一時間を費やす。是は英国第一の植物園にして風景絶佳。折から名物の霧が四方を立籠めて遠樹模糊、水彩画を見るが如し。成程こーして見るとロンドンの霧は頗る佳趣あるものである。天気らしい日の少なきは不愉快なれども、夜の巷に霧深き中に遠近の電光粲然と絹に包まれたる如く、行人其中に消え行くかと見れば車馬が霧より出て霧に消え行く。此ふっくりした柔かそーな景色がロンドンの人気を造りたる様な気がする。



霧のキューガーデン

大正2年1月11日（土曜日）

建築物は外部は頗る真黒できたない。又掃除もせぬ様であるけれども内部は丁寧に保存して整理し磨抜てある。彼等は古き物を誇りとする。決して捨てぬ。破れれば丁寧に繕ふて永く永く保存する。併し決して新しき事を等閑にするのではない。よい国風である。

風俗は市中を歩けばステッキを持って歩く人がちょいちょいある（是はアメリカでは見られぬ）。シルクハットが三分位はある。女の服装はアメリカより概してじみである。顔は細面が多い。日本人の女に見まがうのがちょいちょいある。男も背の高いのに黒のコート、縞のズボン、黒の靴、シルクハットで歩く姿の立派な事。僕は女より男に惚れるのが多い。

竹中大工道具館「技と心」

①ヨーロッパの木造建築と道具―針葉樹林地域―
2006年3月18日(土) 13：30～15：00→申込締切3月3日
講師／渡邉 晶（竹中大工道具館）
②日本の鋸のはじまり
2006年5月20日(土) 13：30～15：00→申込締切5月5日
講師／伊藤 実（広島県埋蔵文化財調査室）
③左官鏝のかたち
2006年7月15日(土) 13：30～15：00→申込締切6月30日
講師／西山マルセーロ（竹中大工道具館）
④鉋の研ぎ味・切れ味・削り味
2006年9月16日(土) 13：30～15：00→申込締切9月1日
講師／松田 豊（奈良デザイン協会顧問）
⑤近世大工と木割術（仮）
2006年11月18日(土) 13：30～15：00→申込締切11月3日
講師／坂本忠規（竹中大工道具館）
参 加 無料（入館料要）・35名（要申込み・先着順）
会 場 竹中大工道具館 TEL 078-242-0216
神戸市中央区中山手通4-18-25 〒650-0004
申込み 往復ハガキ1枚につき1セミナーの申し込み。往信・返信面に所要事項を記入し、竹中大工道具館「技と心」セミナー係へ。

スコットランド国立美術館展―奈良県立美術館―

奈良県立美術館では、スコットランド国立美術館の収蔵品の中から、19世紀のスコットランド絵画とフランス印象派を中心に95作品を紹介する。
タータンチェックにバグパイプ、静かな湖と点在する古城。しかし日本では馴染みの薄いスコットランドの画家たち。フランス絵画の影響を色濃く残しながらも伝統と風土を生かした作品群。
コロー、モネ、ルノワールらフランスの絵画とスコットランドのキャメロン、ネイスミスらの絵画が一堂に会するスコットランド国立美術館コレクション展は、日本では10年ぶりの開催となる。



《キンポウゲとヒナギク（画家の娘）》
ヒュー・キャメロン
1881年頃
油彩・キャンヴァス
©Trustees of the National Galleries of Scotland

会 期 2006年3月18日(土)～5月7日(日)
9：00～17：00（金・土曜日は21：00まで）
休館日：3月22日(水)、3/27(月)、4月3日(月)、4/10(月)、4/17(月)、4/24(月)
会 場 奈良県立美術館 TEL 0742-23-3968
奈良市登大路町10-6
観覧料 一般1,200円、大高生900円、中小生600円
出 品 ヒュー・キャメロン《キンポウゲとヒナギク（画家の娘）》、アレキサンダー・ネイスミス《エディンバラ城とノール湖》、オーギュスト・ルノワール《子供に乳を飲ませる女性》、カミーユ・コロー《クーブロンの風景》、エドガー・ドガ《開演前》、アルフレッド・シスレー《シュレヌのセーヌ河》、クロード・モネ《積み藁、雪の効果》など95作品
招待券希望者は日本建築協会（TEL06-6946-6981）へ。

SDゼミ「家具を作る～ミニチュア名作家具を作ってみよう！～」

SDゼミでは、講師に神戸在住の若手家具デザイナーを迎え、ディスカッションや演習を行う。
岡田光司氏は1992年、北海道立旭川高等技術専門学校木工科卒業後、工房を開設。2002年、神戸三宮でワインセラーショールーム＆岡田光司家具ショップalesをオープンし、㈲is Design設立。2005年8月にショールームを移し、リフォーム提案などにも活躍中。
セミナーでは、家具図面の書き方から、ミニチュア家具製作～完成までを行う。製作予定はハンス・J・ウェグナーの1/5縮尺の家具。
日 時 2006年4月19日(水)、5月17日(水)、6月7日(水)、6月21日(水)、7月5日(水)、7月19日(水)の全7回、19：00～21：20
教 室 大阪ガスインテリアデザインスクール
大阪市中央区備後町3-6-14
定 員 30名（先着順）
受講料 一般42,000円、学生・JIA会員36,750円
申込み 受講希望者は大阪ガスインテリアデザインスクール（TEL 06-6262-4089）へ。
http://www.og-school.com/から資料請求も可。

西日本トータルリビングショー

「住まいの守り」をテーマに、国内外の住宅関連企業や団体の最新製品・情報を集めた第25回西日本トータルリビングショーが開かれる。入場料200円。
会 期 2006年3月17日(金)～20日(月)10：00～17：00
会 場 西日本総合展示場新館 800㎡
北九州市小倉北区浅野3-8-1（JR小倉駅）
出 品 輸入住宅建材、住宅設備機器、各種建築資材、インテリア、住宅情報、防犯・防災、収納
会期中、6つのシンポジウムやセミナーが開催される。
http://www.nishiten.or.jp/tlshow/へ。

ファシリティマネジャー資格試験実力養成講座

『総解説 ファシリティマネジメント』（日本経済新聞社刊、定価4,800円）をテキストに、FMの体系立った業務・知識・技術並びに論述を解説し、過去の問題解答を含めた受験対策に効果的な講座を開催する。
2日間・大阪会場は、下記のように実施される。
■大阪会場―試験対策に絞った重点講座―
日 時 2006年6月3日(土)4日(日)10：00～17：50
会 場 天満研修センター（大阪市北区錦町2-21）
定 員 100名（先着順）
講 師 『総解説ファシリティマネジメント』執筆者
対象者 18年度ファシリティマネジャー資格試験受験予定者（実務経験は問わず）
受講料 一般2日間コース 42,000円（昼食・税含）
申込み 2日間コースは4月17日～5月26日に、銀行振込控えを添付した所定の申込書を、NOPA（ニューオフィス推進協議会）FM講座事務局へFAX（03-3553-3470）で送信。
注）FM試験の受験申込みは5月15日まで。

写真展「夢の中からみつけた街」

ワタリウム美術館I LOVE Art 8には、当館所蔵の現代美術コレクションの中から、13人の作家による、街を歩く道標となる写真100余点が登場する。
会 期 2006年3月3日(金)～6月4日(日)
11：00～19：00（水曜日は21時まで）
休館日：祝祭日を除く月曜日
会 場 ワタリウム美術館 TEL 03-3402-3001
東京都渋谷区神宮前3-7-6
入館料 大人1,000円、学生（25歳未満）800円
出 品 写真――マン・レイ、アウグスト・ザンダー、ロバート・ラウシェンバーグ、アンディ・ウォーホル、アレン・ギンズバーグ、デヴィッド・ホックニー、ロバート・フランク、島袋道浩、ダイアン・アーバス、ロバート・メイプルソープ、ルネ・マグリット、デュアン・マイケルズ、寺山修司



ルネ・マグリット(1898～1967、ベルギー)《報われた美徳》1934年

「アンリ・カルティエ＝ブレッソン展」―大阪芸術大学所蔵作品

大阪芸術大学グループ創立60周年記念の一つとして、写真家アンリ・カルティエ＝ブレッソンの写真展が、サントリーミュージアム〔天保山〕で開催される。

フォト・ジャーナリストとして活躍しながら、1947年、ロバート・キャパらとともに写真家集団「マグナム・フォトス」を設立し、常に20世紀の写真をリードしてきたアンリ・カルティエ＝ブレッソンは、日常のふとした光景や人々の何気ない仕草を瞬時にとらえて完璧な構図を画面につくり出したことと、「決定的瞬間」という言葉で知られる。

2004年8月3日、95歳で生涯を閉じたカルティエ＝ブレッソンが生前に自ら厳選し構成したコレクションは、大阪芸術大学を含めフランス国立図書館など世界で4カ所にしか所蔵されていないもので、今回その411点が出展される。



アンリ・カルティエ＝ブレッソン「サン＝ジェルマン・デ・プレ，パリ，フランス，1969年」
© Henri Cartier-Bresson/Magnum Photos Tokyo

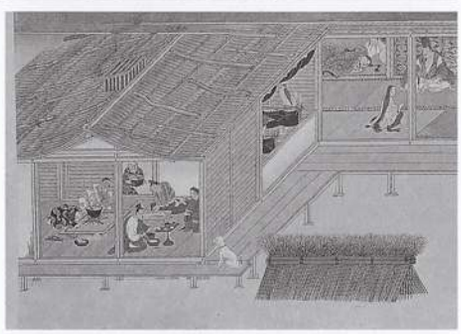
会　期　2006年3月11日(土)～4月16日(日)
10：30～19：30
月曜日休館（ただし3/27、4/3は開館）
会　場　サントリーミュージアム〔天保山〕
大阪市港区海岸通1-5-10
地下鉄中央線「大阪港」駅下車徒歩5分
入場料　一般500円、60歳以上300円、学生無料

「京の食文化展―京料理・京野菜の歴史と魅力―」

本膳料理・精進料理・懐石料理からお番菜まで、京料理の歴史をたどり、食材の魅力を探る。

会　期　2006年3月11日(土)～4月16日(日)
10：00～18：00　月曜日休館
会　場　京都文化博物館・4階特別展示室
京都市中京区三条高倉
入場料　一般1,000円、大高生700円、中小生400円
出　展　(国宝)明月記、(重文)円山応挙画「七難七福図（福寿巻）」、酒飯論絵巻、黒漆塗紋蒔絵茶弁当、巨椋池の漁具、雲村画「蕪図」など。

招待券希望者は日本建築協会(TEL06-6946-6981)へ。



渡辺始興画「春日権現記絵」　巻十三（部分）　陽明文庫蔵

American Wood Design Awards 2006受賞作品

アメリカの木材を活用した日本の木造建築を表彰するデザイン賞American Wood Design Awards 2006は、全米林産物製紙協会が主催し、4回目となる。

応募総数は、メイン・プログラム103作品、特別プログラム17作品。審査委員は建築家の隈　研吾、播　繁、藤森照信、ロバート・ハルの4氏。

＊最優秀賞・非住宅部門／中国木材名古屋事業所
設計　福島加津也＋冨永祥子建築設計事務所
＊最優秀賞・住宅部門／風の輪
設計　五十嵐淳建築設計
＊優秀賞・審査員推賞／Ca（カルシウム）
設計　菅正太郎／すがアトリエ
＊優秀賞／粉浜の家Ⅳ
設計　竹原義二／無有建築工房
＊優秀賞／学校法人太田国際学園ぐんま国際アカデミー
設計　宇野亨／CAn＋小嶋一浩・赤松佳珠子／CAt
＊優秀賞／多摩川の住宅
設計　納谷学＋納谷新／納谷建築設計事務所
＊優秀賞／襲の家
設計　早草睦恵／セルスペース
＊優秀賞／T house
設計　藤本壮介建築設計事務所
＊優秀賞／週末住宅としてのツリーハウス
設計　柳川賢次
＊サステナブル木造住宅提案賞・審査員奨励作品／「エコ・キューブ」「エコ・チューブ」による一連の住宅作品
提案　古後信二／アトリエ・ラッツ

インテリアプランニング賞2006

㈶建築技術教育普及センターでは、快適性、機能性、安全性を満たし社会のニーズに応えたインテリアスペース（建築物内）をデザインした作品を表彰してきた。2006年の応募要領は、以下のとおり。

応募対象　2004年4月～2006年3月に完成したインテリア作品（新築・改修可）で、日本に実在するもの。応募作品の用途は問わず。
応募資格　応募作品の設計者で、インテリアプランナー、インテリアプランナーを含むグループ、インテリアプランナーの推薦のある個人・グループ
応募受付　2006年4月1日～4月20日。提出先／㈶建築技術教育普及センター〔インテリアプランニング賞2006〕係(〒104-0031　東京都中央区京橋2-14-1　TEL 03-5524-3105)
賞・入選　国土交通大臣賞1点100万円（税込み）
建築技術教育普及センター理事長賞1点50万円、優秀賞5点以内・副賞20万円
審査委員　鬼頭　梓（建築家）委員長ほか10名
応募図書　作品概要書はホームページ（http://www.jaeic.jp/）からダウンロード可。

名古屋デザインDO! 2006コンペ

「名古屋デザインDO!」の入賞者には名古屋への招待とワークショップへの参加の機会が与えられる。

テーマ　だれかのために―対話と協同―
対　象　国内外のあらゆるデザイン分野。テーマに即した斬新なデザインを募る。
資　格　40歳未満の個人またはグループの未発表作品。応募は1点／1名（グループ）。手数料不要。
審　査　第1次・第2次の2段階審査
応　募　ホームページの専用フォームか、CD-Rの郵送のいずれかで、2006年3月1日～4月10日に応募。応募作品1点は、5ファイル以内の作品画像でプレゼンテーションする。
賞　金　グランプリ1点200万円、金賞2点各50万円、銀賞5点各15万円、入選約15点記念品。
主　催　名古屋国際デザインコンペ開催委員会

詳細は、www.idcn.jp/compe/を参照。

第19回大阪市ハウジングデザイン賞受賞作品決定

大阪市内に過去5年以内に完成した民間マンションを対象とした「大阪市ハウジングデザイン賞」も19回を重ねた。今回は、133点の応募の中から審査（委員長三輪雅久）の結果、3点の共同住宅を選考している。

受賞作品は、①市民の多様な居住ニーズに応えている②土地特性を生かし大阪にふさわしい③デザインに優れ高い技術水準に支えられている、の3つの面で成果を上げている。

・大阪イーストガーデンズタワー（分譲）
所在地／城東区関目1丁目
設計施工／竹中工務店
・OSAKAフォレストスクエア（定期借地権付分譲）
所在／天王寺区筆ヶ崎町
設計／IAO竹田設計
施工／大林組：淺沼組・佐藤工業・徳倉建設共同企業体
・グランドメゾン大手前タワー（分譲）
所在地／中央区大手通1丁目、糸屋町1丁目
設計／日建設計　施工／鹿島建設

日本建築協会

月間の動き

【平成18年 1 月分】

理事会

第７回常任理事会
１月25日（水）16：00～17：30
出席者　佐野会長ほか９名
議　事（１）平成17年度収支見込みについて
（２）平成18年度常設委員会事業計画について
（３）後援・協賛名義の使用について
（４）常設委員並びにサポーターの募集について
（５）第７回日本建築協会賞の実施について
（６）その他

編集委員会

第９回編集委員会
１月11日（水）18：30～21：00
出席者　設楽委員長ほか４名
議　事（１）２月号「地方空港の時代」特集経過報告
（２）３月号「東海支部」特集経過報告
（３）４月号「都市再生の本質」特集企画報告
（４）５、６、７月号特集の報告
（５）作品作風の報告
（６）広告企画―単発の頁もの―の報告
（７）収支状況報告
（８）第５回読者と選ぶ「建築と社会」賞の実施
（９）創立90周年事業に向けて
第５回計画系分科会
１月５日（火）18：30～21：40
出席者　松田幹事ほか４名
議　事　４月号計画特集の企画
第６回計画系分科会
１月23日（火）19：00～21：00
出席者　松田幹事ほか３名
議　事（１）４月号計画特集の企画
（２）新年度の計画分科会の体制
第３回建築計画系分科会
１月20日（金）18：30～20：00
出席者　小林幹事ほか６名
議　事（１）７月号特集の企画
（２）今後のスケジュール
第１回インテリア・住宅系分科会
１月18日（水）18：30～20：45
出席者　高野委員ほか２名
議　事　５月号特集の企画
第８回構造分科会
１月13日（金）18：00～20：30
出席者　肥嶋幹事ほか６名
議　事（１）「構造の頁」の企画
（２）11月号構造特集の企画に向けて
（３）新年度の構造分科会
第５回設備分科会
１月10日（水）18：00～20：30
出席者　梶井幹事ほか６名
議　事（１）６月号設備特集の企画
（２）「設備の頁」の企画
第５回施工材料分科会
１月16日（木）17：00～18：00
出席者　平野幹事ほか４名
議　事　10月号特集の企画
第９回法令分科会
１月17日（火）14：00～14：45
出席者　片岡委員、山根委員
議　事（１）「法令コーナー」の企画
（２）８月号法令特集の企画
第10回作品作風小委員会
１月26日（木）19：00～20：00
出席者　中村副委員長ほか４名
議　事（１）作品の選定
（２）作品の掲載状況並びに掲載予定の報告
（３）「gallery」掲載報告・予定
（４）前回の編集委員会の報告
第10回広告企画小委員会
１月11日（水）17：00～18：20
出席者　渡邉副委員長ほか３名
議　事（１）１月号収入報告
（２）２月号「地方空港の時代」特集経過報告と広告収集状況
（３）３月号「東海支部」特集経過報告
（４）４月号「都市再生の本質」特集企画報告
（５）単発の広告企画頁について
（６）広告企画の報告
（７）創立90周年記念事業に向けて
（８）収支状況報告

出版委員会

第９回出版委員会
１月15日（木）18：00～18：50
出席者　上原委員長ほか９名
議　事（１）＜プロのノウハウ＞と特装本の経過報告
（２）進行中のテーマについて

事業委員会

第６回情報見学小委員会
１月12日（木）18：00～19：00
出席者　瀬戸川委員長ほか14名
議　事（１）12/14　４団体合同忘年会の報告
（２）本年度今後の見学会について
（３）来年度の見学会について
（４）その他

教育委員会

第３回工高生教育小委員会
１月20日（金）18：30～20：20
出席者　和田副委員長ほか５名
議　事　第52回工高生デザインコンクール募集規定の件

●訃報
〔名誉正会員〕岡橋 作太郎氏
2006年１月29日逝去　享年99歳
〔正会員〕　森本 史郎氏（㈱安井建築設計事務所）
１月27日逝去　享年55歳

ル・コルビュジエ／モノトーンの世界

ル・コルビュジエのモノトーン作品に焦点を当てる。
会期　2006年３月１日(水)～31日(金) 日・祝休廊
月～金11：00～19：00、土曜12：00～17：00
会場　アート・遊　TEL 06-6201-0221
大阪市中央区北浜３-２-24　北沢ビル１階
地下鉄・京阪「淀屋橋」駅下車徒歩２分
展示　「五人の女」「海は永遠に」「小さな告白」「直角の詩」「ユニテ」などオリジナル版画等約30点



「あすなろ夢建築」表彰式と山本理顕記念講演

大阪府が府内の高校生・専修学校生から小規模な公共施設のアイデアを公募する「大阪府公共建築設計コンクール」の、15回目の入賞作品が決定した。
「光あふれ、風そよぐーみんなのオアシスー」～大阪府営蜻蛉池公園内公衆トイレ～の最優秀作品賞に選ばれたのは、修成建設専門学校２年の稲見友亮さん。
入賞者９人の表彰式と記念講演会が挙行される。
日　時　2006年 3 月23日(木) 14：00～16：30
会　場　大阪市立中央青年センター・第１ホール
大阪市中央区法円坂1-1-35
TEL 06-6943-5021
参加費　無料
申込み　住所・氏名・電話番号、申込み人数を記入してハガキ、FAX、インターネットで下記へ。
大阪府公共建築室計画課 計画・保全グループ
〒540-8570　大阪市中央区大手前２丁目
TEL 06-6941-0351、FAX 06-6944-6831
http://www.pref.osaka.jp/koken/
締　切　2006年３月17日。ただし先着180名まで。
●表彰式　14：00～15：00
●記念講演「建築の役割」　15：00～16：30
講師／山本理顕(山本理顕設計工場、工学院大学教授)



1998年第39回毎日芸術賞、2001年第57回日本芸術院賞、2002年日本建築学会賞作品賞を受賞。現在、Jian Wai SOHO（北京市）、伴山人家-天津ハウジングプロジェクト（天津市）、横須賀市美術館、福生市庁舎を手掛ける。

第7回人間サイズのまちづくり賞

兵庫県主催の「第７回人間サイズのまちづくり賞」は、まちなみ・景観、建築、福祉、まちづくり活動の４部門に分けて実施され、今年２月８日に表彰式があった。表彰作品・活動は以下のとおり。

〔まちなみ・景観部門〕２点

神戸栄光教会／NHK神戸放送会館

〔建築部門〕７点

朝来市あさごふれあいプール「くじら」／日本量子波動科学研究所実証研究所／伊丹市大鹿交流センター／三田市立ウッディタウン市民センター／海を望む方舟美術館／小野市うるおい交流館エクラ／篠山市こんだ薬師温泉・ぬくもりの郷

〔福祉部門〕３点

イトーヨーカドー明石店／公立豊岡病院組合立豊岡病院／篠山市立篠山中学校

〔まちづくり活動部門〕６点

新川花回廊を作る会／北口・高木まちづくり協議会／三木城下町まちづくり協議会／歴史と出会えるまちづくり船場城西の会／味原川清流会／多田グリーンハイツ３地区まちづくり協議会



神戸栄光教会



NHK神戸放送会館

まちなみ・景観部門

建築部門



朝来市あさごふれあいプール「くじら」



三田市立ウッディタウン市民センター



小野市うるおい交流館エクラ



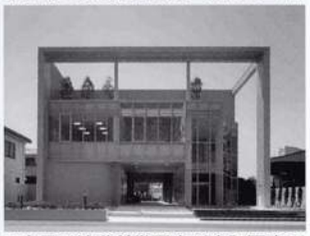
伊丹市大鹿交流センター



海を望む方舟美術館



篠山市こんだ薬師温泉・ぬくもりの郷



日本量子波動科学研究所実証研究所

第37回中部建築賞表彰

平成17年度の中部建築賞には、昨年８月31日募集締切で一般部門65作品、住宅部門32作品の応募があった。３回の審査会（審査委員長：藤木忠善）を経て、一般部門の入賞５件・入選７件・特別賞２件、住宅部門の入賞１件・入選３件が決まり、昨年12月14日に表彰式をすませた。主催は中部建築賞協議会。対象となった作品は、愛知・三重・岐阜・静岡・福井・石川・富山・長野・滋賀県に2005年３月31日までに竣工・改修・修復した建築物（建築群）。



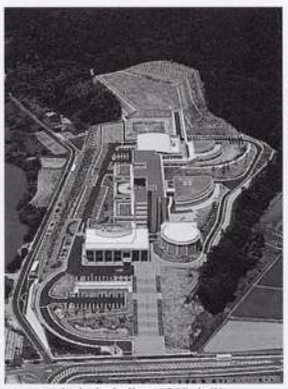
入賞 中国木材 名古屋事業所
愛知県海部郡弥富町
設計／福島加津也＋冨永祥子建築設計事務所
施工／竹中工務店名古屋支店



入賞 青少年公園茶室 香流亭
愛知県愛知郡長久手町
設計／都市計画研究所、堀尾佳弘建築研究所
施工／伊藤工務店



入賞 野々市町役場 新庁舎
石川県石川郡野々市町
設計／香山壽夫建築研究所　施工／鹿島・真柄・治山社・和泉特定建設工事JV



入選 日本赤十字豊田看護大学
愛知県豊田市白山町
設計／久米設計
施工／大林・大啓・須賀・住友電設・三栄JV



住宅部門・入賞 額田の家
愛知県額田郡幸田町大字深溝
設計／無有建築工房
施工／友八工務店



入賞 中部国際空港旅客ターミナルビル
愛知県常滑市セントレア

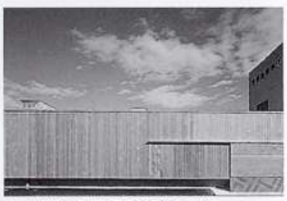
●設計・監理
日建・梓・HOK・アラップ中部国際空港旅客ターミナルビル設計監理共同企業体
●施工
その1工区：
大成・鹿島・大林・東急・戸田・ベクテル・佐藤・矢作　共同企業体
その2工区：
竹中・清水・鴻池・飛島・フジタ・ロッテ・名工・徳倉　共同企業体



入賞 岐阜県花のミュージアム　岐阜県可児市
設計／東急設計コンサルタント、一級建築士事務所CODE INC.、向井建築事務所
施工／青協・栗山特定建設工事JV、栗山組



入選 栄三丁目ビルディング・LACHIC
名古屋市中区栄３丁目　設計／日建設計
施工／清水・大成・鹿島・大林・三井住友・五洋・大木・矢作・錢高特定建設工事JV



住宅部門・入選 GONTAGON
愛知県一宮市大字更屋敷
設計／A-A。
施工／アーキッシュギャラリー



入選 岐阜県世界淡水魚園水族館アクア・トトぎふ　岐阜県各務原市川島笠田町
設計／安井建築設計事務所
施工／鹿島建設名古屋支店



入選 産業技術記念館10周年記念事業
名古屋市西区則武新町
設計／竹中工務店名古屋支店
施工／竹中工務店名古屋支店



入選 こばと幼稚園 絵本館
岐阜市島田西町
設計／仙田満＋環境デザイン研究所
施工／東建設工業



住宅部門・入選 イワタノイエ
静岡県磐田市見付
設計／渡邉隆、山本富夫、大城みゆき
施工／ユニティ、丸茂木工



入選 福井県立南越養護学校
福井県越前市上大坪町
設計／協同組合福井県建築設計監理協会
施工／木原建設株式会社・株式会社ウエキグミ建設工事JV、大和建設、上木建設、田中建設株式会社・株式会社竹内工務店建設工事JV、竹内工務店、北倡建設、北日本建設



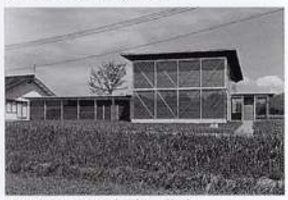
入選 福井県立病院 病院本棟
福井市四ツ井二丁目
設計／久米設計
施工／大成・竹中・前川元・西田・松尾・深谷JV



一般部門・特別賞 ノリタケの森
名古屋市西区則武新町三丁目
設計／大成建設
施工／大成建設名古屋支店



一般部門・特別賞 くらしの学校「だいだらぼっち」in 南信州「やすおか村」
長野県下伊那郡泰阜村6218-22
設計／環境プランニング　施工／ヤマウラ飯田支店



住宅部門・入選 押水の住宅
石川県羽咋郡宝達志水町坪山
設計／一Architect Office— Strayt Sheep
施工／岡田建設工業



設計者の想いに、技術と感性でこたえる。　株式会社INAX　中部統括支社　☎052-310-1700　http://www.inax.co.jp/



UNION
建築文化を創造する
株式会社ユニオン

ITEM
建築用ドアハンドル
レバーハンドル
消火器収納ケース アルジャン
ドアストップ エッセ
安全・安心設計ドア ユニフリード
キャスタル+メタルアート
ケアシステム ハンドバー
フロアシステム
サインシステム ピクト
視覚障害者誘導用 ナビライン
都市景観ヒューランドスケープ
クロセット

iso 9001　iso 14001

www.artunion.co.jp



2006年度版新カタログ発刊
ぜひ、ホームページよりご請求
ください。

本社
〒550-0015
大阪市西区南堀江2-13-22

大阪支店
〒550-0015
大阪市西区南堀江2-13-22
tel 06-6532-3731
fax 06-6533-2293

東京支店
〒135-0021
東京都江東区白河2-9-5
tel 03-3630-2811
fax 03-3630-2816

名古屋営業所・ショールーム
〒454-0805
名古屋市中川区舟戸町3-20
tel 052-363-5221
fax 052-363-5255

上海事務所
Room 305, 555 Building,
555 Nanjing Road West,
Jingan District Shanghai 200041 PRC
tel 86-21-52130430
fax 86-21-52130431

北京事務所
Room 1903, 19F, Block A,
Disanzhiye Building (Dongyu Building),
Jia-1 Shuguangxili,
Chaoyang District Beijing 100028 PRC
tel 86-10-58220780
fax 86-10-58220779

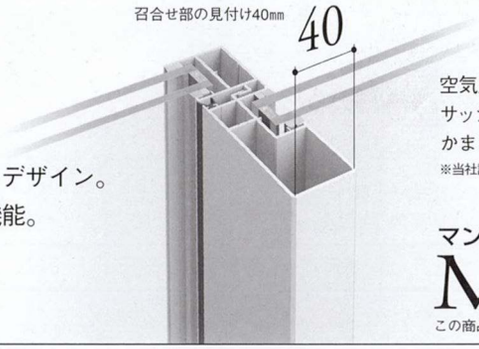
アトリエユニオン／東京
〒103-0022
東京都中央区日本橋室町4-5-1
tel 03-3517-1818
fax 03-3517-1819

アトリエユニオン／大阪
〒550-0015
大阪市西区南堀江2-13-22
tel 06-6532-8920
fax 06-6533-0224

三協アルミ

Fusion

スリムでありながらスケールを感じるデザイン。
シンプルでありながら高い性能と多機能。



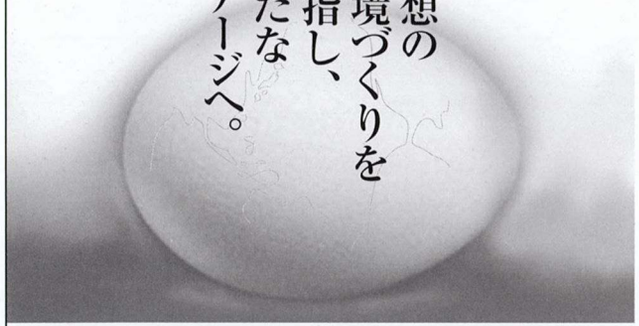
空気層12㎜の複層ガラスに対応する枠見込み90㎜のサッシ(業界初※)。見付け40㎜のスリムな召し合わせかまちがシンプルでシャープな内外観を演出します。
※当社調べ

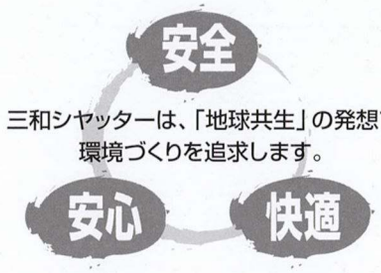
マンション用サッシ
MTG-90series
この商品は、三協アルミ・新日軽・立山アルミが共同開発したものです。

三協アルミニウム工業株式会社　名古屋ビル建材支店/〒464-0807 名古屋市千種区東山通5-65 東山ビル1F TEL.052-788-2156 http://www.mtg-series.net/

三和シャッター

理想の
環境づくりを
目指し、
新たな
ステージへ。





三和シャッターは、「地球共生」の発想で
環境づくりを追求します。

雨や風から守るシャッター、
住まいやビルの中をやさしく仕切るドア、
街並みに調和するファザード・・・。
三和シャッターがお届けする
製品の中心には、いつも「ひと」がいます。
暮らしもビジネスも変わりつつある
21世紀だからこそ、
「ひと」を基本にした発想が大切。
そんな想いを原点に、安全・安心・
快適を追求した高品質な商品を提供し、
時代に合わせた理想の環境づくりに
取り組んでまいります。

三和シャッター工業株式会社　中部営業推進部　〒450-0003　愛知県名古屋市中村区名駅南3-6-13　☎052-551-5700　http://www.sanwa-ss.co.jp/

デンカCSAファミリー製品

●デンカCSA（膨張性混和材）　コンクリートのひびわれ防止に
●デンカタスコン（グラウト用無収縮材）　鉄骨ベース、逆打部の充填モルタルに
●デンカキューテックス（止水・補修用急硬セメント）　コンクリート躯体の漏水補修に
●デンカES（土質安定用急硬材）　地盤補強用薬注入
●デンカΣ1000（製品用超高度混和材）　コンクリートパイルの早期出荷とハイモメント製造用に

電気化学工業株式会社
近畿地区販売店

浜宗産業株式会社
TEL 本社・京都・京丹後（0772）72－2220
舞　鶴（0773）76－0133

金森藤平商事株式会社
TEL 大阪（06）6332－6861
TEL 東京（03）3272－8501

小浦産業株式会社
TEL 大阪（06）6443－6181

光洋物産株式会社
TEL 大阪（06）6252－6000

東郷化成株式会社
TEL 滋賀・守山（0775）83－2381
TEL 大阪（06）6877－1581

空調・衛生・クリーンルーム設備
（設計・施工）

朝日工業社

本社・本店　東京都港区浜松町1-25-7　電話03(3432)5711
大阪支社　大阪市淀川区加島1-58-59　電話06(6302)2270
支　　店　北海道/東北/北関東/横浜/名古屋/中国/九州

電気設備工事設計施工

東光電気工事株式会社
関西支社

支社長　竹澤秀昭

大阪市中央区高麗橋4丁目3番7号　電話大阪(6202)0325～9番
本　社　東京都千代田区西神田1丁目4番5号
支　社　北海道・東北・丸ノ内・新宿・神奈川・東関東・北関東・中部・九州

電気・空調・衛生・防災・産業廃水設備
設計施工

ダイダン株式会社

本店・大阪本社　〒550-0002 大阪市西区江戸堀1丁目9番25号　電話(06)6441-8231
東京本社　〒102-0071 東京都千代田区富士見2丁目15番10号　電話(03)3261-8231
支　社　名古屋・福岡
支　店　札幌・仙台・新潟・大宮・千葉・横浜・金沢・京都・神戸・天理・岡山・広島・高松・熊本
営業所　帯広・函館・青森・秋田・盛岡・前橋・長野・静岡・豊田・津・富山・福井・徳山・松山・高知・北九州・鹿児島・那覇
出張所　旭川・福島・川崎・松江・徳島・下関・長崎・大分・宮崎
海外支店　シンガポール・ホンコン
技術研究所　〒354-0044 埼玉県入間郡三芳町大字北永井390番地　電話(0492)58-1511

より快適な水環境をめざして
給排水衛生設備，冷暖房設備，消火設備の設計，施工

株式会社 西原衛生工業所 大阪本店

大阪本店　〒531-0071 大阪市北区中津六丁目8番4号
TEL 06-6458-3628(代表)
本　社　〒108-0023 東京都港区芝浦三丁目6番18号
TEL 03-3452-7441(代)
支　店　札幌・東北・新潟・東関東・横浜・名古屋・九州

空気調和設備　産業設備
給排水設備　水処理施設
電気設備　環境施設

三機工業株式会社

取締役社長　宅　清光
常務執行役員関西支店長　丸岡敏峯

関西支店　大阪市淀川区宮原3-4-30 ニッセイ新大阪ビル
本　社　東京都中央区日本橋室町2-1-1 日本橋三井タワー
http://www.sanki.co.jp

OKUJU
Space Creator

クオリティ＆コストパフォーマンス

ALTsシステム
スナップ工法

SP-600
メタルシステム天井

内外装創作パネル・システム天井・間仕切

株式会社オクジュー

本　社
大阪市北区西天満5丁目3番7号　〒530-0047
TEL(06)6312-4131　FAX(06)6312-7998
東京・九州・南九州・名古屋・上海

CHOYO

人がいる多彩なフィールドで、
新しい限界に挑戦しています。

電気設備設計施工

朝陽電気株式会社

代表取締役　山本貴士

本　社　〒530-0005 大阪市北区中之島三丁目2-4(朝日ビル)
TEL 06(6385)1361(代)　FAX 06(6385)1050

Digital Pri-Press

AOBA PRINTING CO.,LTD.,

代表取締役社長　依藤孝行

青葉印刷株式会社

〒534-0027 大阪市都島区中野町2丁目10番11号
Phone.06-6351-5428 Fax.06-6351-5299

空調衛生・冷凍冷蔵・地盤凍結
よりよき環境へ技術で挑む

株式会社精研

本　社　大阪市中央区瓦屋町2丁目11番16号(オートセンタービル1・2階)
〒542-0066 電話 大阪 (06) 6768－5031代表
メンテナンス　電話　大阪 (06) 6768－1651代表
東京支社　東京都文京区小石川1丁目12番14号(日本生命小石川ビル7階)
〒112-0002　電話 (03) 5689－2351代表

www.naniwa.com

We have hope

■印刷事業　ポスター、カタログ、パンフレット、書籍、年鑑、社史、雑誌、文字、画像データ処理
■メディア事業　SPプランニング・コンサルティング、ITソリューション、web及びメディアコンテンツ企画制作、

株式会社NPCコーポレーション

本　社　〒530-0043 大阪市北区天満1-9-19
tel:(06)6351-7271(代) fax:(06)6352-7479
第二ビル　〒530-0043 大阪市北区天満1-11-8
tel:(06)6351-0128(代) fax:(06)6351-0208
東京支社　〒105-0004 東京都港区新橋6-17-2
tel:(03)3433-5211(代) fax:(03)5776-7733
(旧社名ナニワ印刷㈱、日本データネット㈱)

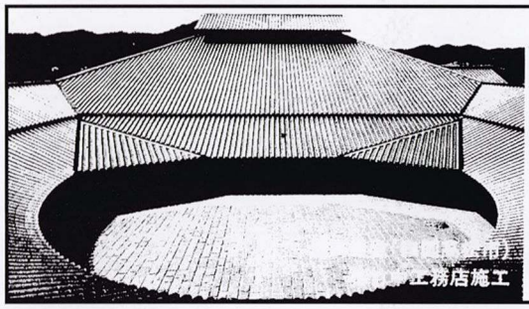
地球環境を守り、100年建築に貢献する

NACL のアルミ表面処理

株式会社日本電気化学工業所

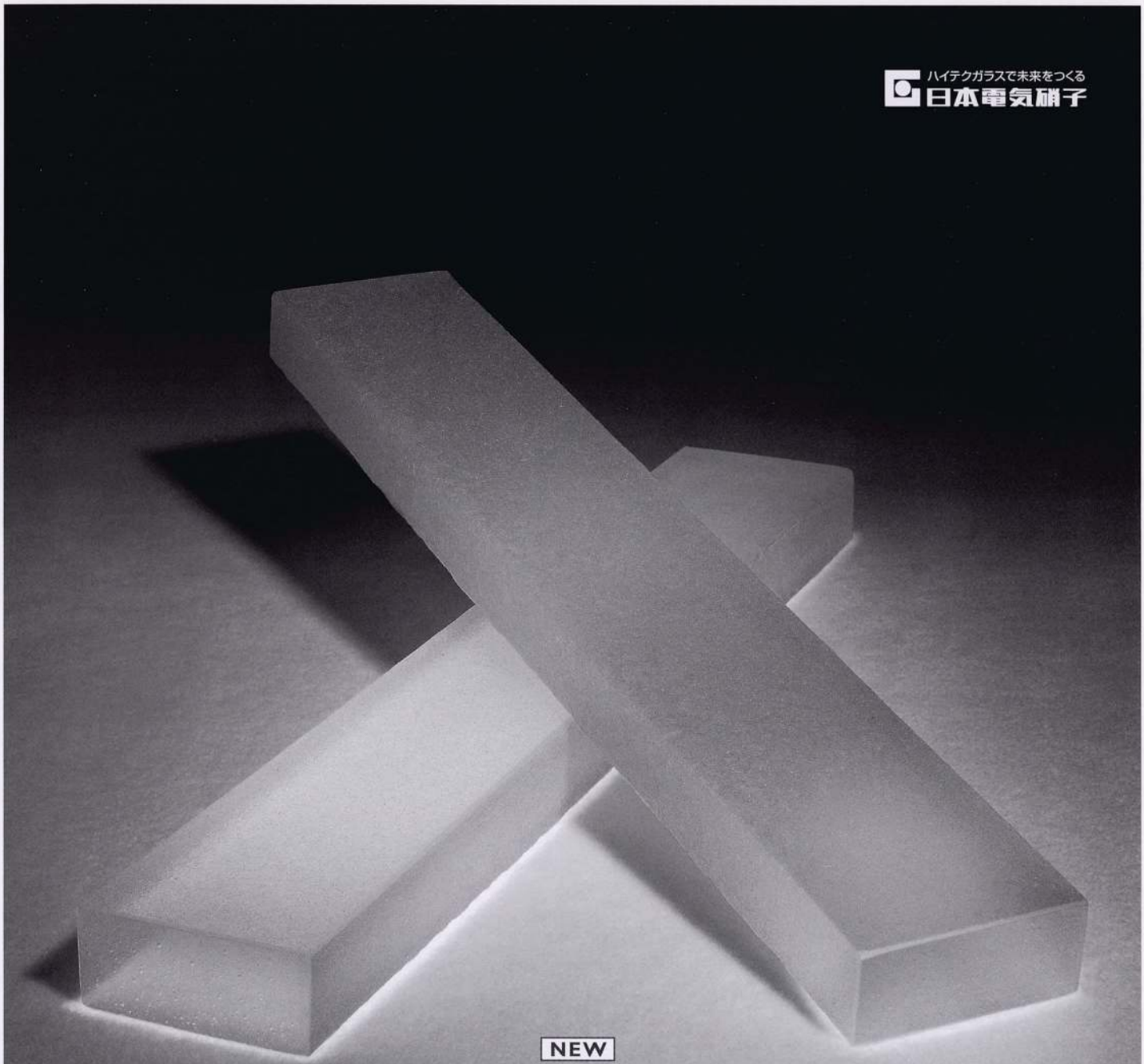
http://nacl.jp　E-mail:sc@nacl.co.jp

本部営業部　〒560-0036 大阪府豊中市蛍池西町2丁目7番26号 NACLﾋﾞﾙ2階
TEL (06)6843-1235(代) FAX (06)6853-1632
東京事務所　〒111-0051 東京都台東区蔵前2丁目7-2 東京NACLﾋﾞﾙ
TEL (03)3862-0978(代) FAX (03)3862-7098



〒556-0024
大阪市浪速区塩草一丁目二番三号
ナニワ瓦株式会社
あらゆる屋根工事の相談は、
ファックス　六五六一～七四五四
☎　六五六一～七四一六

ハイテクガラスで未来をつくる
日本電気硝子



NEW

GlassOre BAN

グラソア BAN

ニュアンスある光を、纏(まと)い奏でるマテリアル

光と幻想的にまどろみ、クロスする
無垢なガラスのマテリアル、グラソア BAN。
微妙な光のニュアンスで、
それぞれが個性ある表情を見せます。

お問い合せ・カタログについては、下記までお気軽に。

■建材事業本部 営業部／東京:(03)3632-7780 大阪:(06)6399-2728 ■代理店ショールーム／東京:日本硝子建材株式会社(03)3632-7721 大阪:エヌイージー建材株式会社(06)6392-2711

ハイテクガラスで未来をつくる
日本電気硝子

【代理店】●株式会社建材社／札幌(011)736-1137 釧路(0154)31-1131 苫小牧(0144)74-1651 旭川(0166)48-5935 帯広(0155)36-5191 函館(0138)49-8072
●日本硝子建材株式会社／仙台(022)254-8411 高崎(027)325-3220 東京(03)3632-7721 横浜(045)661-1531
●エヌイージー建材株式会社／名古屋(052)522-5491 金沢(076)243-1058 大阪(06)6392-2711 広島(082)502-0081 高松(087)866-8822 福岡(092)483-3371

日本電気硝子のガラス建材製品 | ガラスブロック | ネオパリエ | ラピエ | ファイアライト | グラソア | アクラス | チュービー | ペルーナ | 放射線遮蔽用鉛ガラス(LX) | 真空式ソーラーシステム

■会社情報 http://www.neg.co.jp/ ■建材製品情報 http://www.neg.co.jp/kenzai/ ■ソーラー製品情報 http://www.neg.co.jp/solar/

社団法人 日本建築協会　〒540-6591 大阪市中央区大手前1-7-31　電話:06-6946-6981 FAX:06-6946-6964 http://www.aaj.or.jp
毎月1回1日発行　昭和24年3月19日第3種郵便物認可　ISSN 0912-8182
定価1,200円(税込)　注会員の講読料は会費に含めて徴収

日本全国
いつでも、どこでも、なんでも
建設工事用仮設鋼材
建設機械・請負工事の
システム・ネットワーク。



ジェコス株式会社

本　社／〒103-0016　東京都中央区日本橋小網町6番7号（第2山万ビル）
TEL 03（3660）0777（代表）
大阪営業本部／〒553-0003 大阪市福島区福島7丁目20番1号（KM西梅田ビル）
TEL 06（6455）2411（代表）　URL http://www.gecoss.co.jp.